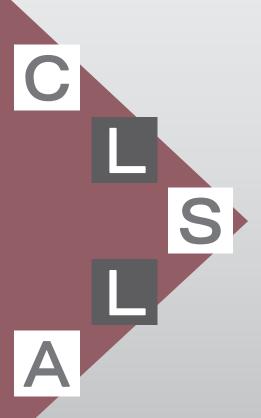
# 学習支援センター(SLAサポート) 年次活動報告書 2017年度

Annual Report 2017 / Center for Learning Support(SLA Support Office)



東北大学 高度教養教育·学生支援機構 Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University

# 学習支援センター (SLA サポート) 年次活動報告書 2017年度

# 2017年度ダイジェストトピック10

# 「『レポート指南書』入門ゼミ」実施

1年生に入学時配布される『東北大学レポート指南書』と連動した「『レポート指南書』入門ゼミ」を開催。ライティング支援の強化推進を図った。 [関連ページ: pp.14-16, p.42, p.44]



# SLA による企画の開発・実施

イベント参加型企画として「雑談会」「考えるソファ」、展示型企画として「チャレンジボード」「コタエテ! SLA」を実施した。

「関連ページ: pp.45-46]



# 『学習支援ハンドブック』作成

SLA 実践8年間の蓄積を元に、知見を総括した冊子を作成。理系チュータリングのコツについてはSLAが執筆した。

[関連ページ: p.29]



# SLA による知見資料『SLA Tips』作成

SLA の個々の気づきや、担当科目部会での議論・レクチャーをより 共有・継承可能な形とするため、知見を資料化した。

[関連ページ: pp.30-32]



# 「ライティング支援ページ」を web で公開

ライティング支援の情報を集めたページを作成し、学習支援センターのホームページに作成。学生向け、教員向けの2ページを設けた。 [関連ページ: p.42]



# CLS 学びの転換セミナーを開催

学生の主体的・自律的な学習を促進し、「学び合い」文化を醸成することを企図したセミナーを 2 回開催した。

[関連ページ: p.52]



# 学外での活動報告

関西大学主催の「交渉学ワークショップ」に参加し、企画 SLA が活動報告を行った。

[関連ページ: p.64, p.136]



## 3大学合同研修の実施

福島大学・北海道大学と合同で研修会を開催。自らの活動を客観視し、活動や能力の向上を図った。

[関連ページ: p.100]



## 初任者講習の初実施

従来 OJT で行っていた初任者研修に加え、学習支援について学ぶ 初任者講習を初めて実施した。

[関連ページ: p.90]



# ビデオリフレクション実施

SLA 自身の学生対応の様子をビデオに録り、振り返りを行うビデオリフレクションを前期に実施した。後期はピアレビュー実施を推奨した。 [関連ページ: p.91]



#### 巻頭言

#### ひとりのすすめ

#### 学習支援センター長 芳賀 満

ブッダは「犀の角のようにただ独り歩め」と言う (中村元訳『ブッダのことば スッタニパータ』岩波文庫、1984年)。孤独であれ、一人で探究せよ、との意である。

これは、出会い、繋がり、協働、絆を、最重要の行動規範とする昨今の風潮に逆らう。しかしこういった標語は社会に溢れてはいるが、繋がりはそんなに良い、大事なことなのか。現代の我々は本当に出会っているのだろうか。絆は牛馬を引き留める綱、人間にとっては束縛でしかない。巷に溢れ推奨・賛美されるこれらのことは、実は表面的な承認要求の互助制度でしかないのではないだろうか。むしろ互いに邪魔して互いの時間と栄養を奪い合っているのではないか。ゆえに苛立ちと呵責の方が支配的なのではないか。そのような人間関係から距離をおいて、ひとりで感じ考えることこそが、鋭い世界認識をゆったりと成長させ、心の滋養となるのである。まずは独りで歩むことを覚悟して、それを三昧すべきなのである。

同時にブッダは、「学識ゆたかで真理をわきまえ、高邁・明敏な友と交われ。いろいろと為になることがらを知り、疑惑を除き去って、犀の角のようにただ独り歩め」(韻文58)とも言う。まさに「ともそだち」の薦めである。だからちょうどブッダのように、勧請されたら説くのが Student Learning Adviser なのであるとは言えまいか。

大学の本務はあくまで研究である。しかし教育がなければ、研究という起爆の原点は点で終わるだけであって、その周りの2次元、遠くの3次元、世代を超えて4次元に拡がらない。「犀の角のようにただ独り歩」む研鑽という研究を重ね、悟りという研究成果を得てブッダと成っても彼は、当初その成果を自分だけで三昧し、誰にも教えるつもりなかった。しかし梵天が教えを勧請した結果、ブッダはサールナートで研究成果を初めて後輩達に教える。初めて法輪が廻ったこの初転法輪は教育行為以外の何ものでもない。そしてそれが仏教という宗教が成立した瞬間でもある。それほどに、研究と共に、教育は社会にとって大事なことである。

しかし斯くして、友交の後には各々はまた独りで歩く。引き籠もりではない、独立した人格形成を経た美しい孤独同士であるがゆえの生産的な交錯と離脱、あるいは放下。朗々と鳴り響くような豊穣な孤独をこそ、人生と学習の玄理として欲しい。

# 目次

巻頭言 「ひとりのすすめ」		芳賀満 3
◆2017 年度事業概要・成果		5
第1部 論考・センタースタッフによる年次成果報	<b>8.</b>	7
1. 学習支援センターにおける SLA サポート事業		/
	ジルボと味過 设立からの4年間をの経緯を踏まえて―	佐藤恕子 (7)
2. 利用者アンケートから見る 2017 年度の傾向	(立かりの4 平向をの座牌を囲まれて	鈴木真衣 (11)
		邓小吴公(11)
<ol> <li>企画発信型ライティング支援の成果と課題         ー「レポート指南書入門ゼミ」の</li> </ol>	つ字体について	超 羽廷 (14)
		賴 羿廷 (14)
4. SLA 実践開発 8 年間の失敗クロニクル ―現場	の証言記録として一	足立佳菜 (17)
第2部 活動報告		
1. センター概要		21
2. 2017 年度の重点活動		28
1) 『学習支援ハンドブック』作成 (29)		
2) 『SLA Tips』作成 (30)		
3. センター活動・実績報告		33
1) 理系科目支援(物理・数学・化学)(34)	2) 英会話支援 (39)	
3) ライティング支援 (42)	4) 学習イベント企画 (45)	
5) 利用学生評価 (48)	6) 自主ゼミ支援 (50)	
7) CLS "学びの転換"セミナー開催報告		
8) その他活動(学内連携、訪問受入、講	` /	活動) (64)
1) 本年度の活動概要 (66)	2) 物理部会 (67)	
3) 数学部会 (70)	4) 化学部会 (73)	
5) 英語部会 (76)	6) ライティング部会 (80)	
7) 企画部会 (83)		
5. SLA の採用と育成・研修活動実績報告		87
	2) SLA 育成の概要 (89)	
3) 初任者研修・『SLA ハンドブック』(90)		
5) 活動説明会・活動報告会 (92)		
7) シニア SLA の活動 (99)	8) 3 大学合同研修の実施 (100	))
9) SLA 共通研修 (102)	10) 振り返りシートおよび個別	
6. SLA による活動振り返りレポート		109
○ [卒業生] 澁川友菜 (109)	○ [卒業生] 祝釗 (111)	107
(107)		
第2部内掲載論稿一覧		
○「哲学的対話実践(てつがくカフェ)」について		
	西村高宏、福井医療大学・准教授	近田真美子(53)
○相手の心をつかむ「お笑い」コミュニケーション		
一元漫才師公務員の「お笑い行政講座」実践から	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	:昇、桂山智哉(57)
	度教養教育・学生支援機構・講師(当時)	
The second secon	TOTAL TOTAL TOTAL STREET (A.A.	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
◆資料		
A. 利用者アンケート結果 (コメント有・全デー	-タ)	113
B. 夏期研修ワークショップ成果物		
C. 2017 年度発行ポスター		
D. 2017 年度学習支援センター活動略歴		

# ◆2017年度事業概要・成果

- 1. SLA サポートシステムの開発・実施(総合)
- ■目標 ① 理系科目支援:サポートシステム運営を効率化しつつ、SLA の育成を通してサポートの質を向上させる。正課教育(担当科目委員会)に対して、学修情報を定期的かつ継続的にフィードバックできる組織運営体制を確立する。
  - ② ライティング支援:ニーズの創出を含めた支援体制の構築を図る。
  - ③ 授業連携型支援:センターと授業担当教員の双方にメリットのある連携体制を構築する。
  - ④ 自主ゼミ支援:環境支援の維持・充実化を図る。

#### ■活動・達成状況

- ① 理系科目支援:平日2講時~5講時の一部の時間において、ドロップイン(予約不要)の 形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるという窓口対応の支援活動を行った。利 用者数は、延べ人数800人(実数240名)だった。
- ③ ライティング支援:窓口対応に加えて、「指南書入門ゼミ」を定期的に実施した(参加者数は延べ88人)。また、留学生への日本語ライティング支援体制を開始した。
- ④ 授業連携型支援:授業連携体制の見直しを図った。
- ⑤ 自主ゼミ支援: 教室貸出を中心に3ゼミ(115名)を支援した。
- 2. SLA サポートシステムにおける英会話支援(SLA de 英会話)の開発・実施
- ■目標 ① 前年度拡大した活動規模を維持し、継続利用者を増加させる。
  - ② 英会話に関する学習支援として、多様な学生の学習ニーズに対応する支援体制を構築・改良する。

#### ■活動状況

- ①「英会話カフェ」と「1 on 1 英会話」の2 形態で支援活動を行った(後期セメスターは「英会話カフェ」のみ)。利用者数は延べ486人(実数110人)、うち継続利用者数(2 回以上の利用者)は54%(実数値での割合)だった。
- ② 英会話カフェで使うコミュニケーション・ゲームや教材を整理し共有するとともに、英会話における学習支援についての理解を SLA 間で深めた。利用者アンケートの結果、利用についての総合満足度の平均は 97.2 点(回答者数 377 人)だった。
- 3. 学習イベント(企画発信型学習支援)の開発・実施
- ■目標 ① 先輩学生が自身の経験や研究内容を紹介する「先輩×学問ゼミ」を継続的に実施する。
  - ② 授業時間外の学習を促す環境整備として、掲示や SNS 利用による情報発信など、学習機会を日常的な場面に埋め込む企画を考案・実施する。
  - ③ 「SLA 式アカデミックスキル入門セミナー」を実施し、ライティングスキルを中心とした大学生に必要なスキルについてのセミナーを実施する。その際、単なる知識提供ではなく、アクティブラーニングを促進するプログラム設計を意識する。
  - ④ 学生の「学び合い」を促進するため、学生のコミュニケーション力などのコンピテンシー 向上に効果的なワークショップを継続的に実施する。

#### ■活動・達成状況

- ① イベントとしては「先輩×学問ゼミ」の趣旨を盛り込んだ企画「SLA カフェ」を実施。その他、授業(基礎ゼミ)内で複数名の SLA に話題提供をもらい、その内容をセンターの発行物に掲載した。
- ② 常設型 (掲示型) の学習支援企画「チャレンジボード」「コタエテ! SLA」を開発・実施した。
- ③ 「『東北大学レポート指南書』入門ゼミ」を定期開催した。
- ④ 「考えるソファ」を後期に7回開催し、延べ29名の参加を得た。日本語カフェを試行的に17回実施し、参加者は延べ17名だった。SLA研修と連動する形で、一般公開型の(学内外教職員、大学院生対象)学習イベント「CLS 学びの転換セミナー」を2回開催し、延べ95名の参加があった。

#### 4. 学習支援者 (SLA) 育成プログラムの開発・実施

- ■目標 ① 学習支援者として必要な資質・能力を明示し、研修プログラムを体系化する。
  - ② 研修教材を開発する。
  - ③ 研修合宿や他大学との連携研修の機会を設け、多角的な視点で SLA の活動を捉えられる 人材を育成する。
  - ④ SLA 学生同士の学び合いを促進し、持続的な組織運営の基盤を構築するため、「シニア SLA 制度」を運用する。
  - ⑤ 科目別の部会活動を充実させると同時に、共通研修を適宜開催する。

#### ■活動・達成状況

- ① 学習支援者として SLA を育成するための研修プログラムを体系化し、計画的に実施した。 SLA 初任者講習を初めて実施し、夏期研修を 2 日間行ったほか、学内講師招へい型の研修を 1 回、学外講師招へい型の研修を 2 回、他大学との合同研修を 1 回実施した。
- ② 研修教材として、理系科目支援についてまとめた『学習支援ハンドブック』を作成した。
- ③ 北海道大学、福島大学との合同企画により、学生スタッフ交流・研修会(3月5日)を実施。また、SLA 夏期研修を9月11、12日に実施し、対象 SLA の45.1%(23名)が参加した。
- ④ シニア SLA 制度の運用を継続し、7名のシニア SLA が活動した。
- ⑤ 科目別の部会ミーティングを全 8 回定期開催した (ただし企画部会は全 10 回)。出席率は前期平均 72%、後期平均 83% (企画 SLA は前期 97%、後期 100%) だった。共通研修は「リフレクション」をテーマとしたものなど計 3 回開催した。

#### 5. 学習情報フィードバックシステムの構築

- ■目標 理系初年次科目を中心とした学修情報を担当教員・委員会に継続的にフィードバック可能 なシステムを設計・試行し、正課教育の改善に寄与する。
- ■活動・達成状況 対応事例の記録方法を見直し蓄積した基礎データを、センターHP から公開(学内のみ)した。ただし、公開の内容について各科目委員会への確認を要し、フィードバック方法については課題が残った。

# 第1部 論考・センタースタッフによる年次成果報告

# 学習支援センターにおける SLA サポート事業の成果と課題 高度教養教育・学生支援機構設立からの 4 年間を振り返る(2014~2017 年度)

佐藤 智子

#### 1. はじめに

#### (1) 学習支援センターにおける SLA サポート事業の位置づけ

2014年度、高度教養教育・学生支援機構設立と同時に設置された学習支援センターは、2017年度で4年目を迎えた。学習支援センターの前身は、2010年、東北大学アクションプランにおける教育改革の一環として始められた「全学教育学習支援プロジェクト: SLA システム」により設置された SLA サポート室である。その後、2013年度には高等教育開発推進センターに配置されるが、高等教育開発推進センターを含めた改組により、現在は高度教養教育・学生支援機構にある 11 の業務センターの1つとして位置づいている。

高度教養教育・学生支援機構では、発足から 4 年となる 2017 年度までの自己評価および外部評価が実施された。それを機として、学習支援センターに於いても、SLA サポート事業について 4 ヵ年の自己評価を実施した。

現在の学習支援センターは SLA サポート事業のみを行っているわけではないが、現在も SLA サポート事業は当センターの主要事業である。学習支援センターは、その使命の第 1 に「学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する」と掲げている。東北大学の学生が「生涯にわたって主体的に学び続ける」学習者となる上で必要な学習支援を、SLA サポート事業を通して行う事を目標としている。

SLA サポート事業は、学生である SLA (Student Learning Adviser) が学生の学びを支援するというピアサポートの特徴を持っている。学生相互の学び合いを支援方法の核とする事で学生が気軽に支援を受けられる機会の創出し、初年次学生の「学びの転換」を促進すると同時に、支援者となる学生にとっては学びの成果を活かし深める機会となっている。このように、学生の授業時間外学習や正課外活動から教養教育の高度化を推進し、さらには正課内外を横断する学習支援の体制整備や方法に関する研究・開発・実践を通して、キャンパス全体の学び合い文化の醸成を図る事を目指している。

#### (2) 高度教養教育・学生支援機構設立および学習支援センター設置の経緯

東北大学では、1993 年 3 月に教養部を廃止し、翌 4 月より大学教育支援センターを設置した。その後、2004 年 10 月以降は高等教育開発推進センターに改組され、さらに 2014 年には、そこに他のセンター等(国際交流センター、グローバルラーニングセンター、教養教育院等)を含めて改組・拡充されたのが、現在の高度教養教育・学生支援機構(以下、機構)である。

その経緯としては、以下の通りである(以下、機構自己評価における機構設立の背景・経緯紹介より要約)。2012 年度 4 月に第 21 代総長に就任した里見進総長の下、教育関連課題の 1 つとして、教育組織再編が挙げられた。様々な教育組織が独立していて分かりにくく、教育への責任の所在が不明確という問題である。2012 年度後半には「里見ビジョン」がまとめられ、最終的な当ビジョンにおける教育ビジョンが、学生が国際社会で力強く活躍できる人材へと成長していくための場の創出であった。この教育ビジョンの実現に向けて 3 つの重点戦略が立てられた。その 3 つの重点戦略が

「グローバルリーダーを育成するための教養教育の充実を核とする教育改革」、「グローバルな就学環境の整備」、「学生支援の充実・強化」であった。

2013 年度には「全学的教育・学生支援体制検討ワーキング・グループ」が設置され、同年9月に報告書「教養教育および学生支援のための新しい体制の整備について:高度教養教育・学生支援機構の設置」がまとめられた。その後に設置準備委員会が発足し、その議論の成果が報告書にまとめられ、従前の6つの教育組織を統合した機構が2014年4月に正式に発足した。機構には教育研究活動を行う3部門9室および教養教育院が設置され、さらに11の業務センターも配置されている。

以上のように、機構の設立には、グローバル人材育成の重要性認識と、東北大学の教養教育の在り方および学生支援充実の議論が背景となっている。学習支援センターの前身である SLA サポート室はそれ以前の 2010 年に設置されているが、これも全学教育改革の一環として発足した経緯がある。つまり、当センターは、東北大学における教養教育改革の流れの中で、学生支援を充実化するために設置されたものである。

#### 2. SLA サポート事業の成果と課題

#### (1) SLA サポート事業の活動内容

SLA サポート事業では、全学教育課程で学ぶ全学部の学生を対象に、理系科目(数学・物理・化学)、英会話、ライティングについての学習相談窓口開設を行っている。そのために SLA 制度を整備・運用し、学部生を含む学生を SLA として雇用している。このような「個別対応型学習支援」を通して、学生個々の個性や状況、あるいは個別の課題に応じた支援を行い、大学での「学びの転換」とスタートアップ支援を行っている。同時に、学習ワークショップ等のイベント企画を行う「企画発信型学習支援」により、科目の枠にとらわれない学際的・俯瞰的な視野を培う機会を学生に提供し、高度な教養へと学習を深化させるための支援を実施している。

具体的な事業目的としては、①高度化する「知」の獲得のフォローアップ支援、②異なる学年や分野の学生同士の交流機会の創出、③学生が学び合う場(学びのネットワーク)の創出とその過程の支援、④多様な「知」としての教養に触れる事のできる学習機会、あるいは学生が自らの興味関心に応じて学際融合的な視点から学習する事のできる機会の提供、等を目指して活動している。

①は、主には、個別対応型学習支援において対応・実施している。また、大学教育の基礎として近年特に重要視されているアカデミック・ライティングの学習機会として、2017年度に、『東北大学レポート指南書』に準拠したワークショップ「レポート指南書入門ゼミ」(全 5 回)を定期開催した。

②は、例えば英会話支援において実現している。SLA サポートにおける英会話支援では、1~2名の SLA が複数の利用学生に対して実施するワークショップである「英会話カフェ」と、個別対応を基本とする「1 on 1 英会話」という 2 つの形態で支援活動を行っている。特に「英会話カフェ」は、多様な学年・専門分野の学生が共に英会話を学び、実践する場となっている。英会話のテーマや内容についても、学生に身近な話題、留学に活用できる話題等を取り上げる工夫を行っている。

③は、個別対応型支援に加え、自主ゼミ活動を行う学生グループの支援を行っている。

④は、特に 2016 年度以降、重点的に事業を拡大させている。特に企画発信型学習支援の内容については、各年度において様々な企画を試行し、東北大学の全学教育課程やそこで学ぶ学生の現状と課題も徐々に把握・分析している。2017 年度の活動としては、広く社会的に実践されている哲学カフェにヒントを得て企画した「考えるソファ」を定期開催した。その他、「チャレンジボード」や「コタエテ SLA」等、常設型(非イベント型)の企画も実施している。

#### (2)目標の達成状況及び活動の成果

2010 年度に始まった SLA サポートのシステムは、機構設立以降の 4 年間を通して、その支援内容の充実化と体制整備を進めてきた。これにより、学習支援センターの使命や事業方針を明確化し、運営組織体制を整備できた。学習支援窓口の運営や SLA の研修等についても、安定的な運営を実現するに至っている。

学生の利用状況については、例年、概ね 2,000~3,000 人(延べ人数)の学生が SLA サポートを利用している。利用後に任意で依頼しているアンケートでも、高い満足度を維持してきている。より多くの学生に利用してもらうための広報活動にも積極的に取り組んでおり、とりわけ理系科目支援を中心として、学習支援センターの SLA サポートについての学内での認知度も上がってきている。 2016 年度には新たに「企画担当 SLA」を設けた。これにより、継続的な企画発信型学習支援を行う事ができるようになり、発信力を強化する事ができた。また、従来は単発での学習イベント実施に留まる傾向があったが、2017 年度からは定期開催ができるようになった。学習イベントを定期的に開催する事により、一定の参加者を継続的に得る事ができるようになっている。

#### (3) 解決すべき課題

主な課題としては、以下の3点である。第1に、正課外での活動として「SLAサポート」の充実・拡大を図ってきたが、ライティング支援等の分野においては、正課の授業との連携をより強化する必要がある。現状としては、学生自身によるライティングスキルの自己評価が困難という側面等から、学生が自発的に問題意識を自覚し難く、学習相談利用につながりにくい。つまりアカデミック・ライティングは、教員の目から見れば学生には様々な課題が見え、決して十分なライティングスキルを習得できていないとしても、初年次段階で学生自身が自覚を持ちにくいという問題がある。このような問題に対しては、積極的な正課内外の接続と連携が重要である。そのため、授業におけるライティング教育と、授業時間外でのライティング支援の効果的な連携・協働、そしてそのための体制整備が喫緊の課題である。

第2に、学習イベントの開催に当たり、学生に対する周知・広報によってさらに多くの学生に利用してもらう事が課題である。学習支援センターにおける学習イベントの企画・実施は、正課外における学習支援となっているため、「単位のため」「成績のため」という外的動機づけによる学生の参加が見込めない。ゆえに学生の積極的な参加を確保するのが難しく、参加を促すための組織的な工夫が重要である。一方で、SLAと利用学生との対話型の学習支援では、1度に受け入れられる学生の人数に限度がある。そのため、幅広い学生に利用してもらいたいという点と併せて、受け入れ体制の工夫も課題である。

第3に、学習支援センターでは、教養教育課程における教育開発と、学生の主体的な学びを支援する学習支援事業を継続的・安定的に実施していく必要がある。そのために、教員が中心となり、効果的な学習支援のあり方に関する理論と実践的方法、そして評価に関する研究開発を推進していく事が重要である。また、これらを実践的に支える支援主体としても、SLAのみならず、教職員の役割が不可欠である。よって教職員に対しても、一般的な研修(PD・SD等)のみならず、学習支援者としての専門的な養成プログラムが望まれる。学習支援センターには、学習支援研究開発に関するより一層の取組が求められている。

ただし、以上の課題を解決していくためには、単一センターだけでの取組には限界がある。他の 業務センター (大学教育支援センター、グローバルラーニングセンター等)や関連部署等 (学務審議 会、附属図書館、理学部キャンパスライフ支援室等)との連携・協働が必要であり、そのためにも、 定期的な情報交換・情報共有が必要である。

#### 3. おわりに

以上のように、学習支援センターでは、この 4 ヵ年の間に SLA サポート事業の開発・実施を進めてきた。それにより一定の整備と安定的な運用が実現でき、成果や実績を蓄積してきた。現状としては、支援対象や事業の範囲を拡張・拡充してきた一方で、人的・予算的な制約等も含めて量的な拡大はこれ以上望めない面もある。今後は、大きな成果を得ようとして多くのコストを投入するやり方ではなく、低コストでより確実な成果を目指す効率的な事業運営を実現していく事が望ましいと考えられる。そこで 2018 年度の重点事業方針としては、①企画発信の強化、②授業との連携強化、③留学生の日本語支援の拡充の 3 点を掲げることとした。

事業運営においても、課題は毎年それぞれに発生したり顕在化したりしてきている。例えば、理系科目の支援については、運営面では安定化したが、その窓口利用学生は成績中上位層が多く、本当に支援が必要だと思われる成績下位層の利用は必ずしも多くはない。そのような学生の積極的な利用を促すためのアプローチに苦慮している。英会話支援においては、学内に類似の英会話プログラムが増加・充実している現状を受けて、初級者向けの支援の重点化を図ってきた。しかし英会話初級者の積極的な利用を十分に開拓できているとは言えない状況でもある。ライティング支援については、既述の通り学生の相談利用数が少なく、授業との効果的な連携が課題である。学習イベントの企画・実施についても、まだ学生の参加は限定的であり、より多くの学生の興味や意識を喚起するための工夫が必要である。これらは、決して解決容易な課題ではないが、センターの教職員とSLAが共に解決に向けて熟慮し、実践的に試行錯誤しながら、改善・解決していきたいと考えている。

また、東北大学における学習支援の取組としては、当センターのみならず、様々な部署で、様々な立場の教職員がアイディアを絞り、日々努力している事で成り立っている面も忘れてはならない。効果的な学習支援を実現し、キャンパス全体で学生同士・教職員同士が自然に自発的に学び合うような「ラーニング・コミュニティ」を実現するためには、正課内外の枠を越えた新たな領域における支援を構築する事が期待される。そこで当センターとしては、今後も、初年次学生の「学びの転換」や、高年次学生の高度教養教育の実現に向けて様々な取組を開発・実践し、本学における教養教育と学生支援に寄与していく決意である。

#### 利用者アンケートから見る 2017 年度の傾向

鈴木 真衣

#### 1. はじめに

#### (1) 目的

学習支援センターでは、センターを利用した学生に対してアンケートの記入を依頼している。この利用者アンケートは利用回毎に依頼し、利用科目、問題解決、満足、対応総合点、コメントを記入してもらうものである(詳細は 48 ページ参照)。本稿では、これら利用者アンケートのコメントや対応満足点から、理系科目・ライティング支援(個別対応型学習支援)と英会話支援(企画発信型学習支援)における 2017 年度の利用傾向を考察する。

#### (2) 2017 年度の利用者アンケート概要

2017 年度の利用者アンケート回収枚数は 966 枚で、内訳は理系科目 435 枚、英会話 377 枚、ライティング 61 枚、日本語 19 枚、その他 6 枚、未回答 68 枚であった。コメントがあるアンケートは 913 枚で、回収枚数のうち 94.4%にコメントが記載されていた。利用人数に対する回収率は 64.5%であった。

#### 2. 2017 年度の利用者アンケート内容

#### (1) 理系科目・ライティング支援(個別対応型学習支援)

利用者アンケートのコメントに書かれた内容を分類したのが、表1である。前年度と同様、「わかりやすさ」「問題解決」に関する記述が多かった。前年度と比較すると、「利用学生の学び」と「SLAの話」に関する記述が増加した。相対的に「わかりやすさ」「問題解決」が減少した。

対応満足度を見ると、理系科目支援が 96.46 点(前年度+0.27 点)、ライティング支援が 98.35 点(前年度+3.14 点)と、ともに増加し、特にライティング支援は伸び幅が大きかった。

5	<b>}</b> 類	単語例	数	割合	前年度差
問題解決		解決した、わかった、すっきり、助かった	95	22.2%	-3.5%
	わかりやすい	わかりやすい	57		
	丁寧	丁寧、詳しく	41		
対応のわか	基礎から	1から、基礎、基本、根本、初歩、未履修	21	37.0%	-5.4%
りやすさ	じっくり	じっくり、長時間、何度も、ゆっくり	17	37.070	-3.4 /0
	具体化	イメージ、図、具体例	9		
	プロセス	考え方、方針、見通し	13		
対応の速さ		短時間、すぐ、ピンポイント	5	1.2%	-0.6%
SLA の態度・	好感	親切、優しい、神	17	4.0%	+0.1%
SLA の話	アドバイス	アドバイス、ポイント、勉強の仕方	21	6.3%	+4.6%
SLA VJ市自	先輩として	研究、専門、大学生活	6	0.5 /0	<b>+4.0</b> /0
	学び一般	学んだ、深まった、気づいた	33		
利用学生の	本質・意味	本質、意味、深い	4	11.7%	+5.1%
学び	考えさせる	考えさせる	9		
	共に学ぶ	一緒に考える・解く	13	2.1%	+0.6%
利用学生の	意欲	がんばりたい、勉強・復習したい、また来	35	8.2%	+0.7%
利用子生の   意欲・気持		たい、やる気がわく		8.2 /0	10.7 /0
息紙・気行	楽しい	楽しい、面白い	8	4.2%	+0.7%
9	嬉しい	嬉しい	10	<b>+.</b> ∠ /0	10.7 /0
問題・課題		難しい、複雑	6	1.4%	-0.6%
不満・要望		(一部分からなかったなど)	7	1.6%	+0.8%

表 1. 理系科目・ライティング支援の利用者アンケートコメント分類

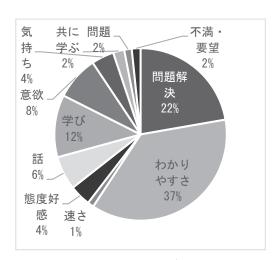
#### (2) 英会話支援(企画発信型学習支援)

英会話支援でのコメント内容を分類したのが、表 2 である。前年度と同様、「楽しさ」に関する記述が最も多かった。前年度と比較すると、「学び・練習」と「話題・内容」に関する記述が増加した。 相対的に「話せる機会」「意欲」が減少した。

5.	<del>}</del> 類	単語例	数	割合	前年度差
会話	楽しさ	楽しい、おもしろい、エキサイティング	140	30.5%	+0.4%
	話題・内容	話題、ディスカッション、ゲーム	62	13.5%	+10.5%
	話せる機会	話せた、いい機会	19	4.1%	-9.1%
	ペース	ゆっくり、わかりやすく	10	2.2%	-0.8%
SLA の態度	・好感	丁寧、優しい、話しやすい	32	6.8%	6.5%
学び・練	学び・練習	ためになる、練習になる、学べる、発音	77	20.0%	+6.5%
習	上達	上達した、前より話せた	8		
意欲		がんばりたい、また来たい、努力したい	62	13.5%	-6.1%
英会話に	難しさ	しゃべれない、ついていけない、難しい	24	5.2%	-1.9%
ついて	緊張	緊張、おどおど	9	2.0%	+1.3%
不満・要望	<u> </u>	(他のこともしたいなど)	10	2.2%	+0.8%

表2. 英会話支援の利用者アンケートコメント分類

対応満足度は 97.17 点で、前年度より 0.71 点増加した。アンケートの回収率を見ると、全体の回収率が 64.5%であるのに対し、英会話支援での回収率は 79.9%と高かった。



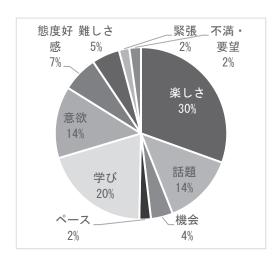


図1. 理系科目・ライティング支援(左)と英会話支援(右)の利用者アンケートコメント割合

#### 3. 考察

#### (1) 理系科目・ライティング支援(個別対応型学習支援)

前年度と比較して増加した「利用学生の学び」の記述について考察する。当センターでは、利用学生に答えを教えるのではなく、考えさせる、気づかせる、一緒に考えるなど、相手が自主的に学べるような支援ができるように取り組んできた。本年度は『学習支援ハンドブック』(p.29 参照)作成に取り組んでいたこともあり、よりこの意識が SLA の間で共有されたのではないかと考えられる。

また、「SLA の話」についても記述が増加した。これは上記に関連して、自主的に学べるようにアドバイスをする機会が SLA のなかで以前より増えた可能性や、学生とコミュニケーションを取りやすくするために、大学生活の話や研究室選択の話などをする機会が増えた可能性があるのではないかと考えられる。本学は、専門教育を受ける・研究室があるキャンパスと、1,2年生が学ぶキャンパスが分かれている。よって先輩と勉強関連の話ができるのは、サークル等で同じ学部の先輩と話すことができる学生以外にとって貴重なこととなっており、アンケートでも記述されたと思われる。

#### (2) 英会話支援(企画発信型学習支援)

英会話支援では、前年度と比較すると「学び・練習」と「話題・内容」に関する記述が増加した。 英会話支援では、毎回 SLA が工夫して英会話カフェの話題や内容を考えている。そしてただ会話す るだけではなく、どう相手にとって学びになる場にするかということを、特に本年度から担当 SLA で検討してきた。何か学んでもらおうという意識が SLA の間で共有されていった結果、「話せる機 会」についての記述より「学び」に関する記述が増えてきたのではないかと思われる。

一方「意欲」についての記述が減少したが、今年度は何度も利用するリピーター学生が増加した ため、わざわざ書かなくなった可能性も考えられる。

また、昨年度はほとんど見られなかったが、今年度いくつかあった記述として「緊張」がある。この理由としては、SLAでの英会話支援が初級者向けを意識してきたことから、まだ英会話に不慣れな学生が前年度より利用してくれた可能性がある。その他、指導的になりがちなSLAが雰囲気作りをうまくできず、利用学生の緊張をうまく最初にほぐせなかったり、速く話しすぎたりする可能性も考えられる。

アンケートの回収率が英会話支援だけ高かったことについては、活動そのものの「楽しさ」に起因していること、授業前や締切前で焦って立ち去る学生が少ないため、アンケートを書いてくれることが比較的多いのではないかと推察する。

#### 4. おわりに

2017年度の利用者アンケートをまとめると、理系科目・ライティング支援と英会話支援ともに、利用学生の学びに資するような対応ができてきたと考えられる。本年度は『学習支援ハンドブック』作成など、学習支援の知見が集積された年でもあった。今後も学生の学びを意識した対応をしつつ、より興味関心なども含めた意欲をわかせることができるよう、工夫していきたい。

#### 企画発信型ライティング支援の成果と課題

#### ―「レポート指南書入門ゼミ」の実施について―

賴 羿廷

#### 1. はじめに

本稿では、2017年度にライティング支援として新たに企画・開発した「レポート指南書入門ゼミ」の取組みを中心に、その成果と今後の展望を考察する。以下、レポート指南書入門ゼミの実施背景、 実施概要、参加状況を説明し、次いで、その企画発信型ライティング支援の成果と課題を明らかに し、今後の展望を述べる。

#### 2. 「レポート指南書入門ゼミ」の概要

#### (1) 実施背景

各大学において、初年次学生への基本的なライティング能力の育成が重視されるようになっている。当学習支援センターにおいても2014年度からライティング支援を開始した。具体的には、個別対応型の窓口を開設し、正課外の学習支援として、授業レポート等の作成に関する質問や相談を受けて支援する。しかし、実態としては受講している教員からの指示を受けて初めて窓口を利用するという学生が多く、学生自身の自発的なライティング支援の利用は年間約20件に留まっている。

また、本学の第 1 セメスター全学教育の授業科目では、高度なライティングスキルを要する「論証するタイプ」レポートが必ずしも課されていない点も指摘されている。そもそも、授業でレポートを課している授業は 57.8%であり、この中に毎回の授業感想や演習問題の解答をレポートと呼んでいる授業も含まれる (串本ほか、2016)。そのような状況下で、初年次学生は「自分がレポートを書けていない、ライティング支援を受けよう」という自覚や利用ニーズが生じにくいと考えられる。

当センターの事業は正課外でのライティング支援であるため、学生たちは特段の必要性がなければ相談窓口を訪問しない。しかし、初年次学生の基本的なライティング能力を上げようとするならば、窓口での相談対応以外に、初年次学生のライティングに対する自覚を刺激し課題意識を高めることが求められる。

そこで学習支援センターとしては、ライティング支援の利用促進を課題として捉えてきた。同時に、窓口対応が少ない状況下で、ライティング担当の SLA により有効に活動してもらう必要も感じられたため、2015 年度から SLA の企画によるライティングセミナーの開催を試みていた。内容は「レポートって何だろう」、「レポートの構成」、「本の読み方・付き合い方」、「理系学生向け・文系レポート作成のアドバイス」、「脱・レポート一発書き」といった、窓口相談で見られた質問を踏まえたテーマ構成であった。しかし、参加者は2015 年度で20名、2016 年度で48名という結果であった。実施時期や実施回数が低迷な参加状況をもたらした要因とも考えられるが、アカデミック・ライティングに対する初年次学生の関心と認識がまだまだ低いと見られる実情も否めない。

こうした課題へ対応するために、2015 年度から高度教養教育開発推進事業の1つとして「初年次のレポート作成とその指導を支援する共通教材の開発」(代表:菅谷奈津恵准教授)が始動した。これは新入生のライティング能力の向上を目的とした全学的なライティング支援体制を構築する試みである。その成果物としての『東北大学レポート指南書』(以下、『レポート指南書』)が 2017 年度から全新入生に配布された。『レポート指南書』では、高度なライティングスキルを要する論証型レポートに焦点を絞り、学生がつまずきやすい「問いの設定」や「参考文献の引用」などの内容を取り入れ、執筆の準備、文献の収集、文章の作成、文献の引用、執筆の省察の順に執筆の基本的な留意点を解説している。しかしながら、冊子体の『レポート指南書』を配布するだけでは、学生が確実に読んでいるかは確認できない。また、学生が自発的に読んだとしても、レポートの経験がまだ浅い新入生にとっては十分に理解するのが難しい場合もある。さらに、ライティングのスキルは実技であ

り、実際に書いてみないと習得・上達しない。ライティング能力の育成には、『レポート指南書』で 扱ったレポートの作成要領の実践練習が必要であり、そうした具体的な実践練習を織り込んだワー クショップ形式がより効果的であると考えられる。

以上のような問題意識から、当学習支援センターでは、『レポート指南書』の配布(全新入生にアカデミック・ライティングへの関心を喚起させることが期待できるタイミング)と同時にワークショップ形式の「レポート指南書入門ゼミ」を開催することを決定した。

#### (2) 実施概要

「レポート指南書入門ゼミ」は、初年次学生の参加を想定し、聴講中心の講義型ゼミではなく、参加型のワークショップ形式をとった。各回の講義部分は 10~20 分間程度に抑え、多くの学生が参加しやすいように、1 回が 45 分間という短めの時間設定とした。入門ゼミのテーマは、『レポート指南書』の内容を踏まえ、①「思考を整理して問いを立てよう!マインドマップの活用術ー」、②「レポートの構成を見抜け!ーアウトラインの実践法ー」、③「誰でもできる!分かりやすい文章ーパラグラフライティングの書き方ー」、④「極める、引用!ー先人の知恵を借りる技ー」、⑤「レポートを磨け!ー推敲の奥義ー」、といった5つとし、実践練習のワークを取り入れた。

実施時期と日程に関して、前期セメスターではまず 4 月半ばより 5 週間にわたって開催した。1 年生の時間割(空きコマの多い時間帯)と SLA の可能な活動時間などとの整合性を配慮し、毎週月曜日と水曜日の 3 限(13 時 15 分~)と 4 限(14 時 45 分~)の時間に実施した。また、第 2 クォーター初めの 6 月には、時間帯を変えて月曜日と水曜日の 5 限(16 時 30 分~)に再実施した。後期セメスターでは、学生が中間レポートの執筆に備える 11 月中旬から、月曜日の 4 限(15 時~)、水曜日の 4 限(15 時~)と 5 限(16 時 30 分~)という枠で実施した。

#### (3) 参加状況

前期セメスターの実施第1期(4月)では、全20回の実施で参加者数が64名、第2期(6月)全10回の実施では参加者数が20名、前期合計84名の参加者があった。後期セメスターでは、全17回の開催で参加者数がわずか4名であった。前期セメスターの参加状況に関して、第1期の実施では授業連携として教員に推奨された参加者が5割を占め、自主的な参加は32名だった。

参加者によるアンケートからゼミに参加した理由を見ると、「授業で参加すると点数 UP になるからと、レポートに対して不安があったから」、「何回かレポートを書いてみて、いまいち満足のいくレポートが書けなかったので、レポートを書く上でのヒントを知りたいと思ったため」、「まだレポートを書かされていないが、これから書かされる予定で具体的なレポートの指針がつかめていなかったから」、「レポートは大学生活においてたくさん書いていくことになるので、その書き方について改めて知りたいと思ったから」などがあった。

#### 3. 企画発信型ライティング支援の成果と課題

「レポート指南書入門ゼミ」では、前年度までのセミナー開催より参加者は 2 倍以上に増え、ゼミへの参加をきっかけに窓口を利用する学生も見られた。企画発信型のライティング支援が、一定程度の窓口利用促進につながったと評価できる。特に第1期の開催には 64 名という最も多い参加者があった結果から推測すると、入学したての時期にはレポート作成への不安や意欲を持っていると考えられる。今後も、実施時期は 4 月に設定することが効果的である。

一方で、後期に開催した「レポート指南書入門ゼミ」には、4名の参加者しかいなかった点については、課題が残った。前期セメスターの各授業でレポート作成を経験し、多くの学生にとっては参加する必要性が感じられなかった可能性もある。それに加え、後期セメスターの開催では連携する授業がなく、全て学生の自主参加だったために、参加者が少なかったとも思われる。

参加者によるアンケートからは、レポート作成への不安はあったものの、授業での加点が最初の 参加のきっかけになっていることも分かった。学生にとっては、授業での加点は授業時間外に実施 されるセミナーへの参加の大きな動機となる。このような外発的な動機づけのみでは学生が主体的 に学んでいることにはならないかもしれないが、それを糸口としながら、ライティング能力の向上 にまで繋ぐことが重要である。

今後は、「レポート指南書入門ゼミ」のみならず、発展的な内容についてのセミナーも検討したい。 また、本格的なレポート作成が求められる3・4年次学生もターゲットにするなど、各部局と連携して開催場所をさらに広げるなどの工夫も必要である。

#### 4. 今後の展望

学習支援センターでは、ライティング支援が初年次学生に行き渡るよう、相談窓口で学生からの質問を待つだけでなく、ライティングへの理解を深める方策を展開してきた。特に、授業と連携したセミナーの開催を通して学生のアカデミック・ライティング能力の向上に資する点で、一定の成果をあげることができた。前述のように、初年次学生が主体的にライティングスキルの向上の必要性を自覚するのは困難な面があり、当面、初年次学生には、授業連携によるライティング支援の利用推進が有効である。一方で、今後の発展に向けていくつかの課題も確認できた。研究大学の学生にふさわしいライティング能力の向上をめざして今後とも努力していきたい。

#### 参考文献

串本剛・吉植庄栄・中川学・菅谷奈津恵 (2016)「東北大学の全学教育におけるレポート作成指導:講義担当教員を対象とした面接調査の知見」『東北大学高等教養教育・学生支援機構紀要』2,233-241

#### SLA 実践開発 8年間の失敗クロニクル

#### ―現場の証言記録として―

足立 佳菜

#### 1. はじめに

本稿は、東北大学スチューデント・ラーニング・アドバイザー(Student Learning Adviser、以下 SLA と略)制度の取組みについて 2010 年度(初年度)から 2017 年度までの 8 年間を振り返り、現場を指揮し開発に従事した立場から、諸種の報告書には残されにくい「失敗事例」に焦点を充ててその歩みを記録するものである。

2017 年度末、理系分野を軸に学習支援の実践的知見を総括した『学習支援ハンドブック―理系チュータリング Tips とチューター育成』(未公刊、以下『ハンドブック』と略)を纏めた。ここには 8 年間の歩みを通して得た「学び手の自律的な学び」を「支援する」という難題を解くヒントと、これを担う学習支援者 (SLA) の育成方法を集録している。『ハンドブック』が理系分野を主軸としている一つの理由は、本実践において現段階で支援の方向性に一定の成果と指針を得られた領域が理系分野であったためである。

しかし、ふと振り返ってみれば、ここまで理系分野の支援が SLA 実践において大きなウェイトを占めることになるとは、活動開始当初には予想していなかった。なぜこのような現状が生みだされたのか。その理由の一つは、東北大学という文脈における理系支援の必要性と重要性の高さにあろう。加えるなら、SLA となる学生を一定数安定的に確保できる状況にも理系支援の発展は牽引されてきた。一方で、(理系支援の意義を揺るがす意味ではないが) 理系支援中心にならざるを得なかった実態一つまり、他領域の支援の困難さが現状を作り出してきた側面も存在する。後述の通り、SLA制度を核とする学習支援実践開発、正確には教養教育改革の当初の射程はより広範なものを構想していた。そのため、理系支援以外にも多くの試行錯誤を重ねてきた経緯がある。現存しない活動の中には本質的課題を抱えるものもあれば、過去には難しくとも状況変化を受けて実現可能になる取組みも交ざっていよう。その際のヒントとして、あるいは同種の実践開発を試みる方々に向けて、私たちが直面した「困難さ」をここに証言として記録し、今後の参考に資したい。

なお、事例に基づく考察は、事例自体の特徴と仔細に照らし合わせて理解する必要がある。本実践では、正課外組織であること、有給の学生スタッフ、学生スタッフの規模 40 名前後、総合大学、大学院生の豊富さなどが主立った特徴としてあげられるが、それ以外の条件については紙面の都合上ここでは詳しく述べることはしないため、年次活動報告書を参照されたい。

#### 2. SLA 制度を核とする教育・学習改革の全体構想

SLA 制度の創出は、学生支援の文脈というよりは大学の教養教育改革の一環として企図された経緯がある <sup>1</sup>。その課題意識の中核には、「学生同士の学び合い文化の創出」があった。これらの経緯を受けて当初構想された活動の全体像は図 1 の通りであった。本活動においてアプローチできる東北大学全学教育の正課カリキュラムを「理系」「文系」「語学系」「教職関連」科目と大別し、それぞれについての学習相談を受けるチューター制を敷きながら、カリキュラムに包摂されにくい内容や学生の学習意欲の喚起につながる「企画」を行うこと、そして学び合いの具体像である「自主ゼミ」を支援することを学生への支援形態として想定していた。また、"質問"という形でニーズが顕在化しにくい事が予測される文系分野については、チューター制よりは「自主ゼミ支援」への連結、また「授業開発」との連動を模索し、その発展形としていずれは授業改善のサイクルに学生の視点を取り入れることで、正課内・外を繋ぐ学生の学びの質を向上させる実質的な体制作りに繋がらないかと考えたのが初期ビジョンである。

ビジョン自体にも不備はあるのでこのビジョンから外れることが必ずしも失敗なわけではないが、本稿では、取組みがねらい通りには進まずに継続的な取組みとして根づかなかった事例を経過的「失敗事例」と捉え、紹介する。

#### 3. 失敗事例

#### (1) 自主ゼミ支援の挑戦と課題

SLA 開発メンバーにとって最大の心残りは自主ゼミ支援が円滑に進まなかったことである。自主ゼミ支援に関して 2010 年度に着手したのは、まずは現状活動を活発に行なっている自主ゼミと関係を構築しニーズを把握することであった。

附属図書館にラーニングコモンズも設置されていなかった当時、ゼミの最たるニーズは活動場所の確保であった。立派な設備でなくとも①一定の静かさが保てること(サークル棟は音がうるさい)、②ホワイトボードが必須であるという声を第一にもらい、後に③複数人で資料等を共有するために、資料の置き場所があるとありがたいという要望を得た。これらの声を受け、SLAラウンジへのホワイトボード設置と貸出を行うととも

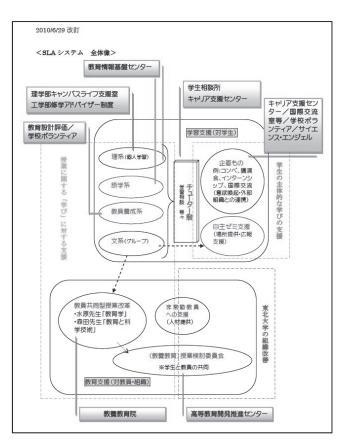


図 1. SLA 開発初期の全体構想図(内部資料)

に、教務課との相談の上、放課後の教室貸出をセンターが請け負う体制を整備した。

その他実施した支援策は、a)メンバー集めなどの広報支援、b)自主ゼミ交流会の実施、c)先輩アドバイザー(SLA)の派遣、d)HP上での自主ゼミ活動紹介、e)『ともそだち本』内での自主ゼミの方法解説と自主ゼミ事例紹介、f)自主ゼミイベントの実施などである。これらに通ずるコンセプトは「情報の媒介」「人的交流の促進」を通した自主ゼミ活動の啓発と促進であった。この中で期待に比して課題が大きかったのが b、c、d、f である。

d)では、HP上で自主ゼミ紹介ページを作成し、現在活動している自主ゼミの一覧や活動に使用している資料を一部閲覧可能にして、自主ゼミ発起に繋げたり興味のある自主ゼミに声をかけられるプラットフォームを構築することを企図した。しかし誤算は、自主ゼミはサークル等に比して"緩やかな集合体"であることだった。ゼミの発生と消散のサイクルが比較的早いこと、それ以前に「明示的なグループ」として自主ゼミを捉えることの方が自然ではなく(友達同士の勉強会に名称などない)、情報管理に煩雑さが伴った。また、センターが情報取得をしっかり行おうとすると、自主ゼミに"雑務"を負わせることになり、何らかの楽しみとセットにしない限りは、センターと関わることが自主ゼミにとって負担が増す結果になりかねない危険を伴っていた。

その "楽しみ" の一つとして当初機能していたのが b)自主ゼミ交流会の実施である。2010 年度後期から学期末に 4 回 (2 年) 実施した交流会は、日頃の学びの成果を他者に発信する機会であり、自主ゼミ活動をしている積極的な仲間の存在を知れる場であり、何より各ゼミの活動の工夫・ノウハウを交換できる場であった。 $1\sim2$  回のうちは互いのノウハウを学び合ったり、会に参加してくれた SLA (先輩学生) からアドバイスをもらうなどして実際に活動を活性化させたゼミもあり、この種の交流会に意義があるように思われた。しかし、この種の会に参加意欲を持つゼミは、学年を超えて新メンバーを募集するような比較的継続性を持ったゼミに限定され、そうしたゼミは逆に交流会に複数回出てもさして新しい情報を得ることができず、交流会のインセンティブが単発にしか機能しなかった実態がある。

一方、のはまた別のアプローチからの支援である。自主ゼミは同学年同士の勉強会として結成され

ることが多いが、その際の課題は自分たちだけでは「這い回り」を起こしてしまうことであった。そうした課題に直面していたある自主ゼミから、「SLA の先輩にアドバイザーになってもらえないか」という依頼を受け、2011 年度にはアドバイザー派遣を試行した。この時アドバイザーになってくれた SLA はその後も SLA として長く活動し、ゼミメンバーであった学生が SLA になるという好循環も生みだすことができた。その一方で、SLA の活動範囲の切り分けや、恒常的な体制づくり(分野のバランスも考慮したアドバイザーの確保等)に課題が多かったことから、方法に汎用性を持たすことが適わず、単年度の試行に終わっている。

ただし、これらの取り組みの中で、自主ゼミ開始時に学生が悩み、かつ先達の知恵が有効に働くものとして「テキスト選び」の支援が自主ゼミ支援の一手として有効であることを知見として得ることができた。そのため、『ともそだち本』にそれらの情報を盛り込んだり、SLAの個別相談窓口でも、自主ゼミからのその種の相談を受け付けている事を周知するなどし、知見を引き継いでいる。

最後に f)自主ゼミイベントの実施としては、2016 年度に自主ゼミ支援の再活性化を目指し、自主ゼミを創る支援に焦点化したイベントを実施した。本イベントでは、現役 SLA と一般学生に協力をもらい、自主ゼミの体験談やコツを話題提供してもらったが、参加者の確保に困難が生じ、継続事業とはならなかった。これについては次項とも関連する。

#### (2) 学習企画・発信型学習支援の挑戦と課題

8年間の中で最も苦しんだのは学習イベントの実施であった。SLA を知ってもらうための「茶話会」(2010)「学内オープンキャンパス」(2010)、英語支援を広げるための「movie night」(2012)、ライティング支援を広げるための「ライティング通信」「ライティングセミナー」(2013~2014)、文系支援を企図した「ペコちゃん通信(美術史関連の通信)」(2011)、教養+学びの意欲喚起をねらった「雑学ゼミ」(2011~2013)、企画参加の敷居を低くしようと試みた「放課後 SLA ゼミ」シリーズの「てつがくカフェ」や一般学生企画型「議論ゼミ」(2013)などなど、各種の企画を試行してきた。しかし、いずれも継続した活動とはならず、ある程度継続した「雑学ゼミ」についても相当の労力の上に成り立っていた感がある。広く捉えれば、英会話支援も企画物と性質は近く、長らく安定的に利用者を得られなかった英会話支援も同様の不安定な状態が続いていた。

学習イベントが抱える困難さを一言で表せば、「《労力》対《効果》の低さ」である。参加に意義を 見出せる質を担保しようとすれば準備に相当の労力がかかるにもかかわらず、想像以上に集客を得 ることが困難であり負担は大きい。中でも見逃せないのが SLA 学生の心理的負担である。「参加者 は少ないかもしれない」とどんなに予防線を張ろうと、イベントに携わる SLA は期待感を膨らませ るのが当然である。その期待が適わなかった時の虚脱感は教職員の想像以上であるし、「過程が有意 義であれば結果は…」などと割り切れるものでもない。このことは、組織への信頼感への揺らぎや SLA の活動全体へのディスエンカレッジに派生するといっても大げさではないと感じている。

学習イベントの企画・実施には、ユニークさといった感性を含む総合力が試される側面もあり、担当者に必要な専門性はマニュアル化とは縁遠い資質能力も多い。したがって「その人」の存在が要になるケースも多くノウハウの引継ぎや SLA の育成には時間を要する。しかし、SLA 平均勤続年数約 1 年半のサイクルの中ではその実現が難しい。この状況下において、センターとしては一定の成果が見込める持続可能な「枠組み」をどこまで整備することができるのかが肝であると考えるが、筆者自身はこの枠組み創出は道半ばで終えることとなってしまった。2016 年度後期から始まった「企画 SLA」の発展に期したい。

#### (3) 授業連携型学習支援・文系支援の挑戦と課題

授業連携型学習支援は、先述の通り、当初のねらいとしては文系学生・文系分野の支援を担う意図があった。文系分野の学習過程においては「わからないから先に進めない」というような明確かつ迫られた「質問」が生まれにくく、ニーズ先行型の支援形態に馴染まないことが予想された。加えて、基礎基本を共有している理系分野と異なり、文系分野では例えば同じ科目名の授業を受けても

先生によって内容が異なったり、同分野でも「隣の研究室」の内容になるととても質問には応えられないという状況が発生する。そのため、文系分野の質問・相談に応じられる体制や SLA を見出すことが困難であった。そこで、(文系分野では)一定の授業の枠組みの中であれば支援が可能ではないかという発想と、(文系分野に限る事ではないが)授業で同じことを学んでいる学生同士の協働性を高めることと、できればその協働性が授業外に発展することを誘うことで、学生の学びの発展に寄与できないかと考えたことが授業連携型学習支援の発端である。実際に取組んだこととしては、協力教員を募り、①学生参画型授業への授業改革を SLA と共に行う、②授業のサブゼミを SLA が企画し学びの深化と学生の学び合いを促進する、③授業担当 SLA が授業外で質問に応じるなどを行ってきた。

しかし、「SLA」という概念が整備される中で、授業の文脈で活動する授業 SLA と他の SLA の採用・育成方法の乖離が大きくなったことや、授業担当者とセンターとの協同体制を敷くことに限界があったことなどから、2017 年度には従来の授業 SLA のあり方は停止している。

とはいえ、これまでなかなか突破口が見えなかったライティング支援が、2017年度以降の大学全体の改革動向とリンクすることで支援の方向性が見えつつあることに表れているように、正課外に位置づく本センターの支援においては、授業との連携が不可欠となる分野が存在する。ライティングや英会話という文理横断的領域の発展によって文系学生への支援の輪が広げられつつあるが、文系分野の支援のあり方は引き続き検討を重ねていってほしい。

#### (4) チュータリング型支援の残された課題

他領域に比べ、需要と供給がマッチした理系分野を筆頭にチュータリング型支援は一定程度の成果を得ることができている。しかし、理系チュータリング型支援において潜在し続けた課題は「利用学生の成長が見えない」ということであった。「利用学生の声(アンケート)」は活動開始当初から取り続けており、意識的にその声を SLA に伝えてはいる。また、2014 年度には通称「人レポ」と呼ばれる、対応記録を利用学生別にアーカイブする媒体を作成し、SLA 全体で学生情報を共有する取組みも行った。しかし、1 回利用者が約 4 割を占める実態や、リピーターの利用者は同じシフト・SLA を利用することが多いために「文字資料」の価値がそこまで高くないこと、そして 2014 年度の異常な利用者増加の中で煩雑さの方が課題となり、「人レポ」は廃止を余儀なくされた 2。

「いつでも気軽に来れる」環境設計は利用者にとっての利用のしやすさには貢献していよう。しかし、家庭教師・塾講師と SLA の最も異なる点の一つが、図らずもこの「単発性」に存するようになってしまった。その中で、「物理の楽しさ、数学の楽しさ…学ぶ楽しさを伝えたい」と思いを持って SLA の活動に飛び込んでくれる学生たちのモチベーションには、まだまだ応えられていない。そのことは、SLA 学生の持つ魅力を最大限には活かしきれていないことも意味していよう。

#### 4. おわりに

ここに述べてきたように、8年間成長を続けてきた SLA の活動にも未だ多くの課題が山積している。ただし、筆者が SLA 実践において「成功」したと考えているのは、「SLA とは何か、学習支援とは何か」を考える当事者意識を強く持つメンバーの育成と、彼らを核とする(緩やかだが芯のある)チームづくりである。チームが自律的に問題解決を続ける限り、失敗や課題は成功の糧となってくれるはずである。チーム SLA の今後のさらなる発展を強く祈念している。

#### 参考文献

- 1 鈴木学(2015)「SLAの可能性」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』10、149-152頁。.
- <sup>2</sup> 代わりに、同じ時間帯に勤務をしている SLA の「シフト」のチーム力を向上させることで、そのシフトを頻繁に訪れる学生をシフト内で把握することに重点化するなどした。

# 第2部 活動報告 1. センター概要

学習支援センターは、2014年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動(2013年度)であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト—SLA(Student Learning Adviser)制度の実践—」(総長室付け、2010年度~2012年度)の活動が土台となっている。

#### (1) 理念·使命

学習支援センターの使命には、次の3点を掲げている。

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を、実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生としての資質を育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、東北大学の学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体(ラーニング・コミュニティ)の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育(教養教育)である。特に1・2年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の1つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA(Student Learning Adviser)」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

#### (2)事業

学習支援センターが行う業務は、次の4点である。

- (1) 全学教育段階のリメディアル・レベルアップ学習支援の開発・実践を行う。
- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践を行う。
- (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実に貢献する。
- (4) 全学教育範囲における学習支援ネットワーク (部局間連携体制) を構築する。

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

学習支援センターでの学習支援事業は、①個別対応型学習支援、②企画発信型学習支援、③授業連携型学習支援、④自主ゼミ支援の4形態で展開している。このうちの①・②における具体的な支援内容は、主に「物理」、「数学」、「化学」、「英会話」、「ライティング」、その他、科目等の枠に限定されず、アクティブラーニング型で学際的な学びを目指す「学習企画」の6分野(セクション)である。

#### [個別対応型学習支援]

学生からの個別の学習相談・質問に対応する形態の支援。SLA ラウンジで勤務している SLA が平日 2~5 講時の間、主に物理・数学・化学・ライティングの質問に対応している。

#### [企画発信型学習支援]

個別対応型のように質問を待つ形ではなく、SLAから学びの機会を提供する活動の総称である。 主に英会話支援(英会話カフェ)の活動や学習イベントの開催がこれにあたる。

#### 「授業連携型学習支援]

授業に SLA を配置したり、授業と SLA 窓口との積極的な連携・協働を行ったりすることで、授業時間外学習の実質化・充実化を図る。具体的な活動内容は、連携する授業毎に異なる。

#### [自主ゼミ支援]

自主ゼミ活動をしている・したい学生を支援する活動。具体的には、①活動場所の提供、②備品貸出、③相談受付、④自主ゼミ交流会の実施などを行うことで、活動の円滑化・促進を図っている。

## 個別対応型学習支援

個人の学びをサポート

学生からの個別の質問・ニーズに併せた 窓口対応型の支援

◎主に、理系(物理・数学・化学)や ライティングの質問対応など

# 企画発信型学習支援

さらなるの学びをサポート

センターやSLAが学びの場を 提供する形の支援

◎英会話や各種学習イベントなど

## 自主ゼミ支援

仲間との学びをサポート

学生同士で学び合う「自主ゼミ」のための支援 ◎教室貸出・物品貸出等

## 授業連携型学習支援

授業の学びをサポート

特定の授業とリンクした形で行う支援(応募型)

◎授業内支援だけでなく授業外の企画も

<図 1-1. 学習支援形態による概念図> ∗学習支援センターHPより

#### (3) SLA とは

SLA(エスエルエー)とは、Student Learning Adviser の略で、東北大学における学生による学生のための学習支援スタッフのことを指す。主に学部 3 年生~大学院生の幅広い層の先輩学生たちが、SLA として全学教育を受ける学部  $1\cdot 2$  年生の学習サポートを行っている。SLA による学習支援のコンセプトは学生同士の"学び合い"である。「ともと学ぼう、ともに育とう、『ともそだち』 Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!」をキーフレーズに、学習支援を行っている。

#### 一"先輩の力"の考え方

SLA を核とする本センターの学習支援は、「先輩の力」を活用したサポートであることが特徴である。これまでの活動から、「先輩の力」には次のような有効性がある。

#### ①わからなさや面白さへの共感

学部 1・2 年生にとって、教員へ質問することは物理的にも感情的にも思いのほかハードルが高い面がある。そのような大学の環境において「先輩」という存在は、学問について誰かに聞くという行為を身近にしてくれる良さがある。また、つい数年前までは学部 1・2 年生だった「先輩」たちは、その経験から、どこでつまずきやすく、何がわからないのかの"ツボ"を教員よりも熟知した存在であると言える。同時に、わからなさだけでなく、面白いと感じる"ツボ"についても、同世代ならではのアンテナを働かせて共感できる。利用学生から「一緒に喜んでもらえたのが嬉しかった」という声も聞かれ、そんな素朴な「喜び」を自然と生み出せるのも「先輩」が有する潜在的な力である。

#### ②ロールモデルとしての少し上の先輩たち

キャンパスが点在する東北大学では、1・2 年生が少し上の先輩が学ぶ姿を見られる機会は少ない。 そのような中で、先輩学生である SLA たちは、「大学での学び」に苦労をしたり楽しんだりした様々な経験を持ち、いずれも「大学での学び」に何かしらの意義を感じそれを志そうとする学生たちである。そんな先輩の姿や経験値に触れることで、1・2 年生たちは自分なりの大学での学びの過程を思い描くヒントにすることができる。

#### ③共に考える存在

SLA は、先輩として後輩をサポートできる存在であるが、その一方でやはり学生であるため、必ずしも質問に的確に答えたり、ベストな方法で教えたりできるわけではない。試行錯誤しながら、質問に来る学生たちと「共に考える」という光景も、質問対応の場ではよく見かける光景である。この姿勢が自然と成り立つのは、大学での学びの過程を共に歩む学生同士だからこそである。利用学生から聞こえてくる「答えだけでなく考え方を教えてくれる」「(自分自身が)成長できた感があって嬉しい」といった声からは、「共に考える」という、教え―学び合う支援の在り方の意義を感じることができる。

#### (4) SLA 採用·育成指針

#### ①採用の流れ

募集〜採用活動の流れは、次の通りである。募集は、公募制と、主に SLA による推薦・紹介制を 併用している。ただし、公募と推薦・紹介の違いはファーストコンタクトの違いだけであり、以降の 流れや内容に違いを設けてはいない。

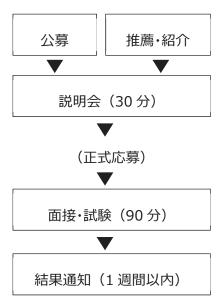
SLA の活動に興味を持った学生には、まず30分程度の「説明会」を受けてもらう。SLA の活動の

様子を知ってもらい、希望と実態のミスマッチを防ぐ目的で ある。

「説明会」後、正式な応募をするかどうかを判断してもらい、正式な応募を受けた後に、個別に「面接+試験」を実施する。「面接」は約30分の所要時間で、a)志望動機、b)支援(教育)観、c)学習観、d)人柄や能力に関する幅広い質問を行う。その後、約1時間の所要時間で「試験」を実施する。「試験」は、理系・ライティング・英語によって形態が異なるが、筆記試験は一部であり、口頭試験を多く取り入れている。

#### ②育成指針

2010年度の SLA 活動開始以来、SLA 活動コンセプトとして掲げているのが、「ともと学ぼう、ともに育とう、『ともそだち」である。このコンセプトには、「学生の力を活用した学習支援」を行う組織として、大きく 3 つの意味が込められている。1 つは、利用学生(主として学部 1・2 年生)の中に「学び合いの文化を生む」ということ、1 つは、学生を支援するこ



<図 1-2. SLA 採用までの流れ>

とを通して、SLA 自身も学ぶということ、1 つは、SLA 同士も学び合い高め合おうということである。SLA は、「正解を知る」存在でもなく、「知識を教授する」(だけ)の存在でもない。対象学生自身が学び・学び合う力を身に付けていくサポートをすることが SLA の役割である。そして、SLA 自身が「学生」であることの良さを活かし、学習支援のあり方自体を考え変革していくことも、SLA に期待されている役割である。

こうした理念に基づき、SLAには次の4つを「行動指針」として示している。

#### <SLA 行動指針>

- ① 「問題」ではなく「人」をみる
- ② 答えを「教える」のではなく「考えさせる」
- ③ 個の力だけでなくチーム力を大事にする
- ④ SLA のあり方を共に考える

また、研修のあり方としては、次のようなポリシーを SLA には示している。すなわち、SLA として活動する上では、①学問(専門)スキル、②教育スキル、③対人スキル、④社会人スキルが必要である。このうち、①については、採用された時点で最低基準は満たしている・またはその見込みがあるものとして、「育成の対象」としては重要度が低く自己研鑽に負うものとしている。センターとしては、②・③を中心としながら①以外のスキルについての研修を行うという方針である。その研修方法としては、個別指導と OJT を基本とすることを掲げ、センター員だけでなく、先輩 SLA の力も借りながら、実践・現場に即したスキルの獲得を目指すものとされている。

#### ③部会活動

上記の中で SLA にとって重要な位置を占める「部会活動」の性格は以下の通りである。

学習支援センターでは、SLA の担当科目(物理、数学、化学、英語、ライティング、企画)毎に 部会を設置している。部会活動の主な目的は、①SLA の交流促進、②科目に紐づく対応スキルの向上、③SLA 全体のチーム力の強化(情報共有促進を含む)の 3 点である。部会活動の定期的な活動は、毎月1回(90分)の定例会の開催である。定例会は二部構成を基本としており、前半45分は1カ月の間の情報共有、後半45分は勉強会としている。また、各部会には「部会長」が決められている(企画部会除く)。

なお、部会活動は、SLA 学生たちの完全な自治運営で行われる類の活動ではない。部会(定例会)への参加を SLA にとっての研修の場の一つとして位置付けていることや、その時々のセンター全体の課題と呼応させながら定例会のトピックを設定する必要もあるため、活動全体の情報を把握しているセンター側がフレーム設計する側面も強い。その際も、日々の活動の中で個々の SLA の声を拾いながら各部会の方向性を調整していく。つまり、「センター(員)」と「SLA」が協同で「部会活動」を創る関係構図を描いている。部会活動が SLA だけで行われるものではないことは、センター運営上の意図や課題と連動しているためであり、本センターの特徴である。一方で、部会運営におけるSLA の自律性を高める動きは常に課題として捉え、改善を続けている。

#### (5) センタースタッフ構成(2017年度時点)

センター長 芳賀 満 (高度教養教育・学生支援機構 教授、考古学)

副センター長 佐藤智子 (同 准教授、生涯学習・社会教育)

センター員 足立佳菜 (同 助手、学習支援[高等教育]・道徳教育史)

賴 羿廷 (同 助教、教師教育、教員評価)

鈴木真衣 (教育·学生支援部 教務課、事務補佐員)

SLA 2017 年度前期 52 名、後期 45 名

#### ▶2017 年度 SLA 体制

2017年度の SLA は、前期は 52 名、後期は 45 名体制で運営した。 新規採用者数は、前期 14 名、後期 4 名であった。

<表 1-1-1. 2010~2017 年度 SLA 人数推移>

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
前期	21	38	37	36	46	62	50	52
後期	30	37	37	37	49	55	55	45

(単位:名)

#### ■前期セメスター

全52名(途中採用・途中退職含む)

- ○継続 38 名/新規 14 名
- ○留学生数:8名

<表 1-1-2. SLA 所属別人数【'17 前期】>

	文	教	経	理	エ	農	国文	教情	合計
博士	3			9					12
修士2年	3		1	8	1	1	2	1	17
修士1年				8	2		1		11
4年		1		3	2				6
3年		1		3					4
2年					1				1
合計	6	2	1	31	6	1	3	1	52

<表 1-1-3. SLA 担当別人数【'17 前期】>

	物理	数学	化学	ライティング	英会話	企画	合計
博士	2	5	1	2	2		12
修士	7	6	3	2	6	4	28
学士	7				3	2	12
合計	16	11	4	4	11	6	52

#### ■後期セメスター

全45名

○継続41名/新規4名

○留学生数:6名

#### <表 1-1-4. SLA 所属・学年別人数【'17 後期】>

	文	教	法	経	理	I	国文	情報	教情	合計
博士	4				7					11
修士 2	2				7	1	1		1	12
修士 1					6	2	1	1		10
4 年		1	1	1	3					6
3 年		1			3	2	·			6
合計	6	2	1	1	26	5	2	1		45

#### <表 1-1-5. SLA 担当別人数【'17 後期】>

	物理	数学	化学	ライティング	英会話	企画	合計
博士	2	4		3	2		11
修士	6	6	2	2	2	4	22
学士	6				4	2	12
合計	14	10	2	5	8	6	45

#### ■シニア SLA

前期5名、後期7名

#### <表 1-1-6. 2017 年度シニア SLA>

	氏名	学年	SLA 活動 開始年度	担当	活動期間
1	紅林 大地	博士課程後期3年	2013	物理	前期・後期
2	山下 琢磨	博士課程後期2年	2013	化学	前期
3	珍田 一馬	博士課程前期2年	2015	数学	前期・後期
4	酒井 祐輔	博士課程後期1年	2015	英語	前期・後期
5	澁川 友菜	博士課程前期2年	2015	物理	前期・後期
6	石川 遼太郎	博士課程前期2年	2016	物理	後期
7	玉田 優花子	博士課程後期1年	2016	ライティング	後期



# 2. 2017年度の重点活動

## - Summary ⊩

本年度重点的に取り組んだ活動は、『学習支援ハンドブック』作成と、『SLA Tips』作成である。どちらも SLA の知恵 (Tips) の共有・継承を目的として、実践知を資料化した。

#### ■『学習支援ハンドブック』作成

『学習支援ハンドブック』では、SLA サポートの 8 年間の実践で蓄積されてきた知見を整理・掲載した。具体的には、理系科目のチュータリングにおける「チュータリング Tips」、チューター育成の「育成方法活動事例」、およびチューターを育成する教職員スタッフに向けた「育成の観点」の知見を整理した。「チュータリング Tips」については理系科目担当の SLA に作成を依頼することで、より実態に即した内容となった。

#### ■ 『SLA Tips』作成

『SLA Tips』は、部会別(物理・数学・化学・英語・ライティング・企画)のものと、全体に関わるものについて作成し、計7冊のファイルに整理した。

本年度は、部会別の Tips 作成について主に着手した。Tips になる要件としては、「一定数の部会メンバーの承認を得て完成とすること」という枠を示した。このため、作成の工程は各部会によって異なった。本年度でいくつか有益な Tips ができあがったが、これを活かす体制や、今後も同様の形で資料化作業が可能かどうかは今後の課題である。

### 『学習支援ハンドブック』作成

高度教養教育・学生支援機構の平成 29 年度「教育開発推進経費」の支援を受け、ピア・チューター育成を核とした学習支援組織マネジメントのハンドブック作成を行った。

#### (1)目的

研究大学において「学生の力」を学習支援に活用する本組織においては、学生=支援主体となる構成員の多忙さ、流動性の高さが本質的課題にあり、チューターの知識と技術の共有・継承を可能にする組織デザインが、持続可能な組織運営と学習支援内容の質保証のために必要不可欠である。

学生参画型の教育・学習支援活動は日本の大学でも広がりを見せているが、実践開発が各所で試行されている段階であり、ピア・チューターのトレーニング方法についても模索が重ねられている。 国内ではライティング支援の運営・研修方法について文献化されているものがあるが、それ以外について「学習支援」におけるピアチュータリングの具体的な実践事例に基づいた組織マネジメントの知見の蓄積はあまりなされていない。

これに対し本実践における学習支援の特徴は、第一に、全国的に事例の蓄積が少ない理系科目チュータリング実践の蓄積を有していること、第二に、"先輩・学生の力を活かす"という手法を採る学習支援であること、第三に、一方向的・伝達的教授やリメディアル(補修)的学習支援とは異なる「学び合い文化の醸成」を第一義的目的に据える学習支援であることである。第三の点は、主体的・対話的で深い学びや学習者中心主義の教育体制を実質化する理念でもある。

そこで本事業では、本実践のこれらの特徴を活かし、学習支援センターにおける SLA サポートの事例をもとに学習支援に従事するピア・チューターの育成を課題の中核とした組織運営方法について包括的に整理し、学習支援組織のデザインとマネジメントの知見化することを目的とした。

#### (2) 実施概要

SLA 制度は 2010 年度から開発・実施を行っており、2017 年度終了時点で 8 年間の実践の蓄積がある。ここで蓄積されてきた知見を資料整理・保存を進めることを事業の中心作業とし、事業の主要成果物として教材 (ハンドブック) を作成した。ハンドブックには、理系チュータリングにおける「チュータリング Tips」、チューター育成の「育成方法活動事例」、およびチューターを育成する教職員スタッフに向けた「育成の観点」の知見を整理した。

事業実施にあたっては、本実践を熟知し理系科目の専門的知識を有する学生と共に資料整備を行うことで、よりチュータリングの実態やチューター学生の現実に即した実質的知見の集積も可能な体制とした。加えて、事業実施プロセスがチューター育成と表裏を成す構造としても機能させた。

#### (3)成果

- ① 『学習支援ハンドブック―理系チュータリング Tips とチューター育成―』(全 102 頁) を作成。
- ②プロジェクト成果報告会を年度末活動報告会と同時開催。
- ③第24回大学教育研究フォーラムにてポスター発表。
- ④『ハンドブック』の前段階となる日常的な知見集積・共有方法として、SLA 担当科目部会別の『Tips ファイル』を整備し、学習支援実践→SLA 内議論→資料化→実践への活用というサイクルを整備開発。



## 『SLA Tips』作成

#### (1) 概要

SLA の知恵(Tips)の共有・継承を目的として、実践知を資料化し、これを『SLA Tips』ファイルとして纏めることを試みた。この Tips の作成は資料作成に留まるものではなく、部会活動・部会での学び合いの一連の流れの見直しに密接に結びついている。

『SLA Tips』ファイルには、支援活動や部会運営に関わる年度 横断的な諸情報がセレクトされ纏まっていくことを企図しており、現在は、物理・数学・化学・英語・ライティング・企画の6 部会別の『SLA○○Tips』ファイル(○○に部会名)と、主にセンターおよびシニア SLA を編纂主体として想定した『SLA 総合 Tips』ファイルの計7冊を用意している。

部会別『SLA Tips』ファイルの中身として想定しているカテゴリーは下表の通りである。カテゴリー1・2・4・5 については少数



有志による作成が想定されるが、3 は部会メンバー全員が関わることが想定されている。実質的には部会定例ミーティングでの議論の成果と連動する側面も強く、本年度はこのカテゴリー3 の資料作成についてスタッフと各部会メンバーで検討を重ね、フォームを作成し、工程について模索を重ねるなどした。『SLA 総合 Tips』については、本年度はあまり着手できていない。

〈表 2-2-1 部会別『SLA Tips』ファイルのカテゴリー構想〉

1	対応の流れ一基本形一	1対応の流れについての基本説明
2	利用学生・質問内容に関す	毎セメスター作成している「質問傾向分析レポート」
	る知見	を資料として保管
3	対応方法に関する知見	具体的な対応方法の知見を資料化。部会定例ミーティ
		ングの議論の成果等を集積。
4	部会運営や SLA 内勉強方法	各部会がこれまで実施したワークや勉強会の方法に
	に関する知見	関する説明資料
		ex) ロールプレイ、共同ビデオリフレクションの方法
		等
5	その他引き継ぎ事項	部会独自に設定しているルール等についての説明
		ex)数学部会 CH ラベル等
6	勉強材料 (≒演習問題)	(化学部会の動向等を受け、構想として項目化)

Tips 作成作業の目的は単純なものであるが、メンバーの入れ替わりを前提としながら複数人で共同運営していくため、『SLA Tips』ファイルの資料作成方法・整理保管方法・共有活用方法には、細かな課題が数多く存在する。恒常的な動きとするためには、目的の焦点化を含め、引き続き検討と改善が必要である。

「どのような情報を SLA 同士 (センター内) で共有する必要・価値があるか」という点について、本年度以前に概念提示した「Drip ラベル」(2016 年度『年次活動報告書』p.92 等参照)が改めて有効であることが、Tips 作成作業の過程の中で共有される場面があった。「Drip ラベル(共有の観点)」は、ラベル A: SLA 自身が対応に迷った事例、ラベル B: SLA が見逃しがちな学生のわからなさ・ニーズが現れた事例、ラベル C: 典型的なつまずき事例、ラベル D: 上手くいった対応事例、の 4 つ

に整理されている。しかし、Tips 作成作業に深く従事することでようやく意味が理解される側面もあり、運用には工夫が必要である。

#### (2) 部会別 Tips 資料作成工程の模索と本年度成果

実践に有益な Tips 資料とするために何をどのように集積していくのか、部会ごとに方法が模索された。「部会 Tips」となるための要件として一点提示した枠組は、「一定数の部会メンバーの承認を得て完成とすること」であった。これは、SLA が個人の提案でバラバラと Tips を増産することではなく、部会としての共通見解や部会の総意として次代に引き継ぐ知見を残すことを優先するという「セレクション機能」と「一定の質保証」をねらったためである。

ただし、具体的な Tips 資料作成にあたっては、思考の深まりや文章作成能力を必要とすることから、1人の人間がある程度作業に従事することも必要となる。工程の中で、共同作業と個人作業をどのように組み合わせるかが方法レベルの多様性を生む一つの要因となっている。

作業工程としては、実践事例や議論が先行して存在し、この中から共有・継承価値があると判断したものを資料化するタイプ(物理部会など)と、共有・継承が必要になりそうなトピックをあらかじめ候補として選出し資料化を行うタイプ(数学部会など)があった。Tips の目的からすると前者の在り方を基本として想定していたが、後者についても、経験値を活かし、年度や質問者の属性に左右されにくいトピックや担当領域における普遍的課題を想定して取り組むことも可能である。両者の作業工程の違いを理解しながらバランスをとることで、よりよい方法を選択できるものと考えられる。

本年度完成に至った資料たちはそれなりに有益な資料となったように思うが、これを活かす体制や、今後も同様の形で資料化作業が可能かどうかは検討の余地がある。数学部会の年度総括の話し合いの中では、個々人の「Tips の種(アイディア)」くらいのものがより気軽に集積できる形態がある方がよいのではないかといった声も聞かれた。「十全な資料」よりも「考える・気づくきっかけとなるアイディアの集積」が価値を持つことも十分に考え得る。次年度以降の課題としたい。

#### ①物理部会

- 部会として共有したい知見を「学生のつまずき(とそれへの支援)」と「物理に興味を持ってもらうための話題」(具体的には、物理の身近な現象例)の2種類に分類。
- 知見集積・共有方法についても2タイプある。
  - 「つまずき」は、【①実践】→【②他メンバーと検討したいものをピックアップし部会ミーティングで議論】→【③議論を踏まえ、資料化候補となったものを担当者が資料化】
  - ▶ 「身近な現象例」は、【①活動中に各自共通ファイルに書き込み】→【②部会ミーティングで情報共有+報告担当者が1つ話題をセレクトし共有】
- 事例検討から知見を資料化するというスタンダード型を追求。事例検討時に、文脈依存的な情報と知見化を見越した一定程度文脈から切り離した議論とのバランスをとることが課題。

#### 本年度作成 Tips

#### 学生のつまずき

- 「鏡像法が分かりません」
- ・「電磁波の波動方程式が分かりません」
- 「電場の式が求められない」
- ・「連成振動の固有ベクトルの重ね合わせのイメージが湧きません」

#### 物理の身近な現象例

・電磁気学、特殊相対論、熱力学、物理数学、流体力学、量子力学、力学に関するもの

#### ②数学部会

● 熟練メンバーの存在を活かし、年度当初に Tips 候補項目を定めたことが特徴。

- 【①Tips 候補項目一覧を提示→1 人 1 項目以上担当割り振り】→担当項目について過去の対応 記録を参照+自身の経験事例も踏まえ【②各自資料を作成】→ある程度資料ができた段階で【③ 内容の過不足について部会ミーティングで議論】→【④議論を踏まえて加筆修正】
- あらかじめ項目を決める形態は資料化作業が自己目的化する懸念があったが、項目選定時にこれまでの経験値を反映できたこと、資料作成の際に過去・現在の事例を踏まえる意識を共通に持てたこと、議論時に最新の事例を踏まえた検討が行えたことで、現在進行形の実践にも活きる議論が生まれ、実践・ミーティング・資料化作業の連動性を持つことができた。
- 【②各自資料を作成】までできた項目は複数あったが、完成に至ったのは下記2件であった。

#### 本年度作成 Tips

- 「有理関数の積分ができません」
- 「逆関数ってなんですか」

#### ③化学部会

- 前年度中に「質問が多い+説明が難しいトピック」を選定し勉強会を行っていたため、これを 資料化することを Tips 作成作業とした。その意味では、数学部会の方法に近い。
- 加えて、【定例ミーティングの中で議論の成果があった事例】も資料化候補に追加し、情報提供 者が議論の内容を踏まえて資料化した。これは物理部会の方法に近い。
- 未完成の Tips も複数あり、次年度に引き継ぐこととなった。完成したのは以下 2 件である。

#### 本年度作成 Tips

- ・「シクロヘキサンの cis/trans が分かりません」
- 「共鳴」

#### 4英語部会

- 理系部会に比べると Tips 作成作業は従的活動。
- 部会ミーティングで議論したことや、部会ミーティング内の勉強会(担当者があらかじめ決めたトピックについて講義・話題提供)の情報を資料としてまとめた。

#### 本年度作成 Tips

- 「会話中の誤りへの対応」
- ・「ニーズの聞き取り」

#### ⑤ライティング部会

- 理系部会に比べると Tips 作成作業は従的活動。
- 部会メンバー間で対応方針の共通化が提案された案件や、部会ミーティングにおいて議題に上がったトピックを資料化した。

#### 本年度作成 Tips

- ・Webページの利用・引用について
- ・モノの力
- 留学生対応の計画の仕方
- レポートにおける「正しさ」

#### ⑥企画部会

● 企画 SLA とは何かという課題意識や、作業に必要な情報を資料としてまとめた。

#### 本年度作成 Tips

- ・企画 SLA の勘所
- フォーマット/広報等について

# 3. センター活動・実績報告

# **∦** Summary ⊩

学習支援センターでは、SLA が学習支援を行う「SLA サポート」として、①物理・数学・化学を中心とした理系科目支援、②英会話支援、③ライティング支援、④企画発信型支援を行っている。センターが行う支援としては、⑤自主ゼミ支援、⑥授業連携型支援(現在見直しのため休止中)を行っている。また、本学に「学び合い」文化を醸成することを企図し、「CLS "学びの転換"セミナー」を実施している。

#### ■SLA サポート

#### ①理系3科目(物理・数学・化学)支援

個別対応型(チュータリング)の支援を行っている。2017年度の利用者のべ数は、年間800人(前期468人、後期332人)であった。本年度は、予算縮小に伴い窓口開設数を前年度の6割にとどめることになり、その結果利用者数も6割となった。

#### ②英会話支援

複数人で話すタイプの「英会話カフェ」とマンツーマンタイプの「1 on 1 英会話」の2種の活動を展開しているが、後期セメスターは原則「英会話カフェ」のみの活動となった。利用者数は486人(前期306人、後期180人)であった。2回以上利用する学生の割合は増加した。

#### ③ライティング支援

個別対応型(チュータリング)支援と企画発信型支援の2 形態で支援を行っている。個別対応型 支援は利用者数が103人と増加した。このうち連携授業の受講生の利用は4割で、一般利用の割合 が増加した。また留学生向け日本語ライティング支援の開発・実施を試行した。企画発信型支援と しては「指南書入門ゼミ」を開催、参加者は88人であった。

#### ④学習イベント

企画担当 SLA により、イベント企画を 3 種 (SLA 雑談会、考えるソファ、日本語カフェ)、掲示 企画を 2 種 (チャレンジボード、コタエテ! SLA) 実施した。

#### ■その他の支援

#### ⑤自主ゼミ支援

本年度の登録は3ゼミ(名簿登録学生数115名)であった。

#### ■CLS "学びの転換" セミナー

本年度は2回セミナーを開催し、参加者は延べ95名であった。

### 理系科目支援(主に、物理・数学・化学)

理系3科目(物理・数学・化学)の学習支援は、平日2~5講時の間で質問窓口を設置し、個別対応型学習支援の形態で支援を実施している(表3-1-1)。2017年度の利用者数は、のべ年間800人(前期468人、後期332人)であった。

#### ① 窓口開設数縮小と利用者数減少

予算縮小に伴い、窓口開設数を前年度の約 6 割に縮小せざるを得なく、それに伴い利用者数も減少した。例年多い工学部、理学部の利用が特に減少したが、これは各授業での課題の出され方の影響もあったと考えられる。一方、農学部、



薬学部の利用はさほど落ち込まなかったが、これは、「物理学 A (高校物理未履修者用)」などでの利用が多かったためだと推測される。

利用者数については、実数が前年度比 6 割、延べ数が 4 割であった。前年度は、自学を積極的に進めているリピーター学生が多かったのが特徴であったが、今年度は前年度ほどリピーター学生の利用は見られなかった。

#### ③ 対応知見等のまとめ

理系科目支援の活動が蓄積され、大まかな利用傾向や対応の知見などが見えてきたため、個々で持っている経験知を、全体の知として残すべく資料化する作業に力を入れた(詳細はpp.29-32)。

<表 3-1-1. 2017 年度前期・後期 SLA 配置数(理系)>

前期	月				火		水				木		金		
	物	数	化	物	数	化	物	数	化	物	数	化	物	数	化
2 講時							1	1						1	
昼休み	1			1	1		1	1		1	1		1	1	
3 講時	1	1		1	1		1			1	1		1	1	
4 講時	2	1	1	1	1	1	2	1		1	1	1	1	2	
5 講時	2	1	1	2	1	1	2	1		1	1	1	3	1	

後期	月				火			水			木		金		
	物	数	化	物	数	化	物	数	化	物	数	化	物	数	化
2 講時							1	1							
昼休み				1	1		2	1							
3 講時	1	1		1	1		2	1							
4 講時	2	2		1	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	
5 講時	1	2		1	1	1	2	1	1	2	2	1	2	1	

# ■□ 詳細データ □■

## ① 利用者数

利用者延べ数は 800 人で前年度比 45.3%、利用者実数は 240 名で前年度比 67.4%、対応件数は 739 件で前年度比 45.4%であった。月別に見ると、4~7月の利用者数の減少、8・11・12 月の増加が特徴的である。

<表 3-1-2. 2010~2017 年度 理系支援利用者のべ数変遷>

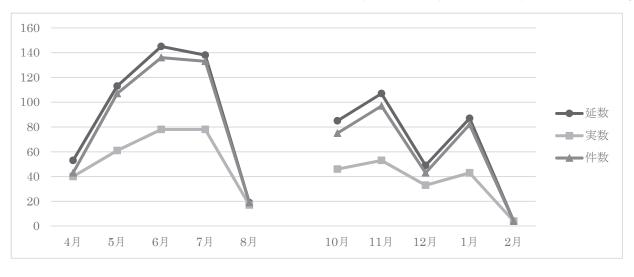
	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
前期	85	901	1,125	916	1,682	1,545	972	468
後期	304	433	761	421	1,121	786	795	332
合計	389	1,334	1,886	1,337	2,803	2,331	1,767	800

(単位:人)

<表 3-1-3. 月別理系支援利用者数【理'17】>

	日数	対前年度差	延数(人)	対前年度比	実数(名)	対前年度比	件数(件)	対前年度比
4月	10	1	53	62.4%	40	63.5%	43	58.1%
5月	18	2	113	51.4%	61	53.0%	107	55.4%
6月	22	0	145	50.0%	78	64.5%	136	52.5%
7月	20	0	138	43.9%	78	55.3%	133	47.3%
8月	4	-4	19	30.2%	17	47.2%	19	32.8%
10月	15	1	85	44.7%	46	51.1%	75	42.6%
11月	20	0	107	49.1%	53	68.8%	97	46.0%
12月	16	0	49	45.4%	33	63.5%	43	41.7%
1月	16	0	87	40.5%	43	55.1%	82	38.7%
2月	2	-6	4	6.3%	4	9.5%	4	6.7%
合計	143	-6	800	45.3%	240*1	67.4%	739	45.4%

※1 実数合計は、月別合計の累計数ではなく、年間の実数を表す。



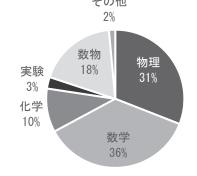
<図 3-1-1. 月別理系支援利用者数推移 【理'17】>

# ② 科目別利用傾向

今年度は数学・実験・数物の割合がやや減少し、物理の割合がやや増加した。 ※「数学物理学演習」を「数物」、「自然科学総合実験」を「実験」と表記している。

物理	230
数学	269
化学	76
実験	20
数物	137
その他	11

単位:件



<図 2-1-2. 科目別利用割合 【理'17】>

## ③ 目的別利用傾向

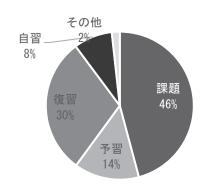
今年度は自習での利用割合がやや減少し、課題・復習での割合がやや増加した。

<表 3-1-5. 目的別利用件数【理'17】>

課題	342
予習	106
復習	222
自習	63
その他	13

単位:件

※未回答を除く



<図 2-1-3. 目的別利用割合【理'17】>

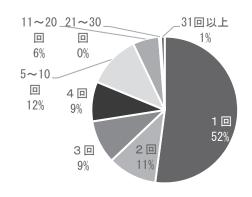
# ④ 利用回数別利用者数

今年度は1回利用の割合が増加し、2回利用の割合が減少した。

## <表 3-1-6. 利用回数別人数(実数) [理'17] >

利用回数	人数
1 回	125
2 回	26
3 回	23
4 回	21
5 <b>~</b> 10 回	28
11~20 回	14
21~30 回	1
31 回以上	2

単位:人



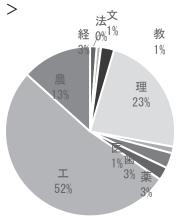
<図 2-1-4. 利用回数別利用割合【理'17】>

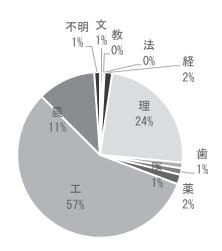
# ⑤ 学部別利用者数

学部別に見ると、理学部生が前年度と比べて実数 5 割、延べ数 3.6 割に減少した。薬・農学部生はあまり変わらなかった。

<表 3-1-7. 学部別利用者数【理'17】>

120 1 1	. 1 Hb21111	711 11 20 12
学部	実数(名)	延数(人)
文	3	4
教	2	3
法	0	0
経	6	12
理	56	193
医	3	9
歯	7	10
薬	6	15
工	125	454
農	32	91
不明	_	9
合計	240	800





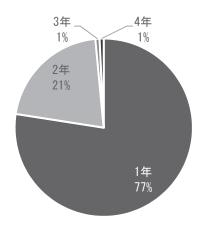
<図 3-1-5. 学部別利用割合(左:実数、右:のべ数) 【理'17】 >

# ⑥ 学年別利用者数

1年生の割合が減少し、2年生の割合が増加した。

# <表 3-1-8. 学年別利用者数(のべ数) 【理'17】>

学年	人数
1年	619
2年	168
3年	6
4年	6
研究生	1
合計	800



<図 3-1-6. 学年別利用割合(のべ数) 【理'17】>

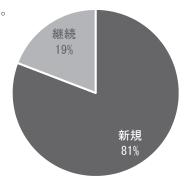
## ⑦ 新規・継続別利用者数

新規利用者の割合が増加し、継続利用者の割合が減少した。

<表 3-1-9. 新規・継続利用者数(実数) 【理'17】>

	2017 年度
新規利用者	194
継続利用者	46

※「新規利用者」: 2017 年度初めて利用した学生、「継続利用者」: 前年度以前も利用したことがある学生



<図 3-1-7. 新規・継続利用者割合(実数) 【理'17】>

# ⑧ 授業別利用者数

前期セメスターについて、一昨年度急増した工学部専門の授業「数学物理学演習」の質問が落ち着いた。それに伴い工学部生の利用が軒並み減少し、昨年度の半数を切る利用者数の授業もいくつかあった。特に「自然科学総合実験」の利用が減少した。

一方、後期セメスターでは、前期セメスターほど利用者数は減少せず、数学の授業においては前 年度を上回った。これは、熱心なリピーター学生がいたことが影響している。

<表 3-1-10. 2016 年度・2017 年度上位 7 授業別利用者のべ数比較>

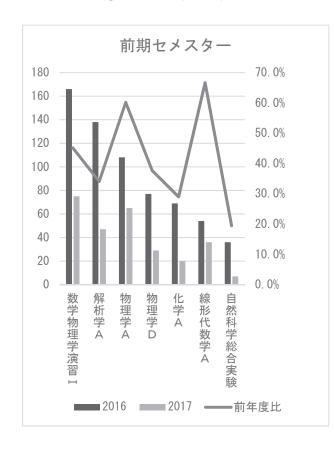
^	4	- 40	1-	. 1	_	4	
А	BII	ᅤᅤ	+	メ	~	7	_

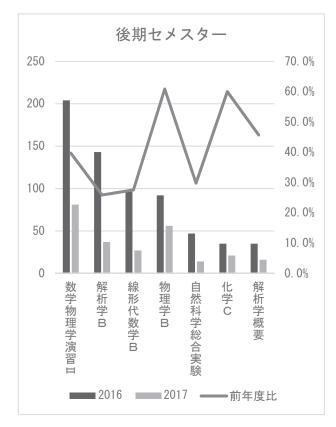
八. 門 为 亡。	/· / /		
授業名	2016	2017	前年度比
数学物理学演習 I	166 人	75 人	45.2%
物理学A	108 人	65 人	60.2%
解析学A	138 人	47 人	34.1%
線形代数学A	54 人	36 人	66.7%
物理学D	77 人	29 人	37.7%
化学A	69 人	20 人	29.0%
自然科学総合実験	36 人	7人	19.4%
数理統計学	32 人	29 人	90.6%

B.後期セメスター						
授業名	2016	2017	前年度比			
数学物理学演習Ⅱ	204 人	81 人	39.7%			
物理学B	92 人	56 人	60.9%			
解析学B	143 人	37 人	25.9%			
線形代数学B	98 人	27 人	27.6%			
化学C	35 人	21 人	60.0%			
解析学概要	35 人	16 人	45.7%			
自然科学総合実験	47 人	14 人	29.8%			

利用者数合計	972 人	468 人	48.1%	利用者数合計	795 人	332 人	41.8%

(「利用者数合計」はその他の質問を含むセメスター全体の合計数である。前年度比率の比較のために掲載した。)





# 英会話支援

英会話支援では、複数人で話すタイプの「英会話カフェ」(以下、「カフェ」とする。)とマンツーマンタイプの「1 on 1 英会話」(以下、「1 on 1」とする。)の2週類の活動を展開している。英会話については、担当する SLA 学生の時間割を鑑みながらセメスターごとに活動時間を決定している。2017年度の活動日は下表の通りである。

# ① 利用者数

前期セメスターでは、窓口開設数は前年度とほぼ同数で利用者数もほぼ同じであった。後期セメスターでは、窓口開設数が前年度の7割となり、利用者数は8割となった。また、後期セメスターでは原則カフェのみの開設とし、1on1は要相談とした。

利用回数に着目すると、2回以上利用の割合が前年度より1割増加した。



# ② 専門性・標準スキルの向上

前年度から継続してきた取組みとして、カフェの型(流れの基本形)を整備し、SLAで共有してきた。また、活動の中で使用する activity tools の整備をしたほか、ただ会話するだけでなく、どのように学びを生む工夫をするかということについて、検討していった。

<表 3-2-1. 2017 年度前期・後期 SLA 配置数(英会話)>

前期	J	1	ز	<b>火</b>	7.	k	7	<b>t</b>	축	È
	カフェ	1on1	カフェ	lon1	カフェ	1on1	カフェ	1on1	カフェ	lon1
2 講時										
昼休み	1									
3 講時	1									
4 講時	1	1	1	1	1		1	1	1	1
5 講時	1	1	1	1	1		1	1	1	1

後期	F	1	2	ل <del>ر</del>	7	k	7	ţ.	숲	È
	カフェ	1on1	カフェ	lon1	カフェ	1on1	カフェ	1on1	カフェ	1on1
2 講時										
昼休み										
3 講時										
4 講時	2		2		2		2		1	
5 講時	2		2		2		2		1	

※後期はカフェが基本、1on1 は要相談。

# ■□ 詳細データ □■

# ① 利用者数

利用者数は 486 人であった。利用形態別にみると、「カフェ」利用が 414 人、「lon1」利用が 72 人である。

<表 3-2-2. 2010~2017 年度の英会話支援利用者のべ数変遷>

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
前期	(7)	215	100	203	238	427	312	306
後期	(22)	183	61	133	460	224	206	180
合計	(29)	398	161	336	698	651	518	486

※2010年度は別形態だったため、参考値(単位:人)

## <表 3-2-3. 2017 年度英会話支援利用者数>

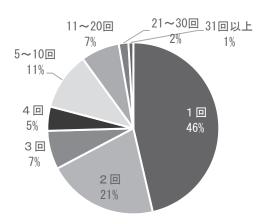
	4 月	5月	6月	7月	8月	前期計	10 月	11 月	12 月	1月	2月	後期計	合計
開催回数	17	37	39	30	3	126	11	20	16	16	2	65	191
利用者数	41	103	102	56	4	306	39	64	44	30	3	180	486
(カフェ)	32	81	83	44	3	243	36	62	41	29	3	171	414
(1on1)	9	22	19	12	1	63	3	2	3	1	0	9	72

#### ② 利用回数別利用者数

例年通り、3回までの利用者が7割以上を占めた。今年度は1回のみの学生の割合が減少し、2回利用する学生の割合が54%に増加した。

<表 3-2-4. 利用回数別人数【英'17】>

利用回数	人数
1 回	51
2 回	23
3 回	8
4 回	5
5~10 回	12
11~20 回	8
21~30 回	2
31 回以上	1



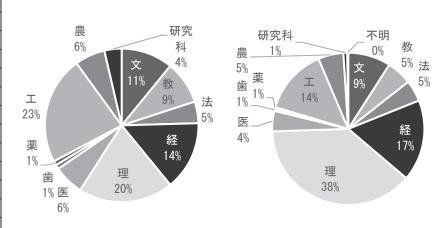
<図 3-2-1. 利用回数別割合【英'17】>

# ③ 学部別利用者数

前年度と同様、経・理・工学部の利用割合が多かった。理学部は実数・延べ数ともに増加したが、 工学部は実数・延べ数ともに減少した。

<表 3-2-5. 学部別利用者数【英'17】>

`	12 3-2-3.	1 Link fiction	11 双【关 1
	学部	実数(名)	延数(人)
	文	12	44
	教	10	26
	法	5	22
	経	16	84
	理	22	186
	医	7	21
	歯	1	2
	薬	1	2
	エ	25	68
	農	7	26
	研究科	4	4
	不明	_	1
	合計	110	486



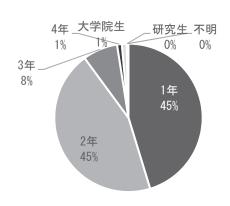
<図 3-2-2. 学部別利用割合(左:実数、右:のべ数)【英'17】>

# ④ 学年別利用者数

1、3年生の延べ数は減少したが、2年生の延べ数は倍増した。これは、2年生の熱心なリピーター学生がいたためだと思われる。

<表 3-2-6. 学年別利用者数(のべ数)【英'17】>

学年	人数
1年	220
2年	217
3年	37
4年	5
M1	3
D生	2
研究生	1
不明	1
合計	486



<図 3-2-3. 学年別利用者数(のべ数)【英'17】>

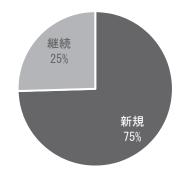
## ⑤ 新規·継続別利用者数

新規・継続の割合は前年度とほぼ同じである。

<表 3-2-7. 新規・継続利用者数 (実数) 【英'17】 >

新規利用者	82
継続利用者	28

※「新規利用者」=2017 年度初めて 利用した学生、「継続利用者」=前年 度以前も利用したことがある学生



<図 3-2-4. 新規・継続利用者割合(実数) 【英'17】>

# ライティング支援

ライティング支援は、窓口対応(個別対応型支援)とぜミ開催(企画発信型支援)の2 形態で支援活動を行った。前期・後期各セメスターの窓口設置数は<表3-3-1>、ゼミ開催内容は<表3-3-6>の通りである。

#### ① 窓口利用者数

窓口について、開設数は前年度と比べ前期は半減、後期は1割減であった。一方利用者数は増加し、延べ103人、実数70名の利用であった(2016年度は61人、56名)。利用回数について見ると、前年度までは1回利用者が多かったのに対し、今年度は2回以上利用する学生が増加した。利用証明書発行活用授業(以下、「活用授業」、⑥にて後述)の利用者はのべ60人で全体の58%であり、昨年度より全体に占める割合が減少した。授業での指示ではなく自主的に利用する学生が増加したとみられる。質問内容は「構成・章立て」に関する質問が最も多く、次いで「文章表現」に関する



ものが多かった。「文章表現」については、後述③に関する留学生対応が増加したことによる(表 3-3-4)。

# ② 『レポート指南書』入門ゼミ(企画発信型)の実施

今年度から『東北大学レポート指南書』が入学オリエンテーション時 1 年生全員に配布されるようになった。この動きを受け、その内容に準じた「『レポート指南書』入門ゼミ」を作成、開催した。参加者数は、特に前期セメスター第 1 期が多く、毎回 10 名を超える参加があった(表 3-3-6)。

#### ③ 留学生向け日本語ライティング支援の試行

昨年度から着手していた、留学生の日本語ライティング支援を試行的に実施した。林雅子講師の 授業(詳細データ⑥参照)と連携し、課題の一部において、当窓口の利用を推奨・支持してもらっ た。これらの対応から得られた経験をもとに、支援方法について検討した。

# ④ 「ライティング支援ページ」の作成

ライティング支援に関する情報を集約し、センターのホームページ上に、学生向けと教員向けのページで構成されるポータルサイトを開設した。学生向けページでは、『東北大学レポート指南書』を含めた学生向けのライティング教材をアップロードしており、その他「レポート指南書入門ゼミ」の情報や、附属図書館主催の文献検索講習会、「自然科学総合実験」のサイトへのリンクなどを掲載した。教員向けページでは、当センターでの授業連携・授業支援についての案内や、ライティング教育において参考になる情報・サイトへのリンクを掲載した。

<表 3-3-1. 2017 年度前期・後期 SLA 配置数 (ライティング) >

前期	月	火	水	木	金
2 講時					
昼休み					
3 講時	1		1		
4 講時	2		2		

後期	月	火	水	木	金
2 講時					
昼休み					
3 講時					
3 講時 4 講時	1	1	2	1	

# ■□ 詳細データ □■

# ① 窓口利用者数

前年度より延べ42人増加した。⑥にある活用授業以外の利用者も増加したのが特徴である。

<表 3-3-2. ライティング支援窓口利用者数 【ラ'17】>

	延数(人) a	対前年度差	受付日数(日) b	1日当たり 数 a/b	実数(名)
4月	0	-3	2	0	0
5月	23(16)	+21	8	2.9	21
6月	20(11)	+18	12	2.5	13
7月	23(18)	+1	12	3.3	7
8月	2(2)	-3	5	2.0	2
10 月	1(0)	ı	12	0.1	1
11月	2(0)	ı	16	0.1	2
12 月	12(5)	ı	12	1.0	10
1月	16(6)	+3	13	1.2	11
2月	4(2)	-10	1	4.0	4
合計	103(60) *1	+42	80	(平均) 1.3	70*2

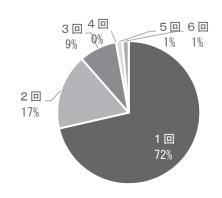
<sup>※1</sup> 表中()内の数字は、活用授業受講生の利用者数。 ※2 セメスターを通しての実数。月別の合計数ではない。

# ② 利用回数別利用者数 (窓口)

前年度は9割以上が1回のみの利用であったが、今年度は複数回利用する学生の割合が増加した。

<表 3-3-3. 利用回数別人数【ラ'17】>

利用回数	人数
1回	50
2 回	12
3 回	6
4 回	0
5 回	1
6 旦	1



<図 3-3-1. 利用回数別割合【ラ'17】>

## ③ 利用目的

前年度と変わり、構成・章立てに関する質問が最も多かった。文章表現に関する利用が増加した。

<表 3-3-4. 利用目的別延べ人数【ラ'17】>

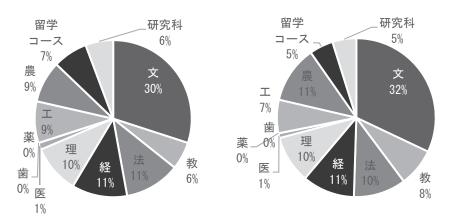
利用目的	レポート 全般	問い・ テーマ	文章表現	形式・ ルール	構成・ 章立て	文献• 資料検索	その他
人数	20	19	36	26	40	7	13

# ④ 学部別利用者数

利用者の所属は、文学部の割合が延べ数・実数共に増加した。

# <表 3-3-5. 学部別利用者数【ラ'17】>

	3 11/753 1 371	(4 0-0-0. 于即州州州日数【7 II						
学部	実数 (名)	延数(人)						
文	21	33						
教	4	8						
法	8	11						
経	8	11						
理	7	10						
医	1	1						
摇	0	0						
薬	0	0						
工	6	7						
農	6	12						
留学コース	5	5						
研究科	4	5						
合計	70	103						



<図 3-3-2. 学部別利用割合(左:実数、右:のべ数) [ラ'17] >

# ⑤ セミナー参加者・開催数

参加者数は合計 88 人で、前期セメスターの第1期が多く、後期はほとんど参加がなかった。開催回数は、前期セメスター第1期が各4回、第2期が各2回、後期セメスターが各3回(4,5番目は各4回)であった。

## <表 3-3-6. 指南書入門ゼミ参加者数【ラ'17】>

センナ 中京	参加者数(人)			
セミナー内容	前期1	前期 2	後期	
1. 思考を整理して問いを立てよう! -マインドマップの活用術-	17	3	2	
2. レポートの構成を見抜け!-アウトラインの実践法-	14	6	1	
3. 誰でもできる!分かりやすい文章-パラグラフライティングの書き方-	11	4	1	
4. 極める、引用! - 先人の知恵を借りる技-	11	3	0	
5. レポートを磨け!-推敲の奥義-	11	4	0	

#### ⑥ 利用証明書発行サービス活用授業

授業担当教員の依頼により、SLA の窓口利用を証明するシートを学生に対し発行している。授業と課外学習をつなぎ、窓口利用を促進する仕組みである。

#### く表 3-3-7. 2017 年度ライティング窓口利用証明書発行サービス活用授業>

学期	教員	対象授業	形態
前	西尾剛 他	「大学生のレポート作成入門:図書館を活用したスタディスキル」	推奨
前	中川学	基礎ゼミ「フィールドワークの日本史」	必須
前	大森不二雄	基礎ゼミ「あなたの専門分野の面白さを伝えてください」	推奨
前	林雅子	基礎ゼミ「マルチメディアを活用した日本語~マンガ・アニメを通して自国の言語・文化を伝え合おう~」	必須
後	林雅子	展開ゼミ「マルチメディアを活用した日本語~応用マルチメディア・ コーパス言語学:ドラマや映画を使って言葉を調べて教え合おう~」	推奨

# 学習イベント企画

2016年11月より、企画発信型学習支援を担う企画担当SLAを雇用し、ニーズ創出型・学びの機会創造型の学習支援の充実・拡大に取り組んでいる。

#### (1) 企画担当 SLA による学習イベント・展示企画

2017 年度の企画担当 SLA は新規メンバー4 名を含む計 7 名で、定期的で持続可能な学習イベント・企画の開発を目指した。本年度の取組みは以下の通りである。

<表 3-4-1. 2017 年度実施学習イベント・展示企画>

企画名	実施日・期間	開催場所	参加者数
	2017年6月27日(火)~2018年1月24日(水)		
考えるソファ	16:30~17:30(原則)		延べ 29 人
	全7回	学習支援	
	2017年11月16日(木)~2018年2月1日(木)	センター	
日本語カフェ	12:10-12:50	(M棟1階SLA	延べ 17 人
	全 17 回	ラウンジ)	
チャレンジボード	2017年5月22日(月)~		-
コタエテ!SLA	2017年7月~		-

#### (1) 考えるソファ

本企画は、様々な人が集まって哲学的なテーマについて議論する「てつがくカフェ」をモデルに立案された。「誰もが考えられる日常的な事柄でありながら、普段は立ち止まって考えることがないような内容」をテーマとし、それに基づいて参加者全員で自由に対話する企画である。事前に決めておくのはテーマのみで、文献や参考資料等は用意しない。自身が既に持っている知識・考えと他者の発言のみという限られたリソースをもとに自分の考えを整理し、言語化するプロセスに重心を置いている。また、その場で初めて会う人々と共通のテーマで対話することで、思考能力やコミュニケーション能力の向上も期待される。

各回は1時間程度で、前半は主に議論を拡散させることに主眼を置く。ある程度発言が集まったらその中からキーワード、対となるような問い、面白い着眼点などを拾い上げ、それらを中心に議論を掘り下げることを意識している。

運営上の工夫としては、①SLA はファシリテーションとグラフィックを担当するが、対等な立場の参加者として意見・質問を交えつつ対話に参加すること、②「話しても、話さなくてもいい」「どんどん問いかけましょう」「ここはフラットな場です」等のグランドルールを設定し、参加者が各自のやり方で能動的に対話に参加できる環境づくりを心掛けたこと、③最初の問いで議論の方向性が決まってしまわないように留意したこと、が挙げられる。③に関して、例えば「目標は持つべきか?」というテーマに対し、ファシリテーターは最初から「目標は持つべきだと思いますか?」と問いかけるのではなく、「〈目標〉についてどんな考えが浮かびますか?」といったところから議論を始める。こうすることで「そもそも〈目標〉って何なの?」「〈目標〉と〈夢〉って似ているようで違う気がする」といったように参加者から問いを引き出すことができる。これによって、参加者のアウトプットを単なる Yes/No で終わらせず、内省的で臨場感のある対話の場を構築することが可能であった。

#### (2) 日本語カフェ

本企画は留学生を対象に「学生同士気軽に日本語で話せる」機会の創出を目指すものである。東北大学に在籍する留学生にとって、授業以外で日本語の練習をする場が不足しているという現状がある。留学生の多くが日本人学生との交流を望んでいる一方で、身近な日本人学生は非常に少ない(東北大学留学生生活調査 (2016) より)。同様の問題意識から 2016 年度後期に「Academian Talk +」を 2 回開催したが、これらは単発のイベントであった。2017 年度は「ここに来れば日本語で話せる相手がいる」という定常的な支援・交流の場の提供を目指し、週 2 回のペースで定期開催を行った。

各回は 40 分構成で、最初の 5 分程度はアイスブレイクを兼ねてどのような話題で話したいか、日本語を学ぶ上でどのようなことに困っているかなどを聞き取る。この際のやりとりから参加学生の大体の日本語レベルを判断し、活動の進め方を決定する。その後はメインの活動に移り、トピックカードに基づいた会話やしりとりをはじめとする日本語ゲームなどを行う。最後の 5 分程度は分からなかった箇所や新しく覚えた表現を確認するなどし、活動内容の省察を促す。

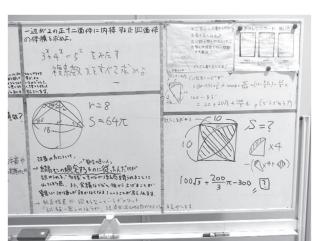
運営上の工夫としては、①「できるだけ日本語で話そう」「間違えても気にせず積極的に」「他の人が話す日本語もよく聞いてみよう」等のグランドルールを設け、留学生が気軽に発言できる雰囲気づくりを意識したこと、②参加者から要望がない限り SLA からの文法解説などはせず、「友達と話すような気軽な雰囲気で、日本語を実際に使って表現する」時間を多く取ること、③参加者が複数人の場合は留学生同士の会話も促すことが挙げられる。互いの専門分野について相手に分かるように説明する練習を取り入れる、共通の趣味がある場合にはその話題を深く掘り下げるなどした。

#### (3) チャレンジボード、コタエテ!SLA

これらは常設展示型の企画であり、SLA ラウンジに立ち寄った際に気軽に書き込むことができる。「チャレンジボード」では、学生がホワイトボードに問題を書き込み、それを見た学生が解答を書き込んでいくことで学生同士の学びの交流を生み出す。SLA の想定としては数学や物理の問題が多く書き込まれることを見込んでいたが、語学や教育などに関する出題も見られ、文理を問わず学生の関心を引くことに成功したと言える。SLA はあくまでホワイトボードの設置・管理を担当し、中身は SLA ラウンジを訪れた学生自身が組み立てていく。

「コタエテ!SLA」は通常の窓口対応では訊きにくい質問や要望などを吸い上げ、対応の改善や新企画の立案に活かすことを目的としている。また、質問や希望、不満な点を書き出すことそのものが、自身の学習を省察する契機となることも意図した。SLA ラウンジに質問紙と投稿用ボックス、掲示板を設置し、SLA からの回答を付して掲示している。





<写真>考えるソファの様子(左)とチャレンジボード(右)

#### (2) センターによる学習イベント

SLA の窓口では授業に関連した質問の対応が中心となっており、「質問がはっきりとしていなければ、SLA に話しかけられない」と 1,2 年生に思われているという声も聞かれている。そのため、授業に関する質問以外の学習面や、進路の相談に特化したイベント、「SLA カフェ〜先輩と話そう!」を企画した。

イベントは、1回40分間で、SLAの話題提供の後にフリートークという構成で行った。SLAには大学でどのような勉強をし、どのような大学生活をしてきたか、その中でどのような成長が得られたかという話を提供してもらった。その後、参加学生の方から自分の興味関心のある部分について質問をしてもらい、話していくという流れであった。

テーマは下記の9つを設けたが、参加学生は延べ3人と少数であった。12月という開催時期の影響もあったと考えられるが、数年先を行く先輩の体験談の有用性を1,2年生に認識してもらうのには課題が残った。

#### 【開催日とテーマ一覧】

- 12/5 休学するか悩んでから専門にハマるまで! (化学 SLA)
- 12/6 談話室で実は SLA だった先輩と数学の勉強をしていた話+サークル (数学 SLA)
- 12/8 留学+研究テーマの決め方+文系の研究と進路の関係(英語 SLA)
- 12/12 就活をきっかけに振りかえた大学生活(数学 SLA)
- 12/13 迷い迷った研究分野+自習ゼミでの学び-友達と好きなことを勉強しよう! (物理 SLA)
- 12/18 自分のやりたいことを見つけよう! 動機不純のスタートでイイ(ライティング SLA)
- 12/19 自由な時間との向き合い方(物理 SLA)
- 12/20 人狼ゲームのススメ...研究や就活で役立つだまし合い(!?)(化学 SLA)
- 12/21 怒られてばかり、劣等感を抱えても何とかなる!その心得と経験談(物理 SLA)

# 利用学生評価

当センターでは、利用学生からの評価を得るためアンケートを実施している。このアンケートには 2 種類ある。一つは、定常的な活動で実施している、理系科目、英会話、ライティング支援におけるアンケート(以下、「利用者アンケート」)である。もう一つは、学習イベントにおいて、各企画への参加者に対し行うアンケート(以下、「イベント参加者アンケート」)である。

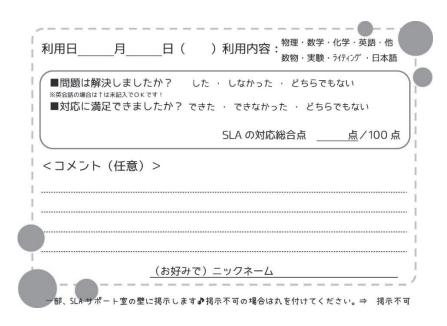
#### ① 利用者アンケート

利用者アンケートは、対応ごとにその都度アンケート用紙を配布する形で行っている。質問項目は図 3-5-1 の通りである。コメント欄は任意だが、枠線で囲まれている「問題解決、対応満足、対応総合点」は必須回答をお願いする形で案内している。ただし最終的な投稿は任意であり、未回収のものもある。このため利用者総数とは一致しないが、2017年度に回収したアンケート総数は 966 件であった。

2017 年度の利用学生による対応総合点は平均 96.7 点であり、過去最高を更新した(点数が記入されていたものは 914 件、100 点以上は 100 点に修正換算)。また、問題解決と対応満足の質問には、表 2-5-1 の通り多くの対応で、「解決」「満足」の回答を得ることができている。コメント欄の一覧は付録 A を参照されたい。

	(水 0 0 1: 「打け日 7 2 7 1 1 1 2 8 3 1 7 8 日								
	Q 問題	頭は解決しました	たか?	Q 対応に満足できましたか?					
	した	どちらでもない	しなかった	できた	どちらでもない	できなかった			
前期	462	28	13	605	9	1			
後期	244	8	4	282	1	2			
合計	706	36	17	887	10	3			

<表 3-5-1. 「利用者アンケート」における評価結果【2017】>



<図 3-5-1. 2017 年度版「利用者アンケート」用紙

# ② イベント参加者アンケート

イベント参加者アンケートは、下記の活動で配布した。満足度は概ね  $80\sim90$  点であった。感想は好印象のものが多かった。

<表 3-5-2. イベント参加者アンケートにおける評価結果【2017】>

	イベント名	満足度平均	感想 (抜粋)
1	『レポート指南書』	91.8	マインドマップを使うことによってレポートが書きやすくな
	入門ゼミ	(n=87)	ることを知ったので、マインドマップをこれからも利用しよう
	(計 47 回)		と思う。
			アウトラインを立てるだけで、自分のレポートが論理的である
			のか(問いと主張が一致しているか)を確認でき、とても大切
			なことだと思いました。
2	SLA 雑談会	91.1	大勢の先輩方に細かい質問までできて、良かったです。個人的
	(計6回)	(n=16)	に来たので、聞きたいことが聞けました。
3	考えるソファ	84.6	面白かったです。大学生らしいな、と思いました。
	(計 29 回)	(n=29)	非常に楽しかった。やっぱり少人数でやったのが良かったと思
			った。
4	SLA カフェ	98.3	「考えたいことがどの分野にあるのか」ということを調べる、
		(n=3)	興味があることと関連のあることに着目すする、ということ
			が、(考えたうえで) どのような研究をしていくか決める大きな
			ヒントになる、ということを学ばせて頂きました。今後も色々
			模索し続けていきたいと思います。

# 6 自主ゼミ支援

2017 年度の登録自主ゼミは、3 ゼミ (名簿登録学生数 115 名) であった。内訳は、以前から継続して登録しているゼミが 2 つ、新規登録したゼミが 1 つである。登録ゼミの詳細は表 3-6-1 の通りであり、今期は理系学生のみのゼミとなった。

センターで行っている支援内容としては、放課後の教室貸出と SLA ラウンジ利用時の備品貸出を中心とする、環境支援が主である。自主的な学習活動を支える上で、活動場所の提供は重要なサポートの一つである。しかし、大学内のラーニングコモンズの発展(附属図書館の改築)に伴い、相対的に環境支援のニーズは減少してくるものと思われ、実際に教室貸出回数は減少している。その中で、「自主ゼミ活動を生む」支援をいかに充実させていくかが課題である。

# ■□ 詳細データ □■

# ① 登録自主ゼミ一覧

合計3ゼミで、新規登録が1つあった。

#### <表 3-6-1. 2017 年度登録自主ゼミ>

ゼミ名	学生の所属	内容	主要学年	人数 ※	継続 /新規	支援時期
金属材料ゼミ	工学部 (材料系)	勉強会	1~3年	18	継続	前期・後期
FTE	主に工・理学部	ロケット製作	1~2年	91	継続	前期・後期
量子力学セミナー	理学部	勉強会	2年	6	新規	前期・後期

<sup>※「</sup>人数」は名簿登録人数であり、実際の活動人数は異なる場合もある。

# ② 教室貸出回数

貸出回数は合計17回で、前年度をやや下回った。

# <表 3-6-2. 2017 年度教室貸出回数>

	4 月	5月	6月	7月	8月	10 月	11 月	12 月	1月
回数	1	4	3	0	0	3	2	4	0



# 7

# CLS"学びの転換"セミナー開催報告

学習支援センターは、学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、学生間の「学び合い」文化を醸成することを使命に掲げている。CLS "学びの転換"セミナーは、この使命に取り組むための専門的知見や実践的経験を持つ講師を招聘し、東北大学における「学び合い」文化醸成に資することを目的としている。セミナーの対象は SLA に限らず、広く本学の学生や教職員とし、様々な視点から"学び"について意見交換や議論をすることを目指している。なお、本年度は、セミナーの第2部を、SLA 共通研修として位置付けた(詳細は p.100)。

テーマ	実施日・期間	開催場所	参加 者数
てつがくカフェ@東北大学 「好き」ってなに?	2017年 12月11日(水) 第1部16:20-17:50 第2部18:30-20:00	附属図書館2階 グローバル学習室	21 25
相手の心をつかむ"お笑い"コミュニケーション術 一元漫才師公務員の「お笑い行政講座」実践から学ぶ一	2018年 1月9日(火) 第1部16:30-18:00 第2部18:30-20:00	マルチメディア 教育研究棟 6階大ホール	22 27

# (1) 第1回: てつがくカフェ@東北大学 — 「好き」ってなに? —

概要:哲学は、ふだんは疑問に思わずに受け入れていることに対して「そもそも、何なのか」「本当にそうなのか」という問い直しを行うことから始まる。「てつがくカフェ@せんだい」として活動している講師を招聘し、哲学的な対話の考え方と方法について講演いただいた。第1部では、哲学的な対話を実践する場とし、「好きって、なに?」というテーマで哲学カフェを実施していただいた。第2部では、対話の場で重要となるファシリテーションとファシリテーション・グラフィックの技法やその背景にある概念理解と理論を学んだ。

講師:西村高宏氏(福井大学医学部・准教授)、近田真美子氏(福井医療大学・准教授)

# (2) 第2回:相手の心をつかむ "お笑い"コミュニケーション術 —元漫才師公務員の「お笑い行政講座」実践から学ぶ—

概要:このセミナーでは、講師が日頃活動されている「お笑い行政講座」を実演してもらい、公務員としての生き方や、難しい行政課題等を分かりやすく面白く伝える方法を学んだ。セミナーの中で"お笑い"の理論やそこで用いられるテクニックを講義していただくと共に、漫才の演習も取り入れながら、初対面であっても臆せずに、相手の心をつかむためのコミュニケーション術を学ぶ事ができた。

講師:江上昇氏・桂山智哉氏 (尼崎市役所・職員)



# CLS "学びの転換"セミナー(第1回)

# 「哲学的対話実践(てつがくカフェ)」について

福井大学医学部 准教授 西村 高宏

#### 1. なぜ、哲学なのか

哲学とは、当たり前のこと(自明のこと)として捉えている事柄に対して、そもそもそれはどういうことなのか、本当にそう言えるのかといった、根本に立ち還る問いを投げかけてみる試みから始まる。フィロソフィー(哲学)という語は、ギリシャ語のフィロソフィアに由来していて、「知を愛する」という意味が込められている。そして、哲学とはモノローグ(独白)ではなく、ダイアローグ(対話)を通して心理に至る営みである。

哲学には「言葉 (ロゴス)」という重要な要素がある。見えているのに、誰にも見えていないものを、見えるようにする。それを「言葉 (ロゴス)」によって見えるようにするのが、哲学の仕事である。

哲学には、忍耐強さが求められる。哲学的な思考を営むには、わからないことをわからないこととして、大切にする心構えが必要である。生きる意味、老いる意味、自分が存在する意味など、哲学的な問いを多くのひとが抱え込んでいるのが現代であり、答えが出ないかもしれないこのような問いと関わらなければ行きていけないのが現代人である。ここで大事なのは、「わからないことを、わかることで歪めてしまわない」忍耐強さである。

哲学の議論を、他の議論から区別する次のような2つの特徴がある。

- ①人間や世界に関わる普遍的な問いを立て、それにこたえようとすること。
- ②こうした問いとこたえにおける定義や論証のプロセスそのものを常に重視すること。

つまり哲学の議論は、議論される対象の種類や性質ではなく、議論の仕方や営みそのものによって、哲学的かどうかが判断される。

#### 2. 哲学カフェの方法

# (1) 哲学カフェの形式

哲学カフェの最小の共通要素としては、①場所、②議論のテーマ、③進行役(ファシリテータ)が 挙げられる。

場所としては、カフェ、図書館、研修室、書店、地域のコミュニティルームなどがある。基本的には誰もが自由に出入りできる場所であり、飲食が許されており、堅苦しくなくリラックスして議論のできる場所であることが求められる。参加形態としては、途中の出入りが可能な任意参加が原則であり、参加費はなく、カフェなどでは飲食費のみを参加者が負担する。

哲学カフェでは、その日のテーマが問いの形で提示されることが多い。テーマや問いは予め進行役(ファシリテータ)によって決められ、そのテーマに関心を持つ参加者が集う場合もあれば、当日 その場で参加者から提案されたテーマにする場合もある。テーマや問いは、特殊な知識を要するような専門的な問いは避ける。経験則の応用や実験によって答えられる問いもふさわしくない。基本的には、日常生活に関連し、誰もがそれについて考えられるもの、そして人間に関わる普遍的で根本的な問いが望ましい。

#### (2) 哲学カフェの流れ

哲学カフェは、いわゆるおしゃべりやディスカッションとは決定的に異なる。その理由は、以下のような哲学カフェ独自の約束事による。

- ① 対話が促進されるようフラットな対人関係にする。参加者すべてが平等な立場で考えて語ることが可能な場、そして、安全な場にする。
- ② 自分の考えを丁寧にまとめる。単なる感想ではなく、熟慮した意見を反省的に捉え返す。
- ③ 他の参加者の意見を正確に理解し、好意的な関心のもとに聴く。
- ④ 自分の考えとの類似点と相違点を確認する。
- ⑤ 質問をする際には、他の参加者の意見に論理矛盾がないか、不整合がないかを問う。
- ⑥ 自分の考えと他者の意見とをすり合わせ、修正する。場合によっては合意点を見出す。
- ⑦ 進行役(ファシリテータ)は、「意見の複数性」を明確にし、それを他の参加者にわかりやすく伝える。
- ⑧ 思考の流れ、プロセスそのものを楽しむ。自分の考えが変わること自体を楽しむ。

哲学カフェには、良い議論を育むための「方法論」は存在しない。良い議論を育むための唯一可能なことは、実践を繰り返し、その中で良い実践を共に見つけていくことしかない。

哲学カフェの実践では、一人ひとりが自分の考えを言葉にし、お互いの意見をよく聴きながら、 議論を協働で作っていくことが目指される。そこでは、たとえ一人が緻密な論理を構成したり、知 識を駆使して概念を導入したとしても、それが他の人に理解できず、議論に貢献できなければ、意 味がない。つまり、知識の有無が議論を決定するのではなく、参加者の関心を動かし、議論が活性化 されることが重要となる。

哲学カフェは、すでに知っていることの反復、共有されていることの確認、自分が話したいことを吐き出すことから始まる場合も多い。この議論への助走段階は重要である。哲学カフェでは、参加者が自分たちの思考そのものに目を移す瞬間をどう作り出すかが問題となる。

哲学カフェは、合意形成や集団の意思形成には不向きである。一人ひとりの発言を基本とする哲学カフェでは、交渉や調停が成立する余地はない。多数の参加者がいる場合、発言者がある程度限定されるので、進行役(ファシリテータ)の独断がなければ、テーマの決定も、発言者の氏名も、発言時間の制限もできなくなる。こうした中で目指すべきは、目標(答えや合意)に効率よく達することではなく、「議論や思考過程そのものを楽しむこと」である。

#### 3. 進行役(ファシリテータ)の存在

進行役(ファシリテータ)は、参加者に知識を与えるのではなく、参加者が議論に参加できるように、参加へのアクセスを助け、参加者の様々な意見を1つの方向に調整していく存在である。単に参加者の意見を拾うだけでなく、時には自身が吟味を演じて、議論の手本となることも必要だ。進行役と、よく発言する参加者との間で一対一の議論になることもしばしばで、議論をする「演者」とそれを見る「観客」という形で、参加の仕方が分かれることもある。「自発性」を重視する哲学カフェでは、多様な参加の仕方を許容することも重要だ。他人の議論を聴いて考えることを楽しむ参加者も少なくないので、一様の参加の仕方を強要しない場の設定、席の配置にも配慮する。一方で「観客」の示す微細な反応に注意を払い、「観客」にあえて発言をふる行為も必要である。

様々な人が集う場所で行われる哲学カフェでは、進行役(ファシリテータ)は、完全に中立的な存在ではありえない。人格性を捨象した抽象的な存在として機能することは不可能である。参加者すべてが何らかの属性(性別、職業、年齢、未既婚など)を持ち、しばしばその属性を付与して話を構成する(例:「私には子どもがいるのですが…」「自分は学生なので…」等)。こうした属性を拒否するのではなく、うまく利用することができれば望ましい。進行役自身の「個性」も重要な要素となる。

進行役(ファシリテータ)は、自らの持つ偏り(社会的属性、自然的傾向性、癖、性格)を脱ぎ捨てる「振り」をするのではなく、それを自覚的に演じ直すことによって、協働思考の吟味に乗り出すことができる。



# 「哲学的対話実践(てつがくカフェ)」のための

## ファシリテーション・グラフィック

福井医療大学 准教授 近田 真美子

# 1. 今回の報告の位置づけ

報告者は現在、保健・看護の教育に携わっており、哲学の専門家ではない。哲学カフェに関わるようになった経緯は以下のようなものである。震災前は、考えるのが好き、楽しいという思いで「てつがくカフェ」に携わっていた。しかし、震災を経験して以降、震災をテーマに活動をするうちに、単に楽しいというだけではなく、自分の中にことばを見つけていく営み自体が、人が生きる力になるという実感を持つようになった。

哲学カフェは世界中で行われており、板書をしないで実施されている例もある。今回は、報告者自身が「てつがくカフェ@せんだい」で実施している一例として、エッセンスをお伝えできればと思っている。基本は皆さんが自分なりにやりやすい方法を見つけて欲しい。

# 2. 思考を育むための板書の工夫

発言者の中には、まだ言葉にならないイメージで語られるケースもある。抽象的なイメージの段階では、なるべく図式化する。感情的な表現については、誇張して書いてみるという工夫もしている。参加者の思考がことばになる過程が、板書に表現されるように意識している。

板書の際に心がけているのは、参加者の人数や時間に応じで、使えるスペースはどれくらいかを確認することである。ホワイトボードが1枚しかないと30分~1時間程度で埋まってしまうので、余裕を確保する。また、対話の速度やタイミングに合わせながら、板書をする前にメモを取るようにしている。

「てつがくカフェ@せんだい」の実践では、大まかに次の3つの段階を踏む。

- ① 参加者に、テーマに関して自由に発言してもらう
- ② 発言されたことばの中から、キーワードを抽出する
- ③ 定義をつくる

最初の出だしの部分に時間をかけながら自由に発言してもらい、中盤ではキーワードを出してもらう。そして最後には自らの思考をことばにしてもらう段階として、テーマについて自分なりの定義をつくってもらう。

参加者が自由に発言する際には、テーマについて思考するために重要なキーワードを必ず残す。 抽象的な発言は図示するなどして、参加者が確認できるようにする。次の、キーワードを出す段階 では、発言された順番に単語を記すようにし、出されたキーワードを整理する作業は参加者に委ね る。最後の定義をつくる段階では、単語だけではなく、できる限り参加者の発言どおりの文章を残 す。早口過ぎたり聞き取れなかったりした場合には、敢えてもう一度発言してもらう。板書する際 の鉄則は、発言者の言葉を勝手に「言い換え」ないことである。

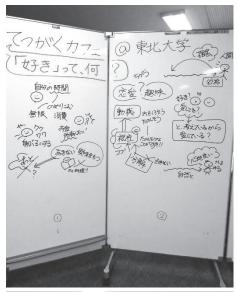
一度の発言の中に、類似したキーワードが連続して出てくる場合もあるが、あとで重要になる場合もあるので、漏らさず書く。例えば、「テクニックというか、テクノロジーというか、技術というか…」、「不便っていうか、生きづらいっていうか…」など、一見すると同義のように思えるが、板書にはなるべく取捨選択せずに書くようにしている。

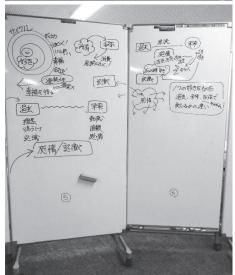
#### 3. ファシリテーション・グラフィックで大切なこと

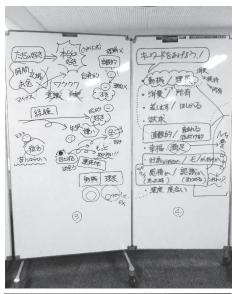
「てつがくカフェ」での対話を記録するファシリテーション・グラフィックは、思考を育てるた

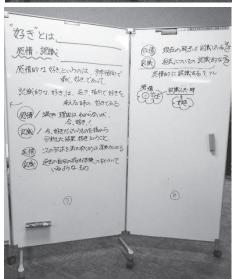
めの道具の1つであり、「書く」技術よりも、発言者のことばをしっかりと「聴き取る」ことが重要である。また、文章をひたすら一言一句漏らさず板書するよりも、テーマに関するキーワードを漏らさずホワイトボードに落とせるかのほうが大事である。つまり、まず聴くことが第一条件であり、いかに聴けるかが命綱となる。

一般的には、最後に会議の話の内容をうまく整理して書ける板書が上手というような印象もあるが、報告者が実践するファシリテーション・グラフィックでは、板書自体を「作品」として上手にまとめることが目標ではない。参加者が板書を活かして思考する事が重要であり、「てつがくカフェ@せんだい」でのグラフィックの目的は、思考の材料を残しておくことにある。









<写真>第1部でのファシリテーション・グラフィック

【追記】本稿は、セミナーの当日配付資料等より、学習支援センタースタッフが要旨をまとめたものである。なお、当日のセミナー第1部では、「好きとは何か」をテーマとして、哲学カフェの実践を行なっていただいた。



# CLS"学びの転換"セミナー(第2回)

# 相手の心をつかむ「お笑い」コミュニケーション術 元漫才師公務員の「お笑い行政講座」実践から学ぶ

尼崎市役所 江上 昇·桂山 智哉

## 1.「アクティブ公務員」としての生き方

私たち(江上・桂山)は、元漫才師の尼崎市の職員である。いま2種類の仕事をしている。「①給料もろてる仕事」と、「②給料もろてない仕事」である。前者は、市職員としての仕事で、現在、江上は「尼崎大学・学びと育ち研究担当」に所属し、科学的根拠に基づく政策立案のための研究や、自治に取り組む地域の支援などを、桂山は尼崎市の南西に位置する「大庄」という地区に設置されている支所内の部署「大庄地域振興センター」で地域自治会の支援業務や、地域住民のお困りごとの相談受付、地域住民と一緒にお祭りやイベントの企画・運営などを行う協働業務を担っている。後者は、自主研修グループや任意団体での活動であり、「お笑い行政講座」もこちらに分類される。

「お笑い行政講座」の活動内容は、主に以下の3つである。

- ① 難しい行政課題を漫才の手法でわかりやすく紹介
- ② お笑い芸人が使う、コミュニケーション手法を伝える
- ③ 公務員向けに話し合いの技術を伝える

私たちは元漫才師であるが、「お笑い行政講座」の活動は、「お笑い」がやりたくてやっているわけではない。「お笑い」という手段を使って、他にやりたいことがあるのである。それが「尼崎を面白いまちにする」事である。

「お笑い行政講座」の活動の背景にある考え方は、「面白い人が増えれば、面白い人が集まる」、そして、「面白い人が集まれば、面白いまちになる」というものである。つまり、尼崎というまちを面白くするために「お笑い」を利用しているが、「お笑いがやりたい」のではなく、それが私たちにとっては「地域と関わる手段」なのである。

私たちは、次の3点を活動のミッションに据えている。第1は「尼崎のイメージを変える」、第2は「公務員の働き方、価値観を変える」、そして第3として「地域に公務員の居場所を作る」事である。公務員を目指す人の中には、「残業が少ない」「仕事が楽そう」「転勤もない」という理由で地方公務員になろうとする人がいる。しかし、本当にそれが公務員のあるべき姿なのだろうか。地方公務員ならではの地域との関わり方を考えてほしい。自分の得意なことを生かして、地域に関わっていってほしい。そんな想いと情熱で日々活動している。

「お笑い」は手段に過ぎないという話をしたが、しかし「お笑い」には「突破力」があると考えている。その突破力とは、例えば、ターゲットの広さである。行政課題についての講演を好んで訊きたい市民は現実のところ多くはないが、お笑いは多くの人に受け入れられやすい。実際、「お笑い行政講座」の活動を通して、行政課題についてのテーマであっても、呼ばれる回数が増えた。また、裾野の広さもある。先日、「福祉のイベントで、聴覚障害者の方と漫才しませんか?」との誘いを受け、実際に漫才してきた。これが商業ベースに乗った活動だと「障害を利用してお金儲けをしている」と一般市民の皆さんに受け取られかねないが、公務員の身分でボランティアとして活動すると、好意的に受け止めてもらえる。この福祉イベントでの漫才では、聴覚障害の当事者の方がその障害をネタにして、自らの技術で笑いを取る。例えば、長くてつまらない挨拶など「聞こえない方が便利」だとか、「手話や読唇術あるある」などである。このような「笑い」を通して、価値観の転換を促す突破力もある。これは、世間で話題となった「注文を間違える料理店」(認知症の人々が接客するレストラン)と同様である。通常は認知症を患っている事がマイナスに理解されやすいが、このレス

トランでは、認知症であることが「強み」になっている。

以上のような「お笑い」の突破力を利用しながら、まずは私たちの活動が社会的に認知されることで、インフルエンサーとしての影響力を高め、次に、漫才で呼んでもらい話す機会を得る中で、「難しい」「つまらない」と思われがちな行政の話に関心を持ってもらう入り口をつくり、最終的には、市役所職員(行政)のコミュニケーション手法を変えていきたいと考えている。

様々な所に呼ばれて行くが、「なぜこのような活動をしているのか?」と質問される事は多い。まずは公務員の「堅い」「安定志向」「面白みがない」等のイメージを変え、親しみを持ってもらいたい。また、地方公務員の仕事にやりがいを感じ、それを知ってもらいたいという意味もある。公務員

の仕事は、私たちにとって「天職」である。「人の役に立ちたい」「必要とされたい」と思っているのであれば、公務員の仕事は、どの部署にいても、人の役に立てるからである。「堅い」「安定」のイメージの強い公務員の仕事であっても、それを面白がれば面白がるほど、思いもかけないほど世界は広がっていくと感じている。

「公務員としての働き方」については以上である。以下では、「お笑い行政講座」の中でお話しているコミュニケーション講座の内容の一部を紹介する。



#### 2. 「お笑い」コミュニケーション術

#### (1) 前説の意義と方法

「前説」とは、お笑いの番組やライブなどの本番前に、会場の空気を作るために行われるものである。芸人は「前説」で何をしているのかというと、観客との距離を詰めるという作業をしている。例えば、観客に直接何らかの質問を投げかけたりして、会話のキャッチボールをする。ただし、質問して回答の内容を得ることが主目的ではなく、観客とのコミュニケーションを通して、会場の雰囲気づくりを行っている。

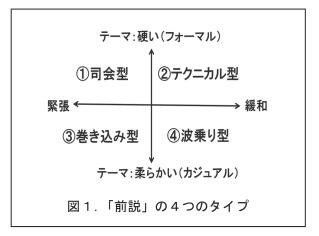
「お笑い」の場において、前説にはとても重要な役割がある。もし前説が行われなかったとしたら、どうなるだろうか。本番が始まってから、会場の空気がほぐれるまでに時間がかかってしまうだろう。会場の緊張感をほぐすために、本番が始まってから、出番のある誰かが、身を切って「滑る」ことにもなりかねない。また、本番の雰囲気や、そこで登場する芸人について理解するのに時間を要してしまうこともある。「前説」によって、本番を円滑に進行することができる。

芸人は、どのように「前説」を行っているのだろうか。つまり、「空気の作り方」である。まず、人前で話す際に重要な点を考えなければならない。芸人が行う「前説」では、大半の場合は、観客は初めて合う人ばかりの状況である。そのような時にこそ、なるべく全員と目を合わせるようにする。大事なのは「その場の空気・雰囲気」を変えることであり、そのために事前に「空気を観察」しておく必要がある。芸人は、「前説」の入り方なども、客席の規模や雰囲気を見ながら決めている。

意識している点としては、主に以下の3点である。第1に、その会の性質を考慮することである。会の趣旨に沿って、「前説」の際のテンションの高低を調整する。例えば、成人式や結婚式などの公式の場では、テンションは抑え、上品に振る舞う。一方、お祭などのような盛り上げたい場では、テンション高めに入る。第2に、他の出演者がいる場合には、他の出演者との違いを意識し、個性を出すようにする。芸人としては、覚えてもらう、印象に残るようにするためである。第3に、自分の役割を意識する。司会をするだけが役割の場合には、個性を出すのではなく、逆に消す必要がある。個性を消す場合には、地味な色のスーツやネクタイ、髪型になるように配慮する。つまり、自分の役割に合わせて、自分自身の演出の仕方を考えるのである。

以上のような事前の準備や観察も重要だが、「前 説」の中でも、その時々の雰囲気に合わせて、自ら の演出方法を調整する必要もある。例えば、観客が どれくらい自分(たち)の事を知っているのか、空 気がどれくらい硬いか(柔らかいか)、会の趣旨・内 容についてどれくらい理解されているのか、客席の 緊張感や温度感はどの程度か等を探りながら、調整 を行う。

例えば、「テーマが硬い (フォーマル)・柔らかい (カジュアル)」と「客席の緊張感の程度 (ノリの良さの程度)」を 2 軸として、前説のタイプを 4 つに 分類することができる (図 1)。



それぞれについて、具体的に見てみると、以下の通りである。

#### ①司会業型 (フォーマルなテーマで、客席の緊張感が高い)

このタイプの場合、形式的に進行をする。テンションは上げず、粛々と進行することが重要である。あまり個性を出さず、ジョークを言う場合でも品位が大切である。

#### ②テクニカル型 (フォーマルなテーマで、客席の緊張感はない)

このケースの「前説」では、盛り上げるのではなく、会の趣旨に合った雰囲気にするために、会場を落ち着かせていく必要がある。無理やり空気を作る必要はないが、徐々に舞台に注意を向けていく。客席の注意が舞台に向いてきたら、徐々に①司会業型に移行する。

#### ③巻き込み型 (カジュアルなテーマで、客席の緊張感が高い)

この場合は、まず、無理にでも空気を作る。短時間で場をあたため、雰囲気を高めなければならないため、自らの個性を強めに出し、わざと滑る、客席を「いじる」などの工夫が必要である。

#### ④波乗り型 (カジュアルなテーマで、客席に緊張感なし)

この場合は、すでに会場の雰囲気がほぐれているので、その流れに乗って、さらに加速させるように行う。適切な程度に「上から行く」、「馴れ馴れしく」などの雰囲気を出しても良い。ここでは、個性を強く出し、強めの進行が求められる。

以上をまとめると、場の空気を作る上で、「前説」では、以下のような事を行っている。

- コミュニケーションを取って、舞台に注意を向けてもらう(注目)
- 必要な距離を近づける(知己)
- キャラクターをわかってもらう(認知)
- 聴く準備、心構えをしてもらう(態勢)
- その他(自己紹介、諸注意、遅れてくる人の受け入れなど)

また、上記のどのタイプであっても、「わざと滑る」という行為も効果的であり、恐れずに「滑ってみる」事が大切だ。「この人たちは変なこという人だ」と客席に知ってもらう事が、本番での円滑な進行につながる。

# (2) 漫才とは

漫才とは、2人以上で面白い話を繰り広げる話芸である。ボケと突っ込みに担当が分かれる事が多いが、細かいルールは気にしない。面白ければ良いという面が大きく、「関西人、2人揃えば漫才師」などと言われる事もある。

つまり、漫才には、「答え」がない。テレビなどで漫才師がそうであるように、漫才師それぞれ芸 風が異なっており、また異なっている事が良い事とされる。「芸風」は自分たちで創り上げていくも のであり、それが世間に受け入れられたら、それが漫才としての「正解」となる。

漫才から学べる重要な点は、何よりも、漫才は2人以上でやる話芸である。つまり、ひとりでは漫才はできない。では、ふたりいれば漫才は完結するのか、というと、そうではない。漫才は、それを見聞きして笑ってくれる「お客さん」がいて初めて完結する。よって漫才では、客席をどう巻き込んでいくかが重要となる。

漫才は「コミュニケーションの芸術」である。漫才の中では、相方とのコミュニケーションも大事ではあるが、それ以上に、客席とのコミュニケーションが重要である。また、客席だけでもなく、裏方で働く人達や、他の出演者も含めてのコミュニケーションの上に、成り立っている。

コミュニケーションで大切な事とは、何だろうか。それは、「リアクション」(=反応)である。誰かと話す時、「うんうん」「それで?」「そうなんだ!」「すごいじゃん」などの相槌を打つが、聞き手が一切の相槌を拒むような状況だと、話し手は非常に話しにくく、また話す意欲を喪失してしまう。

相手の話に「リアクション」する際には、何をしているのだろうか。例えば、以下のようなものである。

- 相手の話の一部を復唱する
- 簡単な、適度な質問をする (ただし、過剰に質問しすぎない事も大切)
- 相手の目を見る
- 相槌を入れる、頷く

プロの漫才師は、しゃべりながら場の空気を作っている。相方の目を見てしゃべり、相方との呼吸を合わせ、相方の変化に反応する。同時に、お客さんの目を見てしゃべり、お客さんとの呼吸を合わせ、お客さんの変化に反応する。プロの漫才師は、相方だけに合わせているのではなく、会場の空気感に合わせてしゃべっている。漫才はひとりではできないというのは、漫才師が 2 人以上必要というだけでなく、客席との共同作業で成り立っている。

漫才が「コミュニケーションの芸術」だとすれば、漫才から学べるコミュニケーション術は、漫才師だけが使えるものではなく、誰もが活用し得るものである。大学生活では、大学でしか出会えない人が多い。総合大学である東北大学には、多様な専門分野の人がたくさんいるが、いったん就職してしまうと、同じ分野の人としか出会えないことも多い。コミュニケーションが苦手と感じている人も、少しだけコツや技術を習得することで、円滑なコミュニケーションを取ることができるようになる。ぜひ試して欲しい。

#### (3) ツッコミの技術

「ボケとツッコミ」という表現はよく耳にするが、「ツッコミ」とは何のためにあるのだろうか。例えば、ボケ役の人ばかりが出ているトーク番組を想像してみよう。おそらく、トークが成立しないのではないだろうか。

漫才などで相方がボケた時に、「なんでやねん!」というツッコミを良く目にするが、それだけがツッコミではない。ツッコミにも、以下のような種類がある。

- ① スタンダード:見たまま聞いたままをストレートにつっこむ
- ② ノリツッコミ:相手のボケに乗ってから突っ込む
- ③ 例えツッコミ:相手のボケに対して比喩を用いながらつっこむ ex. 「誰が鳥やねん!ベランダで卵生んだろか!」
- ④ スカシ:つっこまず、冷たくあしらう
- ⑤ ツッコミボケ:つっこみになっておらず、もはやボケ
  - ex.「おい!アレかよ!」

芸人ごとに芸風があり、得意なツッコミがあるが、しかしその場の空気や流れに合わせて使い分けている。

2人で漫才をする際には、ボケ担当とツッコミ担当に分かれる場合が多い。ボケ担当の方が漫才では目立ちやすい。しかし、実はツッコミ担当は、次のように様々な役割を担っている。

① 振り ・ボケる前の下準備(前振りとして)

ボケやすくするための土台作り

② トークの舗装作業 ・テーマが脱線したら、元に戻す

話の内容を整理してまとめる

わかりやすい言葉で伝える

③ おかしい点を指摘する ・どういうボケなのか、どこがおかしかったのか、伝える

様々な場面で適切なツッコミをするのは難しい。しかし、「ツッコミ脳」は、身につけることができる。ふだん、皆さんは周囲の風景をどれくらい具に観察しているだろうか。日常の中には、気付かずに見落としている「面白いもの」が思いの外たくさんある。例えば、「髪型変えた?」など、相手の小さな変化に気づいて指摘するのも、ツッコミの一種と言える。ツッコミとは、コミュニケーションである。ツッコミも、やりすぎると煙たがられるので「程よく」が大事だが、日毎からツッコミの気持ちを持っていれば、楽しい日常を過ごすことができる。

#### (4) 「すべらない話」を作ってみよう

「話術は技術」である。生まれつき面白いという人は少なく、大半の人は技術を身につけて面白 くなる。つまり話術は、鍛える事で習得・向上させる事が可能なのである。

笑いが生まれる条件は、大きくは以下の3つだと考えられる。私見の限り、実際に使われる頻度としては、「②ずれ」が8割ほどを占めている。

- ① 優越(自分のほうが優れていると感じた時に出る笑い、相手の失敗やドジなどで笑う)
- ② ずれ(知っているものからのズレ、常識からズラす、物マネなどで誇張するなど)
- ③ 放出 (緊張が高まった後にそれが緩和される時に出る笑い)

笑いを作るために、もっとも使いやすいのは「内輪ネタ」である。内輪ネタが面白いのは、ふだん知っていることからの「ずれ」を作りやすいからである。しかし、内輪ネタは、それを知らない人からすると、全くおもしろくない。

「ずれ」を笑いに利用するためには、元々の情報を聞き手に知っていてもらう必要がある。それは、話し手自身の情報であったり、話の中で設定される状況であったりする。これらの情報を元々知らない相手に対しては、「ずれ」を利用して笑わせるのは極めて困難である。そこで、テレビ番組などでみる「お笑いネタ」の場面設定は、多くの人が日常的に経験し、あるいは容易にイメージできるようなものになっている。学校や職場での日常的な場面、ライフイベントで多くの人が経験するだろう場面などを元にしつつ、既存イメージから面白く「ずれ」を生み出す事で笑いを取っているのである。

以上のコツは、私たちの日常場面でも大いに応用できるが、特に「エピソード・トーク」の時に顕著に現れる。エピソード・トークとは、例えば、友人との雑談、飲み会での近況報告などで行われる、時系列に沿ったものがたりである。

「プロ」のお笑い芸人とは、素人よりも「面白い人」ではなく、「人前での話し方を知っている人」「笑いが生まれる構造を知っている人」の事である。「話し方」のコツとは、例えば声を通す、滑舌をはっきりと話すなど、基本的な事も含む。立ち方も重要である。慣れていない間は、どうしても落ち着いて立って話す事が難しく、ソワソワしやすい。マイクを使う場面では、「プロ」はマイクの音

量を上手に調節している。話の中で、大声で叫ぶような演出をしたい場面はマイクの音量を下げ(あるいはマイクとの距離を離し)、ささやくような場面ではマイクの音量を上げて(あるいはマイクを近づけて)話すようにしている。話し手は、緊張感を醸さないようにし、「自然さ」を演出できる事が重要である。「プロ」の話術では、過剰にならない程度に、上手に「盛る」事によって、話を面白く脚色する。聞き手は、同じ話を以前に聞いたことがあったとしても、初めて聞いたかのようにリアクションを取る。高度なコツとしては、5W1Hの説明が必要十分である点がある。説明が不足していると内容が十分に伝わらないが、かといって、説明しすぎても良くない。「過不足なく」が大切である。

#### 3. おわりに:東北大生へのメッセージ

## (1) 桂山より

小さい頃からお笑い芸人を将来の夢に持ち、小学校低学年から大学を卒業するまでずっとお笑いのことしか考えていなかった。大学卒業後、迷わず NSC に入学した。そんな自分がお笑いを辞め、就職をしようとハローワークに相談した時、「職歴もなければ手に職も付いていない」という事実を突きつけられ愕然とした。しかし今、「元漫才師の公務員」として活動し、東北大学のような立派な場所に講師として呼ばれ、公務員の身分でなぜかお笑いを語っていることが不思議でならないし、すごく面白いと感じている。「人の役に立ちたい」、「利益ではなく、誰かの幸せを願う仕事に就きたい」という理由で選択した地方公務員という仕事が、まさかお笑い芸人よりも刺激的で面白い毎日をもたらしてくれるなど、思ってもみなかった。尼崎というまちに恵まれ、尼崎市民という人に恵まれ、尼崎市役所という組織に恵まれ、本当に自分は幸運だと感じている。

芸人時代に先輩から「チャンスは努力している奴のもとに巡ってくる。少しでも努力が不足していればチャンスは掴めない。」という金言を頂いたことがあった。これはどこの世界でも同じことが言えると思っている。弛まず行動し続ける人には自然と仲間が集まってくるし、行動し続けていれば何度もチャンスが巡ってくるし、きっと良い結果が待っている。大学時代、キャリアプランなんて考えたこともなければ就職活動もしたことがない学生だったので偉そうなことは言えないが、この先の人生を考えた時に、ぜひ「しんどいかも知れないけど面白そうな方」を選択してほしい。「楽だけど面白くなさそう」な道は、面白くない。面白くないだろうと決めつけて進む道ほど、面白くないものはない。面白くない方を選ばざるを得ない時も、「どうやったら面白くなるか」を考えて欲しい。「自分は何に価値を感じて何に生き甲斐を見出すのか」を考えてほしい。

自分の場合は幸運なことに尼崎市役所の職員になった。ご縁をいただき、人生をつないでもらえた恩返しの想いも込めて、少しでも尼崎のためになればと思い、お笑い行政講座を展開している。お笑いを志して活動していた時間は遠回りで無駄だったように見えるかもしれないが、結局は掛け替えのない経験であった。「職歴のない自分」に愕然とし、小さい頃から信じ続けてきたお笑いが「無価値」と判断された時、とてつもなく悔しかった。そして今、信じ続けてきた「お笑い」にすごく楽しい思いをさせてもらえている。決して無駄な時間ではなかった。陳腐な表現だが、人生に無駄な時間などないと思う。経験をどうポジティブに捉えるかというだけの問題である。「市役所の職員は、まちの役に立つことなら何をしても良い」と江上さんがよく言っている。本当にその通りだと思う。お笑い行政講座は、自分の経験を生かしてどれだけ尼崎に貢献できるかの挑戦でもある。そんな活動を温かく見守ってくれている尼崎市は最高に面白いまちだ。そして、自分の経験を生かしてまちや人に色々なアプローチができる公務員という仕事は、やっぱり最高に面白い。

#### (2) 江上より

## 「真面目か!!」

もし私が今日、客席で聞く側の立場なら最後に大声でこうツッコむところである。このように真顔でお笑いの方法論を語ることは、ツッコミどころではあっても決して「お笑い」そのものではないからだ。ここまでご覧いただいてお気づきかと思うが、「お笑い」はかくもロジカルで、ストイッ

クなものである。逆にいうと、そこまで理論や技術を理解し、使いこなさないとプロとしてはやっていけない、というものでもある。本質は超真面目だったりする。

私は、そしておそらく桂山さんも、芸人としてストイックに誠実にやってきたし、そのスタンスは公務員になっても変わらない。自分の選んだ職業に対して誠実にあろうと努めてきた結果、芸人時代であれば、髪を金髪にし、馬鹿騒ぎややんちゃなことも、本当は嫌いだけど無理してやってきた。それが芸人を職業とすることに対する「誠実さ」だからだ。また、公務員になったら髪を黒く染め、地味なメガネに変え、あらゆるコンプライアンスを完璧に守る。見るテレビ番組さえ、バラエティからドキュメンタリー番組に意図的に変えた。あらゆることを職業に付随して変化させた。やっていることは前後で全く違うし真逆だが、自分自身が変化したという感じはしない。何に対してストイックで誠実か、の対象が変わっただけである。

では、公務員の誠実さとは何か。コミュニケーションの分野で考えると、行政が得意な、フォーマルで整った、あらゆる方面に配慮した文章でキレイに情報発信できることが「誠実」なのだろうか。一つのスタイルで一つのルールでしか情報を伝えられないならば、その種類の情報を好む層にしか届かない。むしろそれは「真面目でフォーマル」を選択することによるサボタージュであり、やり方が正しいだけで、誠実ではないと感じる。少なくとも不十分だ。お笑い行政講座は、そのスタンスに対するアンチテーゼでもある。

過去はそれが正しい方向性だった。国が決めたことを地方が着実に実行し、全国一律で同じ制度 を展開するのが「誠実な」行政のあり方だった。だが時代は変わり、国と地方は対等な関係となり (あくまで法令上は、だが)、全国一律でサービスを展開するのではなく、それぞれの地方がそれぞ れの強みや特長、抱える課題等に合わせて、限られた資源を最適化していかなければならない時代 になっている。価値観や生活スタイルは多様化し、一つのルールを上意下達で伝えていくだけで良 かった時代ではなくなり、いかに様々な価値観を持つ人たちの関心を引き、巻き込み、コミットし てもらい、繋がり、一緒に動いていけるか、が問われる状況にある。フォーマルなだけでは不足であ り、そこに「お笑い」を使うことの価値があると考えている。「お笑いを使って」というと、不真面 目な印象を与えるかもしれないが、これは我々の持つ資源を、お笑いの土壌がある尼崎に最適化さ せ、新しいコミュニケーション手法を試みるという社会実験の結果だ。趣味の演芸ではなく、公務 員であることに対していかに誠実であるかを突き詰めた結果、このアクションが生まれている。地 方公務員のバトルフィールドである地域の現場では、大学での座学と公務員試験で身につけた知識 だけでは足りない。これまでに自分がどんな経験をし、何を成し遂げて(あるいは挫折して)きたの か、その結果何ができるのかが問われる。自分の人間力、とでも言える自分のあらゆる経験、知識、 スキルをフル動員してことに当たらなければならない。それが我々にとってはたまたま「お笑い」 であったということだ。

ただし、我々にとっては「お笑い」であったが、もちろんお笑いだけに限る必要はない。サッカーをやってきた公務員は地域でサッカーを教えることができるし、役所で内部管理を地道にやってきた職員は地域の人が苦手な行政文書を代わりに作成し、補助金の申請や様々な行政手続きを助けてあげられる。どうやって自分の資源を活かし、地域に、仕事に還元していくかが我々のテーマでもある。多くの公務員が、自身の強みや資源を活かし、自己実現をしながら地域で活躍していく。そのような動きを生み出していく一助に、この活動がなれば良いと思っている。

【追記】本稿は、学習支援センタースタッフがセミナー当日の記録データに基づいて要旨をまとめ、再構成した後、講師の確認・修正等を経たものである。ただし、最後に掲載した「東北大生のメッセージ」については、セミナー終了後に講師に書き下ろしていただいた。

なお、当日のセミナーでは、実際に漫才を披露していただいたり、参加者と講師が共に漫才を考 案し実演する時間も取っていただいたが、それらの内容は紙幅の都合によりすべて割愛している。

# その他活動

#### (1) 学内連携等

<組織間ネットワーク>

- ・グローバルラーニングセンター 留学生支援関連で情報交換
- ・附属図書館 授業における広報活動、学習イベントにおける共催
- ・学生相談・特別支援センターより、支援依頼受諾
- ・評価・分析センターに利用者層データ解析を依頼
- ・工学部だより「あおば萌ゆ vol.27」インタビュー記事受付

#### <正課還元>

・全学教育担当教員にむけた情報フィードバック体制を整備

#### (2) 訪問受け入れ

- · 宮城県仙台向山高等学校(教員 2 名、生徒 5 名)
- ・岩手大学(教員1名)
- ・東京大学 学生相談ネットワーク ピアサポートルーム (教員3名、学生2名)
- ・滋賀大学(教員1名)
- ·宇都宮大学(教員1名)

#### (3)報告等

・7月29日 関西大学主催シンポジウム参加、企画 SLA 活動報告 (SLA2名)

#### (4) 学内貢献活動

- ・萩友会プレミアム懇談会自由見学開催
- オープンキャンパス開催

#### (5) 広報活動

- ・『ともそだち本 2017』発行・配布 (学習支援センターの利用案内兼学習支援本として『ともそだち本 2017』を発行し、各学部の学 部オリエンテーションで配布した。対象:新入生・新2年生、配布:約4630部)
- ・HP 更新、Twitter による情報発信
- ・各種ポスター 発行

#### (6)研究活動

- ・〔話題提供〕足立佳菜「学習支援におけるピアリフレクションの取組み」、第 67 回東北・北海道地 区大学等高等・共通教育研究会(2017 年 8 月 24 日、於東北大学)
- ・[ポスター発表] 足立佳菜「学習支援におけるチュータリングスキルとその育成―理系分野のピア チュータリングを主たる事例として―」第 24 回大学教育研究フォーラム (2018 年 3 月 20 日 於 京都大学)
- ・〔研究会参加〕「SA/TA 制度に関する研究会」、2018年3月1日 於成蹊大学(佐藤、足立、賴)

# 4. 部会活動報告

# -∥ Summary ⊩

「部会」は、SLA の担当領域ごとに編成されたグループである。本年度の企画以外における部会活動は、①実践・記録・部会ミーティングの連動性を高める、②セメスター末に総括作業を行う、という 2 点を活動方針とした。これらは実践の蓄積を知見化することを意図し、部会ごとに「部会 Tips」を作成していった。この「部会 Tips」は、【①実践(学生対応)→②個人リフレクション(カルテ作成)→③共有のための事例選択と一次資料化(Drip カルテ作成)→④共同リフレクション(部会での事例検討)→→繰り返し→→⑤知見化(Tips 資料作成)】という学習支援活動全体の実践改善サイクルの中で作成されるものである。これらに取り組んだ結果、「Tips を作成する(実践を知見化する)」という意識醸成、知見を生み出す意識をもって日々の活動にあたるという意識の共有ができた。

#### ▶各部会の活動概説

#### ①物理部会

「学生のつまずきどころ(とその支援方法)」と「物理に興味を持ってもらうための話題(物理の身近な現象例)」を Tips 向け資料として作成し、部会ミーティングで共有・検討し、資料化する取り組みを行った。

#### ②数学部会

対応知見を Tips として作成したい内容を洗い出し、全メンバーで分担し作成にあたった。部会ミーティングでは自律的運営が進み、数学的議論よりも支援の議論が深まるようになってきた。

#### ③化学部会

メンバーが少なく質問件数も少ない中で、新たに企画発信型の支援方法を検討したが、実現までには至らなかった。Tips の作成と並行して、過去の資料を活かしたメンバーの勉強資料を整理することができた。

#### 4英語部会

英会話支援の改善や概念整理のための活動がメインであり、マテリアル整理作業などを行った。 部会ミーティングでは、語学支援について学問的に詳しいメンバーによる勉強会も行った。

#### ⑤ライティング部会

指南書入門ゼミ実施に係る打ち合わせが多かったが、学生対応に関する勉強や事例検討のニーズがメンバー内で高まり、その実施方法を試行していった。

# ⑥企画部会

単発型イベントが主体だった前年度から一歩進んで「継続的な学習支援」を目指した。1)企画の 準備・ファシリテーション等に関するノウハウの蓄積、2)省力化による持続可能な運営体制の整備、 3)組織としての企画 SLA の位置づけと目標の整理・共有に努めた。

# 本年度の活動概要

部会とは、SLA の担当領域ごとに編成されたグループであ、物理・数学・化学・英語・ライティング・企画の6部会がある。活動の特性上、企画部会とそれ以外の部会(物理・数学・化学・英語・ライティング部会、以下「5部会」と略す。)は運営方法が異なる部分がある。2017年度の「5部会」は実践の知見化・資料化作業に重点化し、企画部会は支援活動の開発と共に企画 SLA のコンセプト固め(基盤づくり)を行ったことが特徴である。

本年度の5部会の部会活動は、次の2点を年度当初に活動方針として示し、活動を開始した。

- ① 実践・記録・部会ミーティングの連動性を高める
- ② セメスター末に総括作業を行う(Tips 作成+利用傾向分析レポート作成)

本年度の 5 部会部会活動は、例年に比べセンターによる目標設定を強く示す形で運営した。それは、『学習支援ハンドブック』作成プロジェクト(p.29 参照)を筆頭に、実践の蓄積を知見化する作業を強化して取り組んだためである。そのため、本年度の部会活動は、知見の資料化作業の動きが中心となる。具体的には、前年度試行した「SLA Tips」の作成および工程の標準形を確立させることに力を入れ、活動全体を設計していった(p.30 参照)。

ただし、部会活動における知見化作業がハンドブック作成プロジェクトと異なる点は、資料化が一義的目的ではないということである。部会活動における「知見化作業」は、【①実践(学生対応)→②個人リフレクション(カルテ作成)→③共有のための事例選択と一次資料化(Drip カルテ作成)→④共同リフレクション(部会での事例検討)→→繰り返し→→⑤知見化(Tips 資料作成)】という学習支援活動全体の実践改善サイクルの一環に位置づくものであり、これをより強化充実させる目的下にあるものである。そのため、知見化(実質的には資料作成)作業は単独に切り出されるものではなく、実践事例や部会ミーティングと連動性をもったプロセスとして位置づく必要がある。こうした日々の活動との連動性を高めながら一連のプロセスの中に知見化作業を建設的に入れ込むこと(活動実態に即した知見化方法の開発)に取り組んだのが 2017 年度の部会活動であった。このことは部会活動全体の流れ・方法を見直すことにも繋がっており、過年度来 SLA の知恵の継承による持続可能な組織運営を企図してきた取り組みを引き継ぐものである。

結果としては、5部会共通して、「Tipsを作成する(実践を知見化する)」という意識醸成、つまり、知見を生み出す意識をもって日々の活動にあたるという意識の共有には成功した。それにより、部会ミーティングでの議論もより建設的になった、あるいは建設的にするための課題点が明示的になったことも成果の一つである。あわせて、本年度は5部会それぞれ微妙に異なるTips作成過程・方法を編み出して行ったことが成果であった。このことは、統一的な「標準形」を定めるには至らなかったとも言い換えることができるが、現段階の差異は、各部会メンバーの志向性や分野の特性に紐づくものであり、バラつきというよりは多様性として許容される範囲であると考えている。むしろ、各部会独自の方法を引き続き洗練させることで、今後、実態に即したより生産的な方法が生みだされていくものと考えられる。

# 物理部会

# (1)基本情報

# <表 4-2-1. 2017 年度物理部会構成>

人数:前期15名、後期13名

前年度からの継続メンバー:13名 部会長:修士1年、2016年4月採用

副部会長:学部4年(後期より修士1年)、2016年4月採用

# <表 4-2-2. 物理部会 2017 年度開催ミーティングー覧>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	2017/4/11	火	16:20~17:50	10	15	66.7%
定例2	2017/6/7	水	18:15~19:45	10	15	66.7%
定例3	2017/7/13	木	18:15~19:45	6	15	40.0%
定例4	2017/8/7	月	18:00~19:30	9	15	60.0%
定例5	2017/10/16	月	18:00~19:30	10	13	76.9%
定例6	2017/11/22	水	18:10~19:40	8	13	61.5%
定例7	2018/1/17	水	18:10~19:40	7	13	53.8%
定例8	2018/2/5	月	18:00~19:30	7	13	53.8%

#### (2)活動概要

Tips 作成作業を主軸に活動した。前年度の取組みを発展的に引き継ぐ形で、部会で共有したい知見・情報を①「学生のつまずきどころ(とその支援方法)」、②「物理に興味を持ってもらうための話題」(具体的には、物理の身近な現象例)の2種類に分類し活動を計画した。Tips 作成作業の洗練と併行する形で定例ミーティングにおける事例検討の議論が充実し、学生のわからなさがどこにあるのかの議論が深まるとともに、これを支援する方策(説明の仕方・順序等)の多様性への気づきと認めが共有されたことが成果であった。同時に、物理の楽しさに引き込むことも重要な支援と捉える志向性が今年度も部会内で共有され、そのために自分たち自身ができる一歩として、各メンバーの知識を共有し各々が「引き出しを増やす」という活動に着実に結実していったことも成果である。





#### (2) SLA による活動報告

# 物理部会活動報告

理学研究科地球物理学専攻 修士課程前期 1 年 SLA 物理担当(2017 年度物理部会 部会長) 石川 遼太郎

#### 1. はじめに

今年度は経験知を洗練させ共有することに重きを置いて活動を行った。特に、利用学生の理解のステップを細かく区切る訓練をすること(B案)と身近な場面で登場する物理を集めること(C案)を年間の活動の中核に据えた。また新たな試みとしてベテラン SLA によるレクチャーも実施した。これらの活動を通して、個々人の経験値を広く共有することが出来た。今年度で SLA を離れるメンバーが多かったことが、このような活動方針の一因ではあったが、情報や考え方の共有は活発な議論の端緒となり、有意義な活動になった。

#### 2. 部会活動概要

今年度から新たに取り入れた活動3つについて解説をする。 経験知の共有という大目標を達成するために、(1)ベテランから学ぶ、(2)経験知を深める、(3)知を広げる、の3点に関して新たな活動を実施した。

#### (1) ベテラン SLA によるレクチャー

昨年度前期第2回定例会では、ベテランの対応のビデオリフレクションを実施したが、これは新規 SLA が対応の流れを理解する上でも、中堅以上がさらに学ぶ上でも非常に有意義な活動であった。今年度もベテランから学ぶことを目的として、前期第2回定例会においてベテラン SLA2人によるレクチャーを実施した。講義内容は、『SLA のレベルごとの目指すべき対応』と『SLA が分からない内容への対応』であった。前者、学生ではなく SLA のレベルによって目指すべき対応をまとめた。新規 SLA に限らず全員が、自身に足りないものを自覚し学ぶことが出来た。一方後者は、SLA も分からない問題・内容を学生が持ってきた時の注意点についてまとめた。「分からなくて良い」などと言った声かけを無意識にすると、学生のモチベーションを下げてしまいかねない。「Keep Motivation」が最も大切であることを全員で共有することが出来た。

#### (2) つまずきポイントを分析する(B案)

質問対応においては、学生の分からなさがどこなのかをその場で分析し、的確な対応をとることが求められる。ここで SLA にとって課題の1つとなっているのは、学生の分からなさを的確に把握することの難しさである。特に、SLA 自身が一足飛びに理解してしまった内容に関しては、説明も飛ばし気味になり、学生が追い付けないこともある。如何に理解のステップを細かく区切るかが重要である。そのための訓練を、今年度は実施した。実際にあった質問内容をもとに、リフレクションの一環として、理解のステップを細かく区切る訓練である。まずシフト内で検討したものを部会において全員で再度議論する形で行った。このように論点を絞って一つの対応を深めることは、学生の気持ちになって対応を振り返る良い機会になり、部会においても非常に有意義な議論を行うことができた。

#### (3) 身近な物理を集める(C案)

学部1、2年で学ぶ物理は基礎物理であり、一見すると応用からは程遠く、特に新入生は物理に

対するモチベーションの低下に繋がってしまっている側面がある。しかし身近なところで、基礎の物理が使われている場面は意外と多い。そのような身近な現象・実生活の中の物理を学生に知ってもらうことで、物理にもっと興味を持ってもらいたいという趣旨で行ったのがC案である。浅くても良いから広い範囲で数多くの事例を集め、SLAが実際の対応において小話程度で紹介することを目指した。SLA自身が楽しんで事例収集を行うことができ、実際に対応で使用することも出来た。

#### 3. 定例ミーティング記録

#### ■第1回(4月)

メンバー顔合わせ。

#### ■第2回(6月)

ベテラン SLA 2 人によるレクチャーを実施。また部会長、副部会長を決定。シフト時間が昨年までと比較して短くなり、学生の全体傾向が掴みにくくなったと多くの SLA が感じていることを共有した。

#### ■第3回(7月)

 $\mathbf{B}$  案  $\mathbf{C}$  案の進め方に関して議論を行った。また、「対称性によって変数を減らす」考え方を学生に説明する方法について問題提起があり、議論した。

#### ■第4回(8月)

前期活動のまとめを行った。

## ■第5回(10月)

前期質問傾向分析の結果を共有した。また後期活動計画について、B 案と C 案の進捗状況に関する情報共有方法について議論した。B 案についてはシフトごとに議論を進め、ある程度草案をまとめたものを部会で議論することとなった。C 案は各部会において担当者がトピック収集状況を報告し、一つ面白いものを紹介する時間を確保することになった。

#### ■第6回(11月)

2つのB案について議論を行った。一つは電磁波についてで、草案はマクスウェル方程式から波動方程式、減衰解の導出のつまずきポイントを分析したものだった。これに対して、そもそも波動方程式をなぜ導出したいのかという動機付けが非常に重要であるという指摘が出るなど、有意義な議論になった。もう一方は連成振動に関する分析で、イメージと数式を関連させながら説明させる方法について議論した。

# ■第7回(1月)

2つのB案草案と1件の事例検討について議論した。内容は鏡像法と物体の変形、そして波の固有モードであった。

#### ■第8回(2月)

1年間(特に後期)の活動のまとめを行った。B案C案については一定の成果が見られたものの、 このまま続けるには進め方に課題があることを確認した。

#### 4. 成果と課題

経験知の共有と継承を意識しながら、上記のような新しい試みを実施した。どの活動も当初の狙い以上の成果をあげ、各 SLA の対応技術の向上につながった。

一方で、主に活動の運営に関する課題が明らかになった。継承のために詳細な資料を残すには、 少なくない時間と労力が必要である。そして資料化することが本題だと勘違いしてしまう傾向が見られた。しかしながら資料化されない情報を共有・継承することは難しく、比較的容易に忘れられ 廃れてしまう。限られたシフト時間の中で上手く運営する方法を模索する必要がある。

# 3 数学部会

# (1)基本情報

# <表 4-3-1. 2017 年度数学部会構成>

人数:前期10名、後期10名 前年度からの継続メンバー:8名

部会長:博士課程前期2年、2016年4月採用 副部会長:博士課程前期1年、2015年6月採用

# <表 4-3-2. 数学部会 2017 年度開催ミーティングー覧>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	2017/4/10	月	18:00 <b>~</b> 19:30	9	10	90.0%
定例2	2017/6/1	木	10:30~12:00	6	10	60.0%
定例3	2017/7/7	金	18:15~19:45	10	10	100%
定例4	2017/8/8	火	15:30 <b>~</b> 17:00	4	10	40.0%
定例5	2017/10/20	金	18:00~19:30	8	10	80.0%
定例6	2017/11/20	月	18:10~19:40	8	10	80.0%
定例7	2018/1/24	水	18:10~19:40	9	10	80.0%
定例8	2018/2/7	水	12:30~14:00	7	10	70.0%

## (2)活動概要

Tips 作成作業を主軸に活動した。全メンバーが執筆者となることを前提とする形で役割分担し、全員出動型で作業を進めていった。また定例ミーティングでは、ミーティング開催前に検討課題を事前にアナウンスするなどの取り組みを積極的に行い、自律的運営を進めていった。従来、部会ミーティングでの議論が数学的議論として発展しがちであったが、物理部会と同様、質問学生が何にわからなさを抱えているのか、どのような支援方策があるのかといった支援の議論が深まってきている。





## (2) SLA による活動報告

# 数学部会活動報告

理学研究科数学専攻 博士課程前期 2 年 SLA 数学担当(2017 年度数学部会 部会長) 三宅 庸仁

## 1. はじめに

今年度の数学部会は博士 4 名、修士 6 名(内博士 1 名、修士 1 名が前期に新加入)の計 10 名で活動を行った。専門の内訳は解析学 1 名、幾何学 4 名、代数学 4 名、基礎論 1 名と幾何学と代数学が比較的多かった。今年度の数学部会では、「Tips 作成を目的とした事例検討、及びその Tips の作成」を目的として部会活動を行った。特に後期の部会において、それまでに集まった事例を元に各自 Tips 作成を行った。

## 2. 部会活動概要

「はじめに」で触れた Tips の作成が今年度の特徴的な活動内容である。前期の部会ではその作成の基盤となる事例の収集を目的とした事例検討会を行い、後期には Tips のテーマの決定と作成に取り組んだ。 Tips 作成は

- (1) 各自のテーマ設定
- (2) 個人での執筆作業
- (3) 部会での検討・改善

という順序で行った。特に、(2)における「Tips を個人作業で行う」ということが数学部会特有の動きであった。(2)で作成された資料をたたき台として部会で議論を行い、個人の作成した Tips の内容の洗練に取り組んだ。この手法には「成果と課題」で触れるようにいくつかのメリットとデメリットがあるという知見が得られ、その上で今後の Tips 作成に関して「掲示板方式の Tips 作成」という改善案が提示された。

# 3. 定例ミーティング記録

今年度は前期 4 回(4、6~8 月)、後期 4 回(10~12 月、1 月)の計 8 回の定例ミーティングを開催した。基本的には前半に情報共有を行い、後半に事例検討、もしくは Tips 検討会を行った。各回の詳細は以下の通りである。

## ■第1回(4月11日)

各メンバーの自己紹介を行い、今後の定例ミーティングの準備の方法、及び進め方について確認した。議事録は昨年度までと異なり、リアルタイム議事録を作成することとした。また、第2、3回における事例検討会の担当者とそのテーマを決定した。

# ■第2回(6月1日)

前半は情報共有、後半は2つの事例に関する検討会を行った。後半の事例検討会においては、SLA が学生に伝えたことに関する「意味付け」を明確に行うことが重要であるという知見が得られた。また、それらを伝える上でも学生のニーズを正確に把握したうえで行う必要があるという意見も挙がった。

# ■第3回(7月7日)

前半は情報共有、後半は「部分分数分解」と「積分変数の扱い方」に関する事例検討を行った。部分分数分解に関して学生が躓くポイントとして、「どのような形まで変形すれば計算できるのかが把握しきれていない」という知見が得られた。積分変数に関しては、「ダミー変数」という用語を用い

て説明することで、実際の値には関与しない変数であるという事を強調して伝えると良いという意 見が挙げられた。

#### ■第4回(8月8日)

前期の部会活動の総括を行った。前半では前期の質問傾向分析を行い、昨年度と比べて自身でよく考えてから質問に来る学生が増加したという意見があった。後半では第2、3回に行った事例検討から得られた知見に関しての知見の総括と、事例検討会を行う上でのコツの検討を行った。事例検討のコツに関しては、「事前のテーマの決定」「リアルタイム議事録」の2つが挙げられた。

## ■第5回(10月20日)

前半では、前期末から夏にかけて作成した Tips の検討を行い、後半は後期に行う Tips 作成の各自のテーマの決定を行った。後期の定例ミーティングでは、各自の作成した Tips に関する検討会を随時行うことに決定した。

## ■第6回(11月20日)

前半に行った情報共有において、工学部の学生向けの「情報数学」の授業に関する質問が非常に特徴的であったという意見があった。問題の内容が数学の専門に近いものであり、今後注意して授業に関する情報を集めた方が良いという結論に至った。また、数学特有の言い回しが理解しづらいという学生に対して、色々な言い回しに言い換えて話してみると良いという意見が挙がった。後半の Tips 検討会では 2 件の検討を行い、それぞれの Tips でどのような部分を加筆するべきかの意見交換を行った。

## ■第7回(1月24日)

前半に情報共有を行い、後半は Tips に関する議論を行った。 Tips 作成に関して、基本的には個人の作業で作成していたが、「共通して入れるべき項目(前提知識、具体例、定義、表記ゆれ)があるのではないか」という意見が挙がった。また、今期で SLA を卒業する部会メンバーの Tips 作成の進捗状況の確認を行い、必要なメンバーに関しては引継ぎの確認を行った。

## ■第8回(2月7日)

今期の活動に関する総括を行った。全てのメンバーが Tips の作成を成果として挙げ、作成に関しての知見や課題に関する議論を行った。最終的には、Tips のフォームの改善案として「掲示板型 Tips」が提示された。また、昨年度発案された「CH ラベル」に関して、来年度も残しておくべきであるという意見が挙げられた。

# 4. 成果と課題

今期における特徴的な動きは Tips の作成であるが、作成方法は他部会とは異なるものであった。数学部会では、各自が設定したテーマに関する Tips を作成し、部会においてその内容を議論するという順序で作成を行った。この方法は、「多くの Tips を作成できる」「ベースが出来るので議論を行いやすい」等のメリットがあった。しかし、個人作業が中心となってしまうため、Tips の内容に数学部会の全 SLA の経験や知識を十分に反映させることが出来ていなかった。また、シフト内での作業が中心となるので、限られた時間の中で書ききることが困難であるという問題点があった。これらの解決のため、最終部会において「掲示板方式の Tips の作成」という改善案が挙げられた。これは、数学部会の全 SLA が気軽に意見を書き込むことのできる手書きフォームを作成し、ある程度の知見が集まった段階で代表者が Tips を作成するというものである。これにより、「全 SLA の知見が反映できない」「時間がないシフトでは作成できない」という課題を改善できる。来年度の活動ではこの改善案について議論を行い、新たな Tips 作成方法として深めていく予定である。

# 化学部会

# (1)基本情報

# <表 4-4-1. 2017 年度化学部会構成>

人数:前期4名、後期2名

前年度からの継続メンバー:3名

部会長 : (前期) 博士課程後期2年、2013年11月採用

(後期)博士課程前期1年、2017年4月採用

副部会長:(前期)博士課程前期1年、2015年6月採用

# <表 4-4-2. 化学部会 2017 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	2017/4/12	水	18:00~19:30	3	4	75.0%
定例2	2017/5/30	火	10:30~12:00	3	4	75.0%
定例3	2017/7/13	木	18:15 <b>~</b> 19:45	3	4	75.0%
定例4	2017/8/8	火	15:30~17:00	3	4	75.0%
定例5	2017/10/18	水	18:00~19:30	2	2	100%
定例6	2017/11/21	火	18:10 <b>~</b> 19:40	2	2	100%
定例7	2018/1/24	水	18:10~19:40	2	2	100%
定例8	2018/2/16	金	13:00~14:30	2	2	100%

# (2)活動概要

SLA メンバーの減員および質問件数の少なさから、新たな支援方法の検討やメンバー勧誘方法の検討等と併行しながら Tips 作成作業を進めた。新たな支援方法としては企画発信型の形態を取り入れた活動を検討するも、メンバーの入替わり等の限界により具体策としては結実しなかった。一方、化学分野の特性上メンバー間で得意分野が大きく異なり部会内での学問内容としての研修・勉強のニーズが高いことから、「化学A理解度チェックリスト」という過去の作成物を再利用し、部会内の勉強資料として整備したことが本年度の特徴的活動である。





# (2) SLA による活動報告

## 化学部会活動報告

理学研究科化学専攻 博士課程前期 2 年 SLA 化学担当(2016 年度化学部会 副部会長) 岩橋 万奈

# 1. 今年度の化学部会の概観

本年度は博士 2 名、修士 2 名の 4 名で活動を開始し、7 月から学部生 1 名を加えた 5 名で活動。 新規メンバーは理学部生が多い SLA においては貴重な工学部在籍者であり、対応時に先輩としてア ドバイス出来る範囲に広がりが生まれた。SLA 全体の「継承」という流れを受け、様々な形での情報の継承に向けて活動する 1 年であった。

# 2. セメスターを通した化学部会の活動

それぞれのセメスターのはじめに半期での大きな活動を決定した。具体的には、前期は「対応傾向分析と授業への申し送り」を、後期は前期の流れを受けて「『ふわっと用語集』の作成」をメインの活動とした。これら2つの活動について、以下に詳細を述べる。

## (1) 対応傾向分析と授業への申し送り

数年前、当時の化学部会が長年の経験を基にまとめた資料を、授業への申し送りとして全学科目化学 A および C の担当者に送っていた。この資料は熟練 SLA が総力をかけてまとめたものであり、質問内容やその原因のわからなさ等をよく網羅していたため、一度作成して以降は大きな改変は行われていなかった。この状況の問題点として「対応経験知に基づいた資料であるため熟練 SLA がいないと大幅な改定や新規作成ができない」ということが挙げられる。それに加えて、化学 A 授業担当者から「実際にどんな質問が来ているのか知りたい」という要望が上がったため、現在の申し送り資料の見直しと SLA 利用者の実状報告をすることを目的として、エクセルを用いた利用者データと質問内容の蓄積を開始した。

本格的な蓄積に先立って、「どのような情報が求められているのか」「どのような蓄積の仕方が良いか」を吟味し、「質問の内容(学生自身が思うわからない部分、表層的課題)」「学生の躓いていると思われるポイント(SLA が見立てた学生のわからない部分、本質的課題)」に着目して残すこととした。蓄積後は、集計とデータから得た知見を対応傾向分析として部会内最年長の D3 のメンバーに依頼。従来の申し送りからさらに現状に沿った傾向分析をすることが出来た。

今後の課題としては、「最終的な傾向分析をする人の負担や依存がまだ存在する」「エクセルへの入力者と対応者が違う場合(ex:他部会による対応を代理で入力)、着目している情報を抽出できない場合がある」「繁忙期の入力の遅れ」などが挙げられ、これらについて改善への検討が必要である。

## (2) 「ふわっと用語集」の作成

(1)で行った 2016 年度前期対応分析から、「『そもそも○○って何ですか?』と言われるような、化学でよく耳にするがイメージがつきにくい用語(位相、電子密度など)について、化学部会内での共通知見を残し、対応に活かせるのでは?」と考え、いくつかの単語について「ふわっとしたイメージを学生持ってもらうための資料=『ふわっと用語集』」の作成に取り組むことにした。

まず各単語を部会メンバーに割り振って資料を作成し、部会の場でそれらについて議論をしたところ、各 SLA の用語集への認識の差によって「TypeA: どのような説明をすれば学生がわかるか(対応重視)」「TypeB: どんなイメージを持っていればいいか(知識重視)」という 2 つの形式が生まれた。TypeA は「学生のわからなさ」を踏まえた実践的説明の仕方をまとめたものであり対応の参考にはなるが、そのベースとなる知識はあらかじめ SLA が持ち合わせていることが前提になっている。

TypeB は教科書的な説明をかみ砕いた「情報」であり、それを如何にして学生に伝えるかという目線は希薄になっている。「学生のわからなさを踏まえた対応の参考書」と「SLA 側の知識の補助や統一性の保持に向けた資料」というそれぞれの利点を両方活かした統一形式が必要であると考え、SLA 全体の活動で用いられる Drip カルテをベースとしたプロトタイプを作成する予定である。

# 3. 月定例部会における活動

## ■ 第1回(前期-1、4月) キックオフミーティング

部会長・副部会長を決定。また各回の勉強会担当者も確定した。今年度の目標は「①駆け込み需要対策」「②支援者層の拡大」とし、①の対策に「物理部会に対応の手伝いをお願いする」①②両者の対策に「利用学生を巻き込んだ物理化学お話会」を提案。これらについて議論を交わした。

## ■ 第2回(前期-2、5月)

化学 A の教員申し送りファイルについて確認。申し送りの発案者である小俣先生や、佐藤先生にも来ていただき、教員申し送りについて意見を伺った。それをもとに、対応内容よりも学生の躓きポイント・学生が分からないと思ったところについて注目し書けるようにフォーマットを一新した。

## ■ 第3回(前期-3、6月)

化学 A 申し送り蓄積における「カルテ内容が不十分」という問題について、始礼で物理・数学 SLA にカルテの①②を書いてほしいと伝えて頂くこととした。「HHeH 直線分子の軌道について」「『すべてわからない』と駆け込んでくる学生さんについての対応」の内容で勉強会を行った。

## ■ 第4回(前期-4、7月)

勉強会として D1 メンバーによる化学 SLA 新人研修開催。対応におけるコンサルの重要性や、どのような問いかけで学生の理解を助けることが出来るかについての講習を行った。レクチャーだけでなく活発な議論をすることで、より良い学習支援への行動指針を共有することが出来た。

- 第5回(前期-5、8月) 前期活動総括
  - 前期セメスターの総括および夏季休業中の部会の動きや合宿での部会報告の内容決め。
- 第6回(後期-1、10月) 後期方針決め

担当者による前期利用傾向分析の結果報告、および後期の部会の活動の方針決め。

■ 第7回(後期-2、11月) ふわっと用語集

ふわっと用語集作成に向け、各単語の担当者が作成した資料持ち寄り発表し合った。本部会では、「対応に活かす」という立場から、用語集として文章化して共有するのではなく、用語説明動画集としてこの各堂を共有・継承していきたいという共通認識を持った。

## ■ 第8回(後期-3、1月) ビデオリフレクション

新規 SLA の対応を録画した動画を見て、SLA 経験の長いメンバーが改善点や良かった点を指摘した。学生の視線を上げさせるためにはどうしたらよいか、ゴール設定をどうするかなど、新規 SLA のみならず、全員が対応について考え直すきっかけとなった。

## ■ 第9回(後期-4、2月) 本年度総括

後期セメスターと本年度の活動振り返りを行った。後期のタスクである「ふわっと用語集」を実際に今後残していける形にするにはどうすれば良いかを議論し、そもそもの用語集のありかたや目的・形式がふわっとしていたことに対する反省と改善案、今後の展開の方針を決定した。

## 4. 全体総括

他部会に比べて少人数であり、窓口対応としては毎日窓口を開設することが出来ない状況であった。しかし部会活動としては、小規模であるが故の個人の裁量の大きさや自由度の高さを活かした新規活動や議論を行うことが出来た。来年度も少人数であることが予想されるため、引き続き小回りの利く活動を進めたい。特に今年度の活動は少人数の化学部会なら早い PDCA サイクルが見込めるということで、全体に先駆けたプロトタイプの検討を行うことが多かった。よってこれらの活動を全体に波及できる完成度にまで高めるのも目標である。

# 5 英語部会

# (1)基本情報

# <表 4-5-1. 2017 年度英語部会構成>

人数:前期11名(7名)、後期8名(5名) ※()内:うち留学生数

前年度からの継続メンバー:7名 部会長:学部4年、2016年4月採用

副部会長:博士課程前期2年、2015年4月採用

# <表 4-5-2. 英語部会 2017 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	2017/4/11	火	18:00~19:30	9	11	81.8%
定例2	2017/6/1	木	18:10~19:40	6	11	54.5%
定例3	2017/7/7	金	18:15~19:45	4	11	36.4%
定例4	2017/8/8	火	13:00~14:30	7	11	63.6%
定例5	2017/10/18	水	18:00~19:30	6	8	75.0%
定例6	2017/11/30	木	18:10~19:40	6	8	75.0%
定例7	2018/1/24	水	18:10~19:40	6	8	75.0%
定例8	2018/2/14	水	10:30~12:00	5	8	62.5%

## (2)活動概要

理系科目の部会に比べると Tips 作成作業は従的活動であり、英会話支援本体の改善に伴う活動がメインであった。具体的に行ったことは、前年度からの継続課題であるマテリアル整理作業や、英会話支援における activity の概念整理 (activity の特徴を把握し、学生のニーズや英語力等に合わせた activity を SLA が幅広く選択できるようにすることが目的)、英会話支援のニーズの見直しと支援の方向性再検討、部会内共通言語としての利用学生のレベルの基準化等である。また、言語習得に関する専門知識を有するメンバーがいたことから、語学支援についてのやや学問的な学習を行ったことも本年度の特徴であった。



# (2) SLA による活動報告

# 英語部会活動報告

教育学部教育科学科教育政策科学コース教育社会学専攻 学部 4 年 SLA 英語担当(2017 年度英語部会 部会長) 米田 佑

## 1. はじめに

今年度の SLA 英語部会は、博士課程後期に所属するメンバーが 2 人、博士課程前期に所属するメンバーが 6 人、学部学生が 3 人というメンバー構成で始まった。なお、そのうち留学生が 7 人、日本人学生が 4 人であった。後期からは複数のメンバーが入れ替わり、博士課程後期の学生が 2 人、博士課程前期の学生が 2 人、学部学生が 4 人というメンバー構成となった。なお、そのうち留学生が 5 人、日本人学生が 3 人であった。

今年度の英語部会は、部会としての活動が活発に行われ、昨年度の活動で明確になりつつあった 英会話支援の「型」の形成に注力された1年となった。

## 2. 部会活動概要

数学や物理、化学と比較して、英会話とは抽象的で曖昧なスキルであると考えられる。そのため、英会話支援とは何かという根本的な問いに対する議論が英語部会内で頻繁に行われ、収集がつかなくなることが多い。各 SLA がこのような問いを持っておくことは必要であるものの、集団で活動している以上、英語部会としてある一定の共通認識を有しておくことは重要である。今年度の英語部会は、これまで曖昧であった「英語部会としての英会話支援」の共通した認識の形成づくりが活発に行われた。特に「学生のレベル分け」「レクチャー」「マテリアル整理」は、この基盤づくりに寄与した主な活動であったと言える。以下では、これらについて概説する。

## (1) 学生のレベル分け

各曜日にまたがって SLA 英会話を利用する学生が存在する。このような学生の対応を一貫したものにするため、ヒヤリングシートが昨年度から導入された。しかし、ここでは学生の英語の出来・不出来に関する情報は共有されてこなかった。学生の英語レベルを SLA 同士で共有し、より一貫した対応を目指すため、また学生の成長を定量的に把握するため、5 段階のレベル分けをもとに学生を区分することとなった。この5 段階のレベルの基準は SLA 同士で議論して設定されたのだが、いまだにその基準が曖昧であるという課題は残されている。しかし、今後は英会話 café におけるアクティビティをこのレベル分けをベースに分類するなど、このレベル分けを基盤とした議論が行える。

## (2) レクチャー

今年度の英語部会では、SLA1 人が他の SLA に対して英会話支援に関する知識を共有するというレクチャーが行われた。第 1 回目のレクチャーは英語の発音の教え方に関する内容であった。第 2 回目のレクチャーは言語学的な観点からみた教育的な英会話とは何かについてであった。前者は、実践的な内容であり、即座に日々の対応に活かせるものであった。後者は、理論的な内容であり、日々の対応に直接的に関連はしないものの、英会話支援とは何かという英語部会での認識の共有に寄与した。この知見を今年度のものだけにせず、来年度以降も引き継いでいくことが重要である。

# (3) マテリアル整理

これまで手付かずであったマテリアル整理が行われた。マテリアルとは英会話 café でのアクティビティを行う際に使用するツールのことである。これまでは、SLA がマテリアルを独自に開発して使用してきたのであるが、その引き継ぎや共有は上手く行われず、マテリアルが散乱した状態にな

っていた。また、マテリアルが未整理であるが故に、SLA 英会話支援とはどのようなものかについて共通した基盤のもとで議論することが困難な状態となっていた。さらに、他の SLA がどのような英会話支援を行なっているのかを把握するためにも、その基盤となるマテリアルの整理が必要であった。

マテリアル整理の過程では、どのようなマテリアルが存在するのかが再確認され、必要のないマテリアルは処分された。また、必要なマテリアルは規格化された。今後は、整理されたマテリアルの全体像が把握できるメニューを作成し、各マテリアルを使用する際のコツを共有する必要がある。

## 3. 定例ミーティング記録

今年度の定例ミーティングは、各曜日の状況や日々の対応の中で気になった事を共有する「情報 共有」、議論したいことや共有しておきたいことをあらかじめ設定しておき、その項目について時間 をとって話し合う「事例検討」の2軸を中心に行われた。

## ■第1回(4月)

第1回目の部会ミーティングでは、①第2回目以降のミーティングの進め方の共有、②今年度の英語部会の目標の共有、③部会長の決定 以上3点について話し合われた。①では、今後の部会ミーティングでは上記の「情報共有」と「事例検討」の2つを軸として進行していくことが決定された。②では「英語部会のチーム力強化」「英会話支援の標準化」「誰でも参加しやすい雰囲気づくり」「部会ミーティングの活性化」の4点が今年度取り組むべき目標として設定された。③では部会長の立候補者がいなかったため、後日、投票によって決定されることとなった。

## ■ 第2回(6月)

第2回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われた後に、その中から英語部会として特に重要なトピックスが選択され、それらを中心に議論が行われた。特に「リピーターの対応」「英会話初心者のやる気の持続のさせ方」「時間の制約がある中での英会話 café の準備の仕方」「英会話のレベルが異なる学生を同時に対応するコツ」について話し合われた。

## ■第3回(7月)

第3回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われた後に、「事例検討」としてSLAの1人から英語の発音の教え方についてのレクチャーが行われた。「情報共有」では特に「ミーティングが行われる前に各 SLA が行なうべきタスク」「英会話中の文法ミスの対応法」「マテリアルの共有」「英会話支援の構造化」について話し合われた。上記の通り、「事例検討」では英語発音の教え方についてのレクチャーが行われ、その実践的な方法が英語部会内で共有された。

#### ■第4回(8月)

第4回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われる中で、学生の「ニーズ」とは何かという議論がなされた。英会話支援とは何かという問いから始まり、そもそも英会話 SLA を利用する学生は何を目的として来ているのか、学生の「ニーズ」とは何なのかといった議論が活発に行われた。当日はその議論の収集が上手くつかなかったものの、後の前期活動報告会(2017年9月11日)における英語部会からの発表では、発表担当者および発表準備担当者によって以下のように当日の議論がまとめられた。すなわち、英会話 SLA を利用する学生は「目標」は持っていることは多い。しかし、「ニーズ」を有していることは稀である。よって SLA の役割は、学生の「目標」を「ニーズ」に変換させ、その「ニーズ」に応えることであるとまとめられた。ここで「目標」とは「留学に行きたい」「グローバルに活躍したい」といった英会話 SLA を利用する抽象的な目的のことである。一方、「ニーズ」とは「発音を練習したい」「リスニング能力を向上させたい」といった具体的な目的のことである。英語 SLA の役割とはこの抽象的な目的(目標)を具体的な目的(ニーズ)に落とし込み、その個別具体的な「ニーズ」に対応することであるとされた。

#### ■第5回(10月)

後期第1回目にあたる第5回部会ミーティングでは、「情報共有」や後期の部会ミーティングの進

め方が確認されるとともに、学生の情報を SLA 内でもっと共有するべきなのではないかという問題 提起から学生を 5 段階のレベルに分けて、SLA 同士で学生のレベルを共有することが決定された。 5 段階のレベルはこれまでの SLA の経験や外部試験の基準をもとに議論されて決定された。

## ■第6回(11月)

第6回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われた後に、「事例検討」として、これまで整理されてこなかったマテリアルの整理が行われた。当日の部会内ではその整理を完結できなかったものの、その整理の方針が決定され、シフト中に各々が時間を見つけ、決定された方針に従って整理することとなった。

## ■第7回(1月)

第7回部会ミーティングでは、「情報共有」が行われるとともに、マテリアル整理作業の進捗状況の確認が行われた。また、「事例検討」として、メンバーの1人から「英会話支援におけるインタラクション」という題目で、英会話支援とはどのようなものかを言語学的観点から議論したレクチャーが行われた。

# ■第8回(2月)

今年度最後の部会である第8回部会ミーティングでは、今年度の利用傾向を確認するとともに、 今年度の英語部会がこれまで何に取り組んできたのかを振り返り、達成できたことや来年度への課題について議論された。

# 4. 成果と課題

第1回部会ミーティングで共有されていたように、今年度の英語部会の目標は「英語部会のチーム力強化」「英会話支援の標準化」「誰でも参加しやすい雰囲気づくり」「部会ミーティングの活性化」の4つであった。これらの目標に対して定量的にその成果を把握することはできないものの、以下の観点から「英会話支援の標準化」「部会ミーティングの活性化」の2点において、大きな成果をあげたと筆者は考える。「英会話支援の標準化」においては、「学生のレベル分け」「レクチャー」「マテリアル整理」を通して、前年度から明確になりつつあった英語部会としての「型」が完成しつつあるという点において大きく進展したように思える。「部会ミーティングの活性化」においては、「情報共有」における議論だけでなく、「事例検討」としてレクチャーやマテリアル整理といった部会としてのアクションが行われたという点において肯定的な評価を下せると考えられる。

この動きを継続しつつも、来年度は「英語部会のチーム力強化」「誰でも参加しやすい雰囲気づくり」に対してもアプローチする必要がある。「英語部会のチーム力強化」に関しては、英語 SLA 同士のバックグラウウンドは大きく異なるため、他の部会よりも難しいのが現状である。今年度は一部の SLA 間での積極的な交流・議論はあったものの、その動きは英語部会全体を巻き込んだものとはならなかったように思える。その結果、上述したように「部会ミーティングの活性化」に関しては、部会単位での動きが活発であったという点で肯定的な評価を下せるものの、その動きは部会全体(チーム)で行われていたとは言えない。今後は、英語部会に所属する SLA 全員が積極的に議論に参加できる工夫が必要である。「誰でも参加しやすい雰囲気づくり」については、定例ミーティング内でも議論されることは少なかった。今年度完成しつつある「型」をベースに、英会話初心者向けの対応についてより積極的な議論が行われることが期待される。

# 6 ライティング部会

## (1)基本情報

# <表 4-6-1. 2017 年度ライティング部会構成>

人数:前期4名、後期5名

前年度からの継続メンバー:4名

部会長:博士課程後期1年、2016年4月採用

# <表 4-6-2. ライティング部会 2017 年度開催ミーティング一覧>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	2017/4/10	月	18:00~19:30	5	5	100%
定例2	2017/5/30	火	16:30~18:00	4	5	80.0%
定例3	2017/7/10	月	18:15 <b>~</b> 19:45	5	5	100%
定例4	2017/8/7	月	18:00~19:30	5	5	100%
定例5	2017/10/12	木	18:00~19:30	5	5	100%
定例6	2017/11/28	火	18:10~19:40	5	5	100%
定例7	2018/1/25	木	18:10~19:40	5	5	100%
定例8	2018/2/6	火	15:00~16:30	5	5	100%

# (2)活動概要

## ⑤ライティング部会

企画系の活動も多いことから、定例ミーティングが企画の打ち合わせや検討に充てられることが多い部会である。学生対応(チュータリング)に関する勉強や事例検討へのニーズが昨年度から高まってきたことを受け、これの在り方を Tips 作成もきっかけとしながら模索した 1 年であった。検討する事例を事前に選定しビデオで確認しておくなどの方法などを試行した結果、ライティングの特性上、当該事例の文脈に依存しながら検討を進める必要性が高いことがわかってきた。引き続き、ビデオ活用も含めた事例検討の方法を模索していくことが次年度以降の課題である。





## (2) SLAによる活動報告

# ライティング部会活動報告

文学研究科文化科学専攻 博士課程後期 1 年 SLA ライティング担当(2017 年度ライティング部会 部会長) 玉田 優花子

## 1. はじめに

設置から3年が経過した今年度のライティング部会は、部会のあり方を改めて問い、体制の基盤を固めたい意識で活動を行ってきた。窓口対応による学習支援と企画発信型の学習支援の二本柱を特色とした本部会の活動について、以下、詳細を報告する。

## 2. 部会活動概要

窓口対応に関しては、対応のスキルアップに昨年以上に力を入れ、定例ミーティングでの事例検討をその主要な勉強の場として研鑽を積んできた。昨年度から試験的に運用してきた留学生の日本語ライティング支援も本格始動、昨年よりも多くの利用が見られ、対応のコツを模索、集積することができた。一方で、企画発信型の学習支援である『レポート指南書』入門ゼミも初めて開催した。本年度に特徴的なトピックを二点、以下に取り上げる。

## (1) 『レポート指南書』入門ゼミ

今年度は新入生全員に配布する学習・研究倫理教材として、東北大学学務審議会および高度教養教育・学生支援機構により『東北大学レポート指南書』第1版(以下『指南書』)が発行されたという大学全体の動向と合わせて、本部会ではライティングスキルに特化したセミナーである『レポート指南書』入門ゼミ(以下『指南書』ゼミ)を企画・実施した。これは、論証型のレポートの執筆要領を解説した『指南書』の内容を、ワーク形式で分かりやすく学べるセミナーである。学習支援センターのスタッフの協力も得てゼミの内容を設計し、全5回シリーズを前期は2期、後期は1期実施し、前期を中心に一定数の参加者があった。課題に対する解答を参加者同士で見せ合い、意見交換をすることのできるワークが好評を得たものの、よりポイントを体感しやすいワークの構想や、特に後期の広報が課題として残った。なお、後期には『指南書』ゼミの引継資料2種類(既存のゼミの実施マニュアルと、既存のゼミの改訂案)も作成した。

## (2) ビデオレビューを中心とした事例検討の充実

昨年度から窓口対応のモデルケースを検討してきたが(「対応の型」づくり)、今年度は事例検討のあり方自体が検討課題に浮上し、試行錯誤を経ながらも充実した事例検討を蓄積することができた。 ビデオレビューは、事例検討の一環として行ったものである。対応の様子を動画で撮影し、各シフトで他の SLA の対応動画の観察・分析を行い、定例ミーティングで意見交換をした。基本的に1 人ずつシフトに入っている少数精鋭部会のため、部会メンバー同士でのピアレビューが行いにくいことが背景にあった。実施の結果、ビデオを観る観点が個々人で異なったために議論が拡散した側面もあったが、SLA 行動指針の一つである「問題ではなく人を見る」ことを徹底し、例えば「見てほしい」という台詞に潜む質問者の不安感に敏感になるなど、カルテの文字情報だけでは分からない対応のコツを獲得、共有することができた。

# 3. 定例ミーティング記録

主に前掲の活動について定例ミーティングを実施してきたが、本年度は議論や議事録作成の方法 自体を問い直しながら、より円滑で有意義なミーティング運営ができるようになりつつあった。議 論の内容は部会の総意として積極的に Tips 化する流れも生まれ、年間を通して計 5 種類の Tips が完 成した。以下では、ミーティング各回の内容を報告する。

# ■第1回(4月10日)

春休みからミーティングを重ねて準備していた『指南書』ゼミに関して、第 1 回分のパッケージ (具体的な内容・段取り・注意点等)を検討した。これを踏まえたパッケージ完成の作業は担当者に 引き渡され、以降『指南書』ゼミは同様の要領で、定例ミーティングとは別枠のミーティングで準備 されることとなる。また、『指南書』ゼミ全 5 回分のタイトルと日程を決定した。

## ■第2回(5月30日)

『指南書』ゼミの話題に終始した。まずは実施した担当者より、感想や改善点の報告があった。次に『指南書』ゼミの改善点に関する協議が行われた。『指南書』ゼミ 2 クール目の実施も決定した。

## ■第3回(7月10日)

まず、各々のシフトの情報共有を行った。これを受け、①webページの引用について、②留学生対応における優先順位についての議論になり、後に Tips 化することとした。最後に事例検討を行った。

#### ■第4回(8月8日)

まずは例によって情報共有を行い、前期の総括として質問・利用傾向を確認した。次に前期を通して集積した対応知見を確認し、①モノの力、②留学生対応における優先順位、③音読法、④個別と普遍の二段階説明、⑤Web 引用に関する共通理解の 5 項目が話題に上った。最後に『指南書』ゼミについての総括も行われた。

## ■第5回(10月12日)

後期第1回のミーティングである今回は、まず夏季休暇中に質問傾向分析と Tips 作成を行った担当者より、各々の作成物について報告があった。次に後期活動方針を検討した。窓口利用がセメスター後半に集中するというライティング特有の文脈の中で、後期の前半を自律的・有効に使うために、①『指南書』ゼミ再実施、②『指南書』ゼミ応用編の作成(但しまずはセンタースタッフによる作業)、③『指南書』ゼミ初版の引継資料の作成、④ビデオレビューの4点が決定された。

## ■第6回(11月28日)

情報共有、部会 To Do 作業の進捗報告の後、ビデオレビューに大半の時間が割かれた。2本のビデオの事例についてまずは拡散型の議論をし、次に両事例を超えた共通のポイントを総括した。

#### ■第7回(1月25日)

情報共有、部会 To Do 作業の進捗報告の後、事例検討を行った。

# ■第8回(2月6日)

最終回のミーティングは、質問傾向と対応知見についてのメンバー間の共通認識を作る目的で開催された。①やってきたこと(課題)、②よかったことや達成したこと(成果)、③残されたこと(課題)について各人が発表した後、共通認識をピックアップし、整理した。

## 4. 成果と課題

今年度のライティング部会は、発信と個別のバランスを上手く維持しながら、多面的に活動を行ってきた。一方、『指南書』ゼミ応用編の試作や、英語の文章を執筆した際の英語ライティング支援のニーズにどう答えるかについては今後の課題とし、来年度も精力的に活動していく所存である。

# 企画部会

## (1)基本情報

①企画部会メンバー構成 人数:前期7名、後期7名

②企画部会ミーティグ開催日時

<表 4-7-1. 企画部会 2017 年度「企画担当 SLA 全体ミーティング」開催日>

	日付	曜日	時間	参加人数	全人数	出席率
定例1	4月4日	火	10:30-12:00	6	7	85.7%
定例2	4月12日	水	18:00-20:00	7	7	100%
定例3	5月1日	月	16:30-18:00	7	7	100%
定例4	6月14日	水	18:30-20:30	7	7	100%
定例5	7月10日	月	18:30-20:30	7	7	100%
定例6	10月10日	火	17:00-20:00	7	7	100%
定例7	11月20日	月	18:30-20:30	7	7	100%
定例8	12月5日	火	18:00-20:00	7	7	100%
定例9	1月10日	水	17:00-20:00	7	7	100%
定例10	2月8日	木	18:30-20:30	7	7	100%

## (2) SLA による企画実施報告

## 企画1:考えるソファ

- 1) 企画の目的・趣旨:本企画は学部1、2年生が気になっていそうな、日常的で身近なテーマで1時間程度の対話を行うイベントである。普段気に留めないような「当たり前」について考えを巡らせ対話することで、思考能力・コミュニケーション能力の向上を狙う。
- 2) チームメンバー:阿部智恵莉、福地成彦、槙田惇也、松村健吾、渡辺大貴
- 3) 課題と自己評価:本企画は企画 SLA 初の参加型定期イベントとして定着したが、1回1回の広報・準備等にかかる労力が大きかった。今後は1、2年生の中から運営にかかわるボランティアを募るなどし、イベントの規模を拡大しつつ各回の労力を省力化していくことが望まれる。

あるテーマについてありあわせの知識と他者の発言のみを頼りに議論を構築していく作業は、今まで大学生がこなしてきた勉強やリサーチとは根本的に異なる。本企画のこうした性質は、立案段階では気づかなかった思わぬ「学びのサイクル」を生み出した。参加者は労力のほとんどを思考と発言に割くことになり、「自身の考えをまとめ、他者に向けて発信することの難しさ」を認識する。この気づきによって参加者の中に「自分には知識や考える力がもっと必要だ」という問題意識が芽生え、普段の学習におけるインプットがより血の通ったものになっていく。インプットに偏りがちな学生生活において、気軽なアウトプットの場を生み出していくことがこの企画の価値なのではないかと感じた。

# 企画2:日本語カフェ

1) 企画の目的・趣旨:本企画は東北大学の留学生にとって授業以外で日本語の練習をする場が不足している現状を受け、友達と接するように日本語で話せるインフォーマルな機会を創出することを目指している。

- 2) チームメンバー:鈴木あすみ、阿部智恵理、堀畑友希
- 3) 課題と自己評価: 熱心に何度も足を運んでくれる留学生の姿から日本語カフェの需要の高さに確かな手応えを感じる一方で、参加者の日本語レベルに差がある場合の対応に課題が残った。母語、学習歴、日本語に接する機会の多さなどは個人差が大きい。今後も日本語カフェを継続していく中で、参加学生の間で大きな差がある場合にどの程度のレベルに合わせるか、初級者をどうフォローするか、上級者にとっても実りのある場とするにはどうすべきかを検討していきたい。

企画 SLA では 2016 年度後期に「日本語」をテーマに留学生と日本人学生が意見を交わし、交流 することを目的として単発型のイベント企画「Academian Talk +」を開催した。留学生にとって日本語で話す機会、日本人学生と交流する機会が不足しがちであるという問題意識は「日本語カフェ」と共通だが、「日本語カフェ」は週 2 回の定期的な開催によってこの問題により効果的にアプローチできる企画になったと感じる。今後は他部会とも連携し、SLA 以外の日本人学生の呼び込みなども 視野に入れつつ発展的な継続ができるよう努めたい。

# 企画3:チャレンジボード、コタエテ!SLA

- 1) 企画の目的・趣旨:「チャレンジボード」はラウンジを訪れた学生が問題を出し合うホワイトボード、「コタエテ! SLA」は学生の意見・悩み等を SLA が吸い上げる投書箱である。「学生同士の学び合い」「自身の学習についての省察」を促進するべく常設展示している。
- 2) チームメンバー:福地成彦、見上達哉、鈴木あすみ
- 3) 課題と自己評価:「チャレンジボード」では学生同士の活発なディスカッションが行われ、学習成果の力試しをするような利用も見られた。立案当初は数学や物理など数式を使うような科目の出題が大部分を占めると想定していたが、実際にボードを設置してみると英語や歴史といった理系科目以外の出題も見られ、SLAの予想が良い意味で裏切られたことに喜びを覚えた。一方で、ボードの設置からしばらく経つと出題・回答数が減少する、学習というよりは趣味性の高い書き込みが出てくるといった問題点もあった。このような書き込みは否定的に見れば落書きとも解釈できるが、肯定的に見れば学びの入り口としても捉えられる。今期は趣味性の高い書き込みに対して具体的な処置は行わなかったが、このような質問をどのように扱っていくか、どう活かしていくかは来期の課題になると感じている。

「コタエテ!SLA」は未だ投稿件数が4件と少なく、ラウンジの利用者を増やし、SLAをより身近に感じてもらうための働きかけが急務である。また、準備段階では「掲示によるコミュニケーションを実現する」という形だけが先行してしまい、企画のそもそもの目的を見失うこともあった。課題意識を明確にした上で企画立案に臨むことの大切さを再確認した。

## 企画部会活動報告

## 一企画 SLA の勘所と SLA Tips 作成について—

法学部 4年

SLA 企画担当(2017 年度 企画部会) 槙田惇也

## 1. 問題意識

## (1)個人としての問題意識

企画 SLA 発足から一年間様々な活動をやっていくなかで、それぞれの企画が段々と形になっていくのと同時に、これらの活動の目的を定義しきれていないことに気付き始めていた。

また、企画のそれぞれが発案者を中心として人に依存した運営がなされており、運営方法や企画のねらいなどについて言葉に落とし込み切れていないところがあった。SLA は平均 1,2 年で入れ替わりがあるので、そのたびに企画の目的意識を新メンバーに共有していく必要がでてきてしまう。よって、このような運営は目的意識の共有という観点からは好ましくないのではないかと考えていた。

# (2)Xmajor からの学び

これらの問題意識の発端は Xmajor<sup>1)</sup>の失速に学ぶところが大きかった。すなわち、Xmajor の失速の原因は①立ち上げメンバーのコンセプトが後続のメンバーに上手く伝わらず、人の入れ替わりに伴い少しずつメンバーのコンセプトがずれていったこと②組織運営が人に依存しておりメンバーの入れ替わりに対応しきれなかったことにあり、初期メンバーが抜けつつある企画 SLA はまさにこのような問題が将来立ち上がってくることが予想されたため、私が抜ける前にこのような組織の持続性の問題を解決しなければという思いが強かった。

## 2. 企画 SLA の勘所と SLA Tips 作成

## (1) 作成の目的

これらの問題を解決するために、①企画 SLA の提供する価値(ミッション)を定義する、②ファイル管理の方法や企画書のフォーマットなど企画 SLA そのものの運営方法をまとめる、③実際の企画運営の中で得た学生対応のノウハウ(ex.ファシリテーション技術など)をまとめる、ということが必要であると考えた。

そこで、「企画 SLA の勘所」と「SLA Tips」を作成した。企画 SLA の勘所とは、SLA の活動の発端となる問題意識を切り口としてその活動を抽象的に説き起こしたものである。SLA Tips とは、これまでの経験で得た知見や組織の運営体制をまとめたものである。

## (2) 作成過程

ミーティングは合計で3回行った。

第1回は、槙田の上記問題意識をメンバーと共有し、賛同が得られたので実行する方向で話を進めた。Tipsの内容をいくつかの項目に分割して、各自の担当部分を決定した。

第2回、第3回では上記①についてメンバーの中で詰めた。

## (A) 企画 SLA の勘所について

第2回のミーティングでは、企画 SLA の発起人である佐藤先生にまずその設立の思いを話していただいた。その後、各企画 SLA が抱いている大学での学び方に対する問題意識をディスカッションし、まとめていった。その中で、「もっと大学的な教養を学びたいのに、それをするちょうどよい場所(コミュニティ)がない。学生の中で、学ぶことに対してどこか冷笑的な雰囲気があり、やりにくい」という問題意識を共有した。

第3回のミーティングでは、このような問題について企画 SLA はどのようにアプローチできるのかということについてディスカッションをした。ディスカッションをしていく中で、「アウトプット

の場・参加できる場・失敗できる場・主体的になれる場」としての「大学的学びの場」を作るという方向でコンセプトがまとまっていった。

## (B) SLA Tips について

企画 SLA の運営方法という観点から、各種報告書等のフォーマットの使い方・シフトの組み方・グーグルドライブでのファイル管理・広報といった事項について、それぞれを主に担当してきたメンバーがまとめていった。

これら二つを最終的に「企画 SLA 運営に関する Tips」として、一つにまとめた。目次は右図の通りである。

#### 企画SLA運営に関するTips

#### 1. 企画SLAの勘所

- 1. 企画SLAの問題意識
- 2. How どのように課題にアプローチするか
- 3. What どのような企画をやるか
- 4. 企画作成のコツ
- 2. フォーマットについて
- 3. ドライブについて
- 4. 広報全般について
  - 1. 目的
  - 2. ペルソナの作成
  - 3. 広報戦略の選択
  - 4. 注意事項

<図「企画 SLA 運営に関する Tips」目次>

## 3. 成果と課題

## (1) 成果

大きく二つの成果があった。1つ目は、これらの活動を通じて、今まであまり突き詰めてこなかった問題、つまり「企画 SLA って何を目指した組織なんだろう」という問題について腰を据えてメンバー同士の考えを聞きながら思索することができ、有益だったことである。

2つ目は、コンセプトと組織の運営体制が一挙に明確になり、チームとしての一体感、基盤がより 一層確固たるものになった。また、これらを言葉にして書類にすることによってメンバーが入れ替 わってもそのコンセプトや運営体制を効率的に継承することができるようになり、組織の継続性が 向上したことである。

## (2)課題

企画 SLA の勘所は、現時点での企画 SLA のコンセプトを言葉にしてみたものに過ぎず、今後もメンバーの入れ替えに伴いアップデートされていくべきものである。このようなアップデートがきちんとされていく仕組みは作れなかったので、この点に課題があると考える。

## [注]

1) 京都大学の学生を中心とした学生団体で、大学生の主体的な学習を支援する活動に取り組んでいた。学習支援センターの実施する SLA 研修の一環として、2016年の秋(企画 SLA 発足時直後)に、東北大学川内キャンパスに招聘して講演いただいた(詳細は、2016年度年次活動報告書 p.48)。

# 5. SLA の採用と育成・研修実績報告

# ╣ Summary

2017年度の新規採用は、前期末4名、後期末8名であった。正式応募者における採用率は55%である。

本年度の SLA 育成・研修活動では、これまでの育成活動の見直し・整備の取り組みの総括的作業を行った。

## ■初任者研修・『SLA ハンドブック』改訂

初任者研修の一環として、学習支援者として必要な姿勢や、学習支援についての基本的知識を学ぶ初任者講習を導入した。『SLA ハンドブック』については、学習支援者理解や、学習支援者育成の全体像などを概念整理し、掲載した。

# ■OJT としての取り組み一ビデオリフレクション

前期セメスターで集中的に実施した。自らの対応を客観視することで、主に自身の振る舞いについて気づきを得ることができた。

# ■活動説明会·活動報告会

説明会(前期・後期)では、今期の方向性として「1.標準化・体系化」「2.新規開拓・開発」というキーワードを示し、これらの理解・共通認識を図ることを主目的とした。活動報告会は、『学習支援ハンドブック』プロジェクトの成果報告会を兼ねて実施した。

#### ■夏期研修

本年度は23名が参加した(参加率45%)。前年度までは合宿の形態だったが、学内実施に変更して行った。コンセプトは「SLAの今後のことを考える夏—SLAの集団的自律性とは—」とし、SLAのチームとしての自立性をどう向上させれば良いかという課題意識の元に実施した。

## ■「シニア SLA」の活動

本年度はゆるやかな共通目標の下、シニア SLA それぞれが自身の状況や特性に応じて各シフト・各部会・プロジェクトにおいて役割を発揮していった。

## ■共通研修

講師招聘型で行い、本年度は3回実施した。

## ■他大学合同研修の実施

福島大学・北海道大学の2校と開催した。3校での開催は初の試みである。SLAからは8名の学生(担当:物理、数学、英会話、ライティング、企画)が参加した。

## ■振り返りシートおよび個別ヒアリング

従来通り、自身の SLA としての活動を振り返る「活動振り返りシート」作成を学期末に実施した。 併せて、当該学期の新規メンバーには「個別ヒアリング」を実施した。

# SLA 募集・採用活動

SLA の募集は、一般公募の形で行っている。SLA からの推薦・紹介での応募もあるが、採用までの流れは一律であり、近年はセメスター末(前期 7~8 月、後期 1~2 月)を基本の募集・採用期間としてしている。

前年度から、前期末の募集は補充が必要な担当についてのみ行い、後期末に全担当一斉に募集を 実施している。応募者数・採用者数等の数値は表 5-1-1 の通りである。

今年度の採用活動では、一次審査を設けたのが新たな試みであった。前期末の補充的募集では説明会を省き、代わりに SLA の理解についてと抱負についてを記述する一次審査を実施した。後期末の一斉募集では、応募の多い英会話担当のみ一次審査を設け、SLA になった際の抱負や計画を日本語、英語の両方で記述するよう求めた。

採用活動での課題は、昨年度に引き続き英会話の応募過多、ライティング・化学の応募過小である。英会話の応募過多の状況は、主にアルバイトを探す留学生からの応募が多いことによるものである。留学生からの応募自体は歓迎されるものであるが、SLA活動理念と学生の志望動機のずれが日本人学生より生じやすいこと、業務に支障がない程度の日本語力が必要となることなどから、採用には至らないケースも増加している。こうした状況もあり一次審査を設けることとなったが、より円滑かつ適切な採用活動の流れについては、引き続き検討の余地がある。

<表 5-1-1. 2017 年度 SLA 応募者数・採用者数等>

	応募	説明会参加	正式応募	合格	採用
前期末(8月頃)	9名	(1 次審査)	9名	4名	4名
後期末(2月頃)	22 名	18 名	13 名	8名	8名

<表 5-1-2. 2017 年度 SLA 応募者・採用者における担当科目割合>

	物	理	数	学	化	学	英会	会話	ライテ	ィング	企	画
	正式応募	採用	正式 応募	採用	正式応募	採用	正式 応募	採用	正式応募	採用	正式 応募	採用
前期末 (8 月頃)					0名	0名	7名	2名	1名	1名	1名	1名
後期末 (2 月頃)	1名	1名	2名	2名	1名	1名	7名	2名	1名	1名	1名	1名

# SLA

# SLA 育成の概要

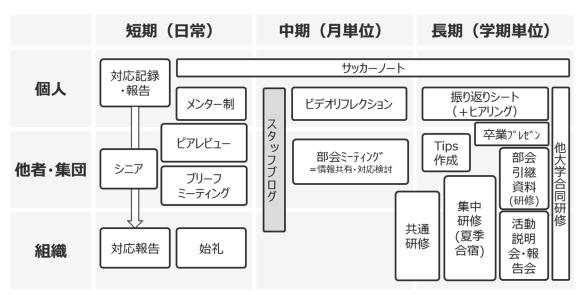
# (1) 現状と全体像

SLAによる学習支援活動(SLAサポート)は本センターの提供する支援の中核である。そのため、これを担う学生をどのように採用・育成・研修し、SLA=「学習支援者」として育てていくかは、本センター運営上の中核的課題である。

SLA 育成は 2010 年度の活動開始当初より注力してきたものであるが、近年、日々の活動改善と合わせて、育成活動全体の整備や「学習支援者」概念の見直しなどを進め、学習支援者育成マネジメントの質向上に努めてきた (2016 年度『年次活動報告書』論考等参照)。

本センターにおける S L A 育成活動は OJT を中心としながら、Off-JT も組み合わせる形で整備を進めている。現状の全体像は下図に示す通り、個人・集団 (グループ)・全体の単位と短期的・中期的・長期的スパンでの研修活動を組み合わせる形で、SLA 育成に関わる活動を組織している。

全体を通して、「振り返り」「学び合い(協同性)」をキーワードとしながら、SLA 同士が自律的に 学び合う持続可能な組織運営と学習支援の質保証・維持向上を図る体制を構築してきた。あわせて 近年は、「知の継承・共有」を強化推進し、個の気づきを他者と共有すること、活動の成果を次代に 継承可能な形とすることに力点を置いてきた。



<図 5-2-1. SLA 育成に関する取り組み全体 MAP>

※スタッフブログは運用を実質休止中

## (2) 本年度の特徴

本年度の特徴は、これまでの育成活動の見直し・整備の取り組みの総括的作業を行ったことである。総括的作業としては「資料化する」ということと、これまで実施してきた OJT、Off-JT のいくつかの取り組みについてバージョンアップを図ったということがある。

具体的には、①初任者研修を整備し「初任者講習」を実施したこと、②SLA の業務マニュアルにあたる『SLA ハンドブック』を大きく改訂したこと、②ビデオリフレクション・ピアレビューの効果的な実施方法に知見を得たこと、③『学習支援ハンドブック』を作成しこれまでの経験知の総括作業を行ったこと、④より日常的な経験知の総括作業として『SLA Tips』の作成・開発に着手したこと(③、④は pp.29-32 参照)などが挙げられる。

# 初任者研修・『SLA ハンドブック』

# (1) 初任者研修

SLA 新規採用者に向けた取り組みおよび本年 度更新した取り組みは、下表の通りである。学 習支援者として必要な姿勢や、学習支援につい ての基本的知識を学ぶ初任者講習を導入したこ とが新たな取り組みであった。

初任者講習を初めとする初任者研修の充実は、活動開始前に活動に対する心構えが醸成される点で有効ではあるが、SLAからは「活動開始時に触れる情報量が多い」という声も聞こえてきており、実施時期や情報の洗練は引き続き工夫を図っていく必要がある。



<写真> 初任者講習の様子

## <表 5-3-1. SLA 新規採用者に向けた初任者研修関連の取り組み>

取り組み	概要	本年度更新・改善事項
初任者研修会 ①業務説明会 ②初任者講習	『SLA ハンドブック』を基にした「業務説明会」(約1時間)と、学習支援に関する基礎的な知識・スキルを学ぶ「初任者講習」(約1時間半)を活動開始前~初期の時期に実施。	学習支援、学習支援者 としての知識理解を図 る初任者講習を初実 施。
初任者 OJT3 課題	①他者 (主にメンター) の対応の観察記録、② 自身の対応のビデオリフレクション、③自身 の対応について他者 (主にメンター) からコメ ントをもらうという 3 課題を、新規採用時の 1 セメスターをかけて実施。	実施状況にムラが生じ ていた状況を改善。 統一フォームを使用 し、実施状況を把握。
メンター制	世話役の先輩 SLA がメンターとなって新規メンバーのフォロー・育成を行う体制。	変更なし

# (2) 『SLA ハンドブック』 改訂

『SLA ハンドブック』は、全 SLA に配布している SLA 活動時の基本資料(マニュアル)である。特に新規採用時には業務説明会においてこの内容を確認している。この『SLA ハンドブック』に、学習支援者育成マネジメントの質向上の取り組みで得た知見(「学習支援者」理解や、学習支援者育成の全体像など)を概念整理し、掲載した。やや分量として多くなったが、最初にすべてを理解しなければならないわけではなく、センター内(センター員と SLA)の共通言語の創出、SLAにとっては「困った時・何か考えたい時に立ち戻れる場所」としての意味を持たせる意図で編纂を行った。



# 4

# OJT としての取り組みービデオリフレクション

SLA の育成にあたっては、経験から学びを得る On the Job Training の形態を重視しており、各種ツール・方法を取り入れてきた。その全体像は p.89 図 5-2-1 の通りである。

ここ 1~2 年力を入れて取り組んでいるのが**ピアレビュー**と**ビデオリフレクション**である。ピアレビューは昨年度最も強化して取り組んだ OJT 活動であり、本年度も引き続き、シニア SLA を中心として活動促進が図られ、担当領域を超えたピアレビュー(特に理系とライティング)に意義を見出す声も昨年度に引き続き聞かれた。ただしピアレビューの実施は、意識的・積極的なメンバーの存在に依拠する側面が強く、体制として統制を強化するか、自由裁量に任せるかは、他の取り組みとのバランス次第である。

本年度特に取り組みを推進し在り方を模索したのはビデオリフレクションであった。

# (1) 実施状況と課題

本年度は前期セメスターでビデオリフレクションを集中的に実施した。その実施回数は全 55 回で、企画部会を除く 45 人中 40 人が実施した。ビデオリフレクションは、ビデオ撮影とリフレクションの 2 工程が必要となるが、そのどちらにも課題が残っている。

# ■ビデオ撮影時の課題

- ・機器操作の理解普及
- ・円滑な機器設置
- ・データ管理 (データ移行、保存方法等)
- ■リフレクション時の課題
  - ・データ管理 (安全な操作等)
  - データの利用のしやすさの工夫
  - ・リフレクション時間の確保
  - ・リフレクション観点の指導(本年度は参考資料を作成)

## (2) 成果と今後の方向性

ビデオリフレクションを強化実施し、SLA から得た感想等を踏まえると、次のようなヒントと今後の方針が浮かんできているのが現状である。

- A. 心情的には気が進まないため、実施に一定程度の強制力が必要である
- B. 一度実施すると、自身を客観的に観る視点を得られて有効であるという声が多い (「相手から見られている、ということに改めて気付いた」といった感想が聞かれた)
- C. 少なくとも現状のビデオリフレクションは、【振る舞い】の振り返りに有効であるが、【対応内容】の質的な考察を目的としては活用しにくい

(ただし、ライティング部会のように共同で事例検討する際にはビデオデータが有効である)

D. C.とも相まって、頻繁に短期間で実施するよりは、新規採用時に1回、半年 orl 年後に1回ほどの実施頻度が適切ではないか。

# 活動説明会・活動報告会

全SLAを対象として、セメスターの開始時に「活動説明会」を、終了時に「活動報告会」を開催している。「活動説明会」は今期の目標を共有することを主目的に、「活動報告会」は今期の活動を振り返り次期活動に繋げることを主目的に行うものである。なお、「前期活動報告会」は「夏期研修」と同時開催としているため、次節にて報告を行う。

## (1) 前期活動説明会

2017 年度前期活動説明会は、4月4日(火) 16:30 ~18:00 に開催された。出席20名、欠席13名であり、欠席者には後日ビデオ視聴で代替した。出席時・ビデオ視聴時にはコメントペーパーを記入する。プログラム構成は図5-5-1の通りである。

## ①本年度全体目標

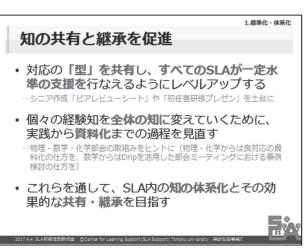
活動説明会の主目的は今期の活動の方向性を共有することである。今期は大きな方向性として「1.標準化・体系化」「2.新規開拓・開発」という「キーワードを示した。

「1.標準化・体系化」については、これまで の先輩 SLA たちの経験知の蓄積が個別的・伝承 中心であったことを課題として指摘し、2016年 度に目標の一つに掲げた「継承=SLA の知恵の 共有・伝達」の実現のために行ってきた取り組み を引き継ぐ形で、本年度さらに「知の共有と継承 を促進」するという目標を提示した。より具体的 には、図 5-5-2 の通り、対応自体の水準の引き上 げ、そして経験知を資料化する過程の見直しを 「標準化・体系化」の中身として設定し、『SLA Tips』の計画について詳説した。なお、余談であ るが、これらの説明の際、「データ」が意味づけ や分析によって「情報」→「知識」→「知恵」と 変換されていく「ナレッジ階層」の考え方を説明 したことが、取り組みの意味を理解するのに有効 だった様子が SLA の感想から窺えた。

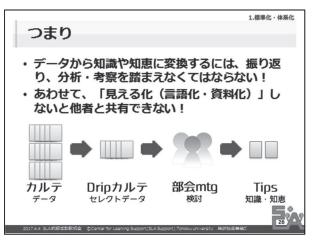
「2.新規開拓・開発」としては、本センターで実施している学習支援の全体像を見直した際、①企画発信型支援(学びの機会を創る支援)が十分にはできていないこと、②文系学生や留学生の支援に課題が多いこと、③課題解決型や協働的学びの支援の不足などを課題として提示した。これらの課題意識から、企画 SLA、ライティング支援、英会話支援の改善・開発をより強化することを本年度の方向性として掲げた。

- 1. 新スタッフ、新 SLA 紹介
- 2. クォーター制について
- 3. 博士生の雇用について
- 4. SLA ハンドブック改訂事項確認
- 5. 今期の活動計画・目標
- 6. 事務連絡・写真撮影等

<図 5-5-1. 2017 年度前期活動説明会次第>



<図 5-5-2. 説明会スライド一部>



<図 5-5-3. 説明会スライドー部>

## ②本年度担当別目標

担当領域(各部会)別に示した今年度の目標は、下図の通りである。

# 理系支援+担当SLAの目標

- ▶方針
- : 支援活動の継続+質向上
- :情報の知識化と活用(知の見える化)
- : ①ピアレビューの恒常化
  - ②Dripと部会ミーティングの連動性
  - ③SLAチップスの集積と活用



# 英会話支援+担当SLAの目標

- ▶方針
- : accessibilityの向上 (誰でも気軽に参加できる 場づくり)
- : ①初級者向けMenuの充実 ②チーム力強化
- ▶活動
- : ①部会ミーティングの活性化
  - ②各メンバーのノウハウの共有
  - ③SLAチップスの集積と活用



# ライティング支援+担当SLAの目標

- : アカデミック・ライティング支援の啓発・
- : 新規開拓+対応の標準化
- : ①「レポート指南書入門ゼミ」の開発・実施
  - ②留学生対応の経験知の集積・検討
  - ③チュータリングの「型」の共有と定着\_\_

# 企画発信型支援+担当SLAの目標

- ▶方針
- : 共同的な学習機会の日常化
- ▶目標
- : ファシリテーションカの向上
- ▶活動
- : ①定期的な活動の創出 (展示・掲示系企画の充実)
  - ②Facebook等を活用した発信力の向上
  - ③学習プログラムの開発



<図 5-5-4. 前期の部会別目標>

## (2)後期活動説明会

後期活動説明会は、10月4日(水) 16:00~18:00 に開催し、出席30名、欠席15名であった。前 期同様、コメントペーパーでの振り返りを課し、欠席者にはビデオ視聴で代替した。

後期活動説明会のプログラム構成は、①新メン バー紹介、②夏期研修報告、③後期活動方針説明の 3部構成である。夏期研修の概要と成果を全体に環 元するため報告することと、後期に向けた活動計 画を共有することが本会の主旨であった。

本年度後期は、前期からの方針に大きな変更点 はなく、①ピアレビュー実施、②部会別 Tips の本 年度分の完成、③(有志)『学習支援ハンドブック』 の完成を達成目標として掲げた。

部会別の目標・活動については、方針に変更はな いが、前期の活動の到達点と今後の具体的な計画 を確認した。提示した内容は図 5-5-5 の通りであ る。

## 部会別の目標と活動

【理系部会】 ビアリフレクション&インタラクションで自得

- 全体目標の最推進役に
- 【英語部会】第1ステージの第
- Activityや概念整理を部会長・副部会長筆頭に加速
- 英語部会の対応モデルの基盤を作る
- 【ライティング部会】 大きな方向性は前期
- 来学期に向けた「指南書ゼミ応用編」試作
- 事例検討の蓄積、対応モデルの検討 【企画部会】創設1年経過。「企画SLAって
- 前期着手活動の推進と改善
- 日本語カフェの開発・推進



<図 5-5-5. 後期の部会別目標と活動>

# (3)後期(年度末)活動報告会

後期(年度末)活動報告会は、2018年2月28日(水)15:00~18:00に開催された。本年度は、『学習支援ハンドブックプロジェクト』の成果報告会を兼ねて実施したため、例年より長時間の会となった。第一部活動報告会のプログラム構成は図5-5-6の通りである。あわせて、第二部として卒業生送別会を開催した。出欠状況は、第一部出席28名・欠席17名、第二部出席20名・欠席25名であった。

- 1. SLA 活動報告(6部会)
- 2. センター総括
- 3. ハンドブック P成果報告 (4名)
- 3. 卒業プレゼン (9名)
- 4. 活動証明書授与
- 5. センター長挨拶
- 6. 写真撮影

<図 5-5-6. 2017 年度後期活動報告会次第>

# ①SLA 活動報告

SLA 活動報告は、部会ごとに行った。Tips 作成を主軸に活動を展開した部会が多かったため、Tips 作成の方法・成果・課題点についての報告が主立った。その中で、部会での議論(事例検討)の仕方について考察を深めた報告も多く見受けられた。本年度卒業する SLA メンバーが例年以上に多い状況も影響していると考えられるが、次年度を意識した活動改善のヒントや提案が盛り込まれた報告も多く、"実践の成果を総括し継承する"という意識の高まりが窺える報告となった。

## ②『学習支援ハンドブック』 プロジェクト成果報告

『学習支援ハンドブック』に原稿を執筆したメンバー4名(卒業プレゼンと内容が重複するものは卒業プレゼンを優先させた)が、各自が担当したトピックの一部を紹介した。紹介されたトピックは、「複数人利用の場合の対応」「確認型質問への対応」「場を整理する」「先の学習内容と紐づける」の4点である。冊子に収録したトピックは30項目であったが、これら全てを紹介することはできないため、冊子に興味を持ってもらうきっかけ作りとして成果報告を行った。

## ③卒業プレゼン

卒業メンバーに3~5分程度のプレゼンテーションを依頼し、9名が実際に行った。卒業プレゼンは昨年度から実施しているが、資料として集積できる情報とは異なる"生の声"を継承できる場であり、次年度も継続するメンバーにとって自身の活動をふり返る機会となっている。

## (4) 説明会・報告会全体を通じて

本年度の活動説明会・報告会では、会終了時にコメントペーパーで振り返りの機会を持つことを共通して行った。質問項目の例は右の通りである。主に、会の内容を受けた理解と解釈を問うものと、自身の考えを言語化する2側面から振り返りを促す構成となっている。

全体的にコメントの質は高いため、SLA 本人および センター(員)が、これを次の実践にどう活かしてい くか(活かせる状況をどう創るか)に、工夫の余地が 残されている。

## 前期説明会

- 1. 今日の説明を聞いて、今期は何に力を入れていくと理解しましたか。説明会で使用した言葉でもよいですし、自分の言葉も良いので、自分の理解した今期のセンターの方向性・目標について、記してください。
- 2. 個人としての今期の目標を挙げて下さい! 3. 今日の感想(印象に残ったこと・疑問に思ったことなど)を自由に記してください。

## 後期報告会

- 1. あなたが学習支援センター (SLA) の現状の 課題点や今後の目標・方向性として重要だと感 じたことは何ですか?プレゼンの内容を参考 にしつつ。あなたの考えを聞かせてください。
- 2. 感想(印象に残ったこと・疑問に思ったこ

<図 5-5-7. コメントペーパー設問>

# 夏期研修

## (1)目的と概要

夏期研修は、①前期セメスターの活動の振り返りを通して今後の活動に活かせる知見を得ること、②大学教育、学習支援に関する知識やそれらの今日的課題についての知識を得ること、③SLA 同士やスタッフとの交流を深めると共に、センターの抱える課題や方向性を皆で共有し、SLA 全体のチーム力を高めることを目的としている。

夏期研修は、2017年9月11、12日にSLAラウンジ内で開催された。昨年度までは、研修合宿として宿泊を伴う形で実施していたが、本年度は予算の都合等から学内実施に変更した。このことによる懸念もある一方、SLAが参加しやすくなるという利点があった。そこで、例年、合宿とあわせて実施していたために全員参加を前提とすることができなかった「前期活動報告会」(1日目)を、他の説明会・報告会と同様、全員参加を原則とする形に変更した。この点は、説明会・報告会の趣旨に照らすと従来よりも適切なあり方に改善することができたといえる。

研修参加者は、23 名(1日目のみ8名、2日目のみ4名を含む)であった。全参加者のみでは参加率は21.57%と例年を下回るが、1日のみの参加を含めると参加率は45.10%と例年並みである。

<表 5-6-1. 2017 年度夏期研修プログラム構成および参加者構成>

	■1月目	■2月目				
	13:00~17:00 オリエンテーション	10:30~12:00 講義				
内容	前期活動総括会	13:00~16:30 ワークショップ				
	卒業プレゼン	16:30~17:30 成果発表				
	17:00~18:00 座談会	17:30~18:00 合宿振り返り				
	23 名 (うち 12 名は一日のみ参加) ※研修対象学生 51 名中 (45.1%)					
	<参加 SLA23 名の構成>					
	・学年: D3…3名、D1…4名、M2…4名、M1…5名、4年…4名、3年…3名					
参加 SLA	・活動歴: 半年未満…5名、半年~1年…4名、1~2年…8名、2~5年…6名					
	・担当:物理…10名、数学…4名、化学…1名、英語…2名、ライティング…					
	2 名、企画…4 名					
	・過去の合宿経験: 3回…1名、2回…4名、1回…3名、初参加…15名					

## (2) 2017 年度夏期研修のコンセプト

本年度の夏期研修では、「総合キャッチフレーズ」として「SLA の今後のことを考える夏―SLA の 集団的自律性とは―」というテーマを掲げた。自律性というと個々の独立した動きが想起されやす いが、そうではなく、SLA のチーム・集団としての自律性を向上させるにはどうしたらよいかとい う課題意識がこめられている。

なお、テーマを漠とした"キャッチフレーズ"の形でしか結実しきれなかった背景には、本年度末に過去に経験したことのないメンバーの入れ替わりが生じることが予測されている中での危機感や、今後を考えること・今後に繋がる夏期研修を企画することの困難さが存在していた。そのため、プログラム構成は従来の枠組みと変わらないもの、こうした危機感や迷いを率直に提示してセンター全体の課題意識を SLA とも共有し、今後のあり方ををともに考えるという姿勢を底流に伏在させた会となった。

## (3) 各プログラム内容詳細

## ①前期活動総括会

前期活動総括会は、SLA 各部会による活動報告とセンター員による前期総括で構成されている。 本年度は、前期で SLA を卒業するメンバーの参加が適ったため、卒業プレゼンも併せて実施した。

SLA 各部会による報告は、a)今期の質問・利用傾向、b)対応の知見(部会ミーティングでの議論の成果)、c)その他活動紹介、d)メンバー紹介を基本構成とし、特に $a \cdot b$  の 2 点を重点項目とした。本年度は、『SLA Tips』作成が部会活動の主軸であったことに対応し、対応の知見=部会ミーティングでの議論の成果を明示的に項目立てしたことが新たな点である(※対応知見報告は、Tips 作成の有無に関わらず部会報告の本来の目的でもあるが、より実質が伴うものとなった)。

センター員による前期総括では、今期実施した活動の総覧(時系列)と今期の目標に照らした現状の評価、利用状況データについて報告を行った。

## ②座談会

座談会は、「SLA は SLA をどこまで自律的に運営できるか、すべきか、したいか」という課題をテーマに意見交換を行った。「自律的運営」は理想であるが、これを現実的な行動・体制に結実させるには様々な課題があること、必ずしも「全てを SLA が自律的に活動する」ことばかりが求められているわけではないことも踏まえながら、SLA 個々人が、「自律的運営」の実現に関わる諸活動について何をどこまでできると考えているのか、何はできないのか、現状では何が足りないと感じているかといったことを考え、発言してもらった。

テーマ設定が若干難しく、発言は一部の SLA に偏ってしまったが、「自律性」を高める基盤として「情報共有」の改善・充実が何より重要であるという認識が共有された。議論の中では、「センターから SLA に対し提供する情報」について「足りない」という評価と「多すぎる」という評価が分かれたり、「SLA 間の情報共有」に改善の余地はあるものの時間的・物理的限界の壁の大きさで方策が浮かばないといった場面があったが、有意義な検討材料を得ることができた。

## ③講義

講義は2部構成で行った。第1部の「SLA基礎講習」では、SLAの役割と学習支援者としてのあり方について確認した。第2部では、その役割とあり方を果たすための「学習支援のナラティブ・アプローチ」に関する専門知識と技法について解説した。

SLA は、学生のリアリティを理解し、それぞれのニーズ・学習課題を把握し分析したうえで、学生一人ひとりに合わせた学習アドバイスや課題解決に繋がる提案をする「対話的な支援者」の役割を担っている。ここでは、学習者と一緒に問題・論理を語りながら状況を整理していくという「ナラティブ」な学習支援方法が有効である。「『学生』が問題なのではなく、『問題』が問題である」という考え方を基本とし、学習課題を外在化することが重要であるということを提起した。

講義の中では、グループワークも行った。SLA 同士で学習者の省察的な学び(気づき)を促すための「良い質問」と「そうでない質問」について議論したり、SLA としての活動や対応で学習支援のナラティブ・アプローチをどのように活かしていけるかを考えたりした。SLA からの感想は、「物語を言うことを数学に対応させることは難しいが、そのような考えを知って刺激になった」、「理解した『ナラティブ』といった理論と技法を実践にどう落とし込んでいけるかが今後の課題だと思う」などがあった。

# ③ ワークショップ

ワークショップは、「SLA の学習支援はどうあればよいのか?」を「学生の姿」(=支援の目標像)と「SLA の役割」(=支援方法)の 2 側面から考えを深めることをテーマとした。グループメンバーは、活動内容が類似しているメンバー3 名程度で構成した。工程は図 5-5-1 の通りである。

Step2 では、自分自身が日々学生と接する中で「もっとこうなるといいな」と思ったり、こういう風に利用してほしい、利用後はこうなっていてほしいと思い描いたりしている「学生の姿」とはどのようなものかを考え、他の SLA とも共有しながら意識的・無意識的に抱いている「理想の学生像」を具体的な行動レベル(「××をすることができる」といった形)で言語化するワークを行った。

## Step1 ブレーンストーミング (15min)

「あいうえお作文」で SLA の学習支援(の特徴)を表そう!

# Step2 学生フェーズ(約75min)

(意識的・無意識的に)思い描いている「学生像・学生の姿」を見える化しよう!

- 2-①個人作業:アイディアの拡散(10min)
- 2-②グループ作業:アイディアの拡散 (20min)
- 2-③グループ作業: アイディアの集約 (45min)

## Step3 SLA フェーズ (約 90min)

SLA としてできることを、理想と現実を踏ま えながら、最大限考え尽くそう!

## <図 5-5-1. ワークショップエ程>

そして Step3 では、Step2 で考えた「学生の姿を"生む"ために、あなたが SLA として最大限できることはなにか」を、理想と現実を踏まえながら考えるというワークを行った。

最後に、各グループ 10 分程度のプレゼンテーションを行い、アイディアを共有した。その際の資料は巻末資料 B に掲載している。

## (4) 成果と課題

夏期研修での学びの成果を纏めるものとして、参加 SLA は「アンケート 兼 振り返りシート」の作成を行った。質問項目は表 5-5-2 の通りである。アンケートでの総合企画評価は平均 82.9 点であった。

参加 SLA の声からは、学習支援・学生対応における具体的な気づき・学びを多く得ている様子が見られた。前期総括会での各部会の報告が具体的な対応知見に及んだこと、ワークショップでも"具体的な行動"に落として考えるということを志向したことなどの影響が窺える。加えて、そうした学びは、担当を異にする SLA から得られているケースも多く、他領域への理解促進や SLA 内の相互理解の促進に一定の成果があったといえよう。

傾向としては、第一に、夏期研修(従来は研修合宿)の学習志向がやや強まったことが挙げられる。個々人が学習支援者として学び考える姿勢は SLA の集団としての自律的成長を支える基盤でもあるため、一概に否定されるものではない。しかし SLA 制度の立ち上げ期から、夏期にまとまった時間を設定して実施する本研修は、理想や大局的ビジョンを描き共有することによって、SLA の活動全体の原動力(活動意欲の向上やチーム力の促進)を創り出す機能を果たしていた。これが組織や活動の安定や拡大により、徐々にその役割を変えつつあるように思われる。夏期研修単体での反省もさることながら、夏期研修の位置づけや SLA 育成に果たす機能とバランスを再検討することが重要な今後の課題である。

# <表 5-6-2. 夏期研修アンケート兼振り返りシート項目>

- 1. 各企画に対する評価
  - 企画ごとに対する評価を5段階で評価してください。またその理由について教えてください。
  - ①前期総括会 ②座談会 ③講義 ④ワーク
  - ⑤総合 総合企画評価 点(100点満点中・普通=50点)
  - ⑥研修に関して、要望や提案、その他コメントがあれば、自由にどうぞ!
- 2. 自分自身に対する評価・ふり返り
  - ①前期総括会のミニレポート 気づき・学びを3点挙げましょう。
  - ②研修中の活動等の中で、自分にとって難しかったことは何ですか?
  - ③研修での学びを通じて、今後課題・目標にしたいと思ったことがあれば記してください。(研修前から思っていたことでも構いませんが研修との関連性に触れてくれるとありがたいです。)
  - ④総合 総合自己評価 点(100点満点中・普通=50点) 研修全体をふり返って感想を記してください。自分自身の意味づけをしてみよう!



# シニア SLA の活動

シニア SLA とは、SLA 内の自律的成長を促進するため、主に後輩 SLA の育成や SLA 活動改善に 寄与する役割を担う先輩 SLA メンバーのことである。シニア SLA は経験年数で自動的に役割付与 されるものではなく、本人の希望とセンターの承認(簡単な認証試験を伴う)をもって任命する。

# (1) 概要と活動

2017 年度のシニア SLA は前期 5 名、後期 7 名の体制であった(一覧は p.26)。本年度は、①ミーティングの実施、②シニア SLA 間の情報共有、③シフト内における SLA 育成、とともに、『学習支援ハンドブック』作成作業を主な役割として活動を行った。

## ①ミーティングの実施

シニア SLA のミーティングを前期 2 回 (5 月 18 日、8 月 7 日)・後期 1 回 (11 月 8 日) 実施した。 ミーティングでは、各シニア SLA が日頃感じている課題点などが共有され、その改善策などが話し合われた。初回ミーティングでは、SLA に必要な支援スキルについての議論の中で、「質問しやすい雰囲気づくり」のような抽象的理解に止まりがちなため、それがどのような行動によって実現されているのかという行動レベルのコツにより意識を働かせることが、SLA としても、SLA を育てるシニア SLA のスキルとしても重要であるといったことが共有された。

# ②シニア SLA 間の情報共有

シニア SLA 間の情報共有媒体として活用している『申し送り書』の運用を見直すなどし、情報共有のあり方を改善していった。シニア SLA は SLA 内の情報共有の促進役(情報の媒介役)として機能する側面もあるため、その機能を高める改善であったといえる。

なお、①に記した「行動レベルのコツ」の共有も『申し送り書』を通して蓄積することも構想に上がったが、個々人の意欲に委ねる形となり、組織的な活動とはならなかった。

# ③シフト内における SLA 育成活動

積極的に他部会の SLA 同士のコミュニケーションを促進することや、ピアレビューを推進する動きなどが見られた。

## (2) 本年度成果と課題

シニア SLA は、『学習支援ハンドブック』プロジェクトや英会話支援における activity 整理、部会マネジメント等、知見化・概念化・情報整理のスキルを必要とする作業に銘々有効に力を発揮してくれた一年であった。これらの活動は、高年次学生・ベテラン SLA ならではのものであったといえる。

一方、今年度初回ミーティングにおいて、現状の課題点からシニア SLA の活動の方向性を共有したものの、それが具体的な活動となるまでに至らなかったことは課題の一つである。より活動の充実を図ったり、シニア SLA の協働性を高めたりするためには、ミーティングの回数を増やすことが理想ではある。

しかし、例えばミーティングについては、シニア SLA のような当事者意識の高いメンバーの議論からは活動改善のヒントを多く得られるため、本年度の開催回数であってもセンター員にとって有益な機会となる実感を得ることができた。また、シニア SLA の定着に伴い、通常勤務時の活動についても個々のシニアの判断に委ねられる側面も増えてきた印象である。本年度は、シニア SLA がチームとして同一の活動に従事するというよりは、ゆるやかな共通目標の下、個々人が自身の状況や特性に応じて各シフト・各部会・プロジェクトにおいて役割を発揮するという構造であったが、こうしたあり方も持続可能性という観点からは評価され得るかもしれない。

# 8 3 大学合同研修の実施

## (1) 概要

他大学との合同研修は 2013 年度から実施してきた取り組みである、本年度は、福島大学・北海道大学の 2 校と共同で開催した。3 校での開催は初の試みである。SLA の参加者は応募制とし、最終的に担当のバランスをみて調整を行った。合同研修開始当初はベテラン SLA の参加を促していたが、近年は「次年度中核メンバー」の参加を促している。

他大学合同研修の活動概要は次表の通りである。合同研修の趣旨は表内記載の通りであるが、より具体的な SLA 研修としての期待する成果としては、①【自己理解の深化】活動報告(アウトプット行為)によって自身の活動の自覚化・相対化を促進する機会を得る、②【具体的改善策の知見の獲得】他機関の活動を知ることを通して、自身の活動の固定概念を砕くとともに、マクロ・ミクロ多次元における活動改善のヒントや今後の新たな活動を考えるヒントを得る、③【モチベーション向上】実際に他大学で類似の目的の下で活動している「人(学生)」との出会い・交流を通して、活動への関心・意欲の向上につなげる、の3点が挙げられる。

# <表 5-8-1. 2017 年度他大学合同研修開催要項>

企画名	2017年度 3大学学習支援スタッフ合同研修会
企画運営	東北大学 学習支援センター
趣旨	大学生に対する学習支援を担うセンター間の交流と情報交換、そして研修の合同実施等を通して、相互の組織運営体制や学習支援事業改善につなげる。特に、学習支援スタッフとして活動している学生同士を交流させることにより、自らを客観的に見つめ、これまでの活動をふり返る機会や場としつつ、学習支援者としてのさらなる能力向上やスキルアップを図る。
場所	東北大学 川内キャンパス SLA ラウンジ
事前準備	【各大学】互いの大学に対する質問事項の共有 (メール)
日程	2018年3月5日(月)
参加者	■東北大学教職員:佐藤智子、足立佳菜、頼羿廷、鈴木真衣 SLA (スチューデント・ラーニング・アドバイザー): 8名 ・佐藤諒 理学研究科(物理) / D 1 / 物理担当(2013後期~) ・酒井祐輔 文学研究科(英文) / D 1 / 英会話担当(2015前期~) ・玉田優花子 文学研究科(仏文) / D 1 / ライティング担当(2016前期~) ・鈴木あすみ 文学研究科(言語) / M 2 / 企画担当(2016後期~) ・福地成彦 理学部(物理) / B 3 / 企画担当(2017前期~) ・名古屋雄大 理学部(物理) / B 3 / 物理担当(2017前期~) ・野本大作 理学部(物理) / B 3 / 物理担当(2017前期~) ・伊東邦大 理学研究科(数学) / D 1 / 数学担当(2017前期~) ・伊東邦大 理学研究科(数学) / D 1 / 数学担当(2017前期~) ■福島大学 総合教育研究センター 高等教育開発部門教職員:鈴木学学びのナビゲーター:4名 ■北海道大学 高等教育推進機構高等教育研修センター ラーニングサポート室教職員:城谷大 TA:4名
内容 ※時間は 計画時	13:00~13:30 開会にあたって・趣旨説明 ・自己紹介(簡単な【アイスブレイク】) 13:30~15:45 【各大学活動紹介】(30分×3大学) 16:00~17:30 【ワークショップ】 セクションA:学習相談系 セクションB:学習企画系 17:45~18:15 【全体共有】ふり返り 18:15~18:45 一言感想・コメントペーパー記入

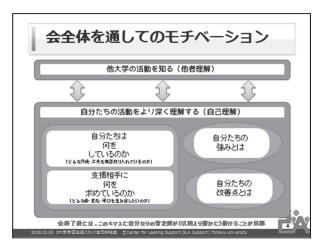
# (2) 実施内容

本会では、会全体を通してのモチベーショ ンを右図の通り設定し、参加者に対し会の開 始時に説明を行った。他大学と関わる場は、 単純には「他大学の活動を知る」場であるが、 これを通して「自分たちの活動をより深く理 解する(自己理解) | ことが最終的な目標であ る。その「自己理解」を深めるために、①支 援者である自身が行なっていること、②支援 対象に期待している姿、③自身の強み、④自 身の改善点の4つの視点を提示し、会の最後 にはこの4つの視点について、自分なりの考 えが言語化できることを達成目標とした。会 終了時には、この4つの視点を配したワーク シート (コメントペーパー) (図 5-8-1) を記入 してもらうことで、本会での学びを位置づけて もらった。

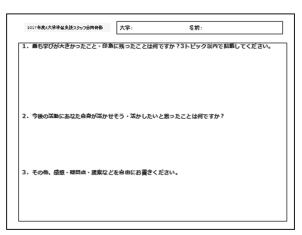
会の構成は、①各大学の活動紹介、②ワークショップの2部構成とした。この枠組み自体は 例年の活動と大きな変更はない。

ワークショップは、福島大学と北海道大学では活動内容が異なる事もあり、セクション A=理系支援を中心とする「学習相談系」、セクション B=学習イベントの企画等を中心とする「学習企画系」という2つのセクションに分割して実施した。なお、参加するセクションは、実際の自身の担当領域とは異なってもよいものとした。

「学習相談系」ワークでは、【3 校寄れば文殊の知恵!「壁」突破策を考案しよう!】と題し、各校の課題共有とその課題改善策を、各校共同チームで話し合い提案するというワークを行った。「学習企画系」ワークは【大学生の〇〇カ(能力・スキル)を育む・鍛えるような学習ゲーム(ワークショップ)を考えてみよう!】と題し、3 校共同チームで学習イベントを企画するワークであった。



< 図 5-8-1. 合同研修のモチベーション説明図>





<図 5-8-2. コメントペーパー>

## (3) 成果と課題

参加学生のコメントからは、自身の今後の活動に活かしたい事柄が多数挙げられており、本研修から具体的な実践に繋がる気づきや学びを得られた姿を見ることができた。

運営については、単純には、時間が足りなくなったことが反省点である。内容としては、各大学の 文脈が異なる中で背景理解に時間がかかり、意見交換や議論が建設的に進まない場面が見られたこ とが課題であった。事前情報の共有や勉強会の機会は持ったものの、直接意見交換できる機会を活 かすためにも、事前情報の内容の精査や当日の活動紹介の中の共通項目を設定するなど、工夫と改 善が必要である。

# 9 SLA 共通研修

「共通研修」とは、2015年度より開始した、担当科目の別を超えた SLA 全員が共通に必要となるスキルを獲得する研修の場のことである。

昨年度に続き、今年度も講師招聘型で実施した。参加形態については、基本を任意参加とし、第1回目については、【自由参加・レポートなし・給与なし】【研修参加・レポート提出・給与指定時間分】を参加するSLAが選択する形で運営した。

第2回目、第3回目については、CLS学びの転換セミナー (p.52参照) と合わせて実施し、2部構成とした同セミナーの後半をSLA共通研修とした。これらは自由参加のみの形態とした。

# <表 5-9-1. 2017 年度共通研修>

	日時	講師	内容	参加	旧者
	口时	神中		自由	研修
1	7月11日 18:15~19:15	今野文子 (高度教養教育・学生支援 機構 講師)	リフレクションの理論と実践	12名	6名
2	12月11日 18:15~19:45	西村高宏 (福井大学 准教授) 近田真美子 (福井医療大学 准教授)	ファシリテーション研修	12名	_
3	1月9日 18:15~19:45	江上昇、桂山智哉 (尼崎市役所 職員)	相手の心をつかむコミュニケ ーション研修	8名	_

(敬称略)



# SLA 共通研修「リフレクションの理論と実践」

東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師(当時) 今野 文子

## 1. はじめに

本稿では、2017 年 7 月 11 日に実施した SLA 共通研修「リフレクションの理論と実践」について報告する。本研修は、学習支援センターからの依頼を受け、学内で大学院生および新任教員向けにリフレクションに関するセミナーや講義を担当している講師によって実施された。SLA 向けには「近年、教育界では良い教師とは『反省的実践家』であるという理解が広まっています。つまり、教育実践において「反省(Reflection)」という行為が欠かせないという事です。リフレクションとは、自身が実施した問題解決の過程を対象として省察や分析を行い、以降の実践に有用な情報を得ようとする活動です。単に「あ~、失敗しちゃったな。嫌だな~」という感情のみに留まらず、その先に思考を進めるには、どのような方策やコツがあるのか、リフレクションに関する諸理論、モデルを紹介しつつインタラクティブに学びます。」という内容で案内がなされた。研修は質疑応答を含め1時間で実施され、なるべく参加者の傾向や意見を反映させるため、各参加者にクリッカーを配布し、ところどころでアンケートやクイズを出題しながら進められた。

#### 2. 研修の内容

## (1) 本研修の到達目標

本研修の到達目標は次の2点とし、これらの知識やスキルを今後のSLAとしての活動に活かしてもらうことを念頭に置きつつ、事例を交えながらインタラクティブに進めることに留意した。

- ① リフレクションに関する一般的な理論や概念について説明することができる
- ② リフレクションの意義を他者に説明することができる

# (2) リフレクションとは

リフレクションができるようになるためには、まず「リフレクションとは何をすることなのか」を参加者がそれぞれの文脈で理解することが必要である。そこで、経験学習や人材教育の文脈における定義も交えながら、次の内容を用いて解説を行った。

## 【リフレクションはどう説明されているか?】

- ●自分自身の考えや行動に関して、意図的に吟味するプロセス (認知科学辞典 2002)
- ●さまざまな経験を繰り返す過程で、その活動の論理を引き出す思考(教育心理学辞典 1996)
- ●自分の行動や思考を再検討し、それらを生み出した知識を再構成する活動(平嶋ら 2004)
- ●経験により引き起こされた気にかかる問題に対する内的な吟味および探究の過程。自己に対する意味づけを行ったり、意味を明らかにするものであり、結果として概念的な見方に対する変化をもたらす (Boyd and Fales 1983)
- ●特定の状況下で起こった出来事を説明するために一つの知識を適用したけれども、そのことを十分に 説明できないという現実の状況の中で生じた不快な感情や考えを認識することによってはじまる (Burns and Bulman 2000)
- ●日本語で「内省」の意。人材育成の分野におけるリフレクションとは、個人が日々の業務や現場からいったん離れて、自分の積んだ経験を「振り返る」こと(人事労務用語辞典)
- ●過去に起こった出来事の真意を探り、その経験における自分の在り方を見つめなおすことで、今後同じような状況に直面した時によりよく対処するための「知」を見出そうとする方法論(同上)
- ●Reflectiveness (ふり返りができること):価値観が多様化し、変化が激しい社会の中で、他者と関わり あいながら自主的に生き、学び続けるために必要な能力(OECD 2005)

## なぜリフレクションが必要か?

今後のキャリアにおけるすべての種類の状況に適応 できるような研修機会の提供は不可能

Harrington et al. (1996)

・自身の経験から学ぶ意志の強い姿勢を発達させる ・いわゆる「成長し続ける力」の必要性

リフレクションをする力

# Haan (1975) の指摘

あなたがしなければなけないことを知っている必要はない。 むしろ、毎回自分自身でしなければならないことを見つけな ければならないという事実を受け入れることを学ばなければ ならない。

リフレクションを通して自分たちの経験から学ぶ スキルを獲得したなら、いわゆる成長し続ける力 を持つことになる

<図 1. なぜリフレクションが必要か>

また、省察的実践家モデルの提唱者であるドナルド・ショーンを紹介し、建築デザイナーや精神療法家等の各種専門家の仕事ぶりを観察した結果、これらの仕事の特徴にリフレクションがあると発見されたこと(ショーン 2007、中原 2010)などについてふれた。

## (3) なぜリフレクションが必要か

なぜリフレクションが必要とされるのかについては、研究者らの指摘(Harrington et al. 1996、Haan 1975)を引用して解説した。実際に使用したスライド資料を抜粋して図 1 に示す。また、リフレクションが成長にとって重要である理由については「①ふり返りによって、経験から多くの教訓を引き出すことができる、②行為の中でふり返ることにより、仕事を通して学んだことや得た教訓を頭の中で整理し、意義づけることができる」(松尾 2011)を挙げた。加えて、リフレクションにはReflection-in-action と Refection-on-action があり、活動の最中のリフレクションが活動後のリフレクションの質を左右すること(松尾 2011)を説明した。

# (4) リフレクションに関するモデル

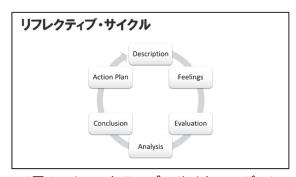
日々の SLA としての実践の中にリフレクションを位置付けて考えるためには、Kolb (1984) らにより提唱されている経験学習モデル (図 2) が役立つと考えられる。モデル中の「具体的経験」とは日々の仕事の中の具体的な経験、「内省的観察」とはそれらの経験を様々な角度から吟味すること、「抽象的概念」は今後に生かせるようにエッセンスを抽出すること、「能動的実験」は得られた仮説や理論を実際に当てはめてみることを意味する。この実践はまた具体的経験となり、これらのサイクルがまわっていくことがイメージされている。日々の実践を「ただやったまま」に終わらせるのではなく、それをつぶさに観察してふり返り、そこから次に生かせる教訓を引き出すことが重要であること、またその際には、ふり返りの内容を他者と語り合ったり、文字に書き起こしたりするなどの「言語化」が効果的であることを強調して解説を行った。

また、これに加えて、リフレクションに関するモデルとして、Gibbs (1998) によるリフレクティブ・サイクルモデル (図 3)、Lin ら (1999) によるリフレクションの分類カテゴリ (図 4)、Moon (2004) によるリフレクションのレベルをそれぞれ紹介し、自身のリフレクションのプロセス、レベル、および質を客観的な視点で評価するための枠組みを提供した。Gibbs のモデルでは、リフレク

ションの出発点は経験したことや思考の内容のDescription(描写)であるが、この言語化が大切であり、第三者にもわかるよう言葉にすることによって、自分で自分の経験をとらえなおすことが可能になることを強調した。また、その次のプロセスはFeeling(感情)であり、「なんかうまくいかない、しっくりこない、違和感がある、気に入らない、満足できない…」といったもやもやした感情に丁寧に向き合っていくことが、良質のリフレクションの出発地点になることについて具体例を交えながら解説した。



<図 2. 経験学習モデル(Kolb 1984 をもとに作成)>



<図 3. リフレクティブ・サイクルモデル> (Gibbs 1998 をもとに作成)

# リフレクションの内容 ◆Lin et al (1999) に基づく分類カテゴリ 確認 単なる事象の確認、実施したことの記述、描写 評価 上記についての善し悪し等に関する言及 改善 次回、今後どうするかについての案に関する記述 比較 他のケースや事象との比較の視点を含む記述

<図 4. リフレクションの内容 (Linら 1999) >

# 3. 研修参加者からのフィードバック

本研修の参加者 18 名から研修に対するコメントペーパーが寄せられた。以下にその内容を示す。

## (1) 本研修に対する感想

研修に対する感想としては、「普段自分がどれだけリフレクションにつながる機会を逃していたの か気づいた」「全体ミーティングやイベントの反省会などで『ふり返り』を行ってきましたが自分の 中でリフレクションの意識に欠けていることに気が付いた」のように、普段の実践の中にリフレシ ョンの機会が豊富に含まれていたことへの気づきを得ていた。一方、「普段の SLA で Reflection-inaction を確かにやっているなぁと思った」「確認、評価、改善、比較のサイクルはそれぞれ SLA のカ ルテ記入、部会等で自然と行っていた」など、日々の SLA としての活動の中で実際に自分がリフレ クションを行っていることに改めて気付いた参加者もいた。また、「対応しているときに学生にリフ レクションさせることができると学生がよく成長できると思った」「自分がリフレクションするだけ でなく、他人=対応する学生さんにもリフレクションさせたい」など、自身のリフレクションだけ ではなく、SLA として対応する学習者のリフレクションを促す役目にも意識が及んでいる参加者も 見受けられた。リフレクションという活動については、「『他人に言われて改善する』との『自分で気 づいて改善する』のではだいぶ違う」「『Reflection-in-action』が大切という発言を聞いて、Reflection できる人は思考がめぐるが、Reflection できない人は思考停止していそう」「リフレクションと反省 は同義だと思っていたけど反省をふまえて次につなげるまでを含めたものがリフレクションなのだ と再定義することができた」など、理論やモデルをもとに自分の言葉でリフレクションの意義をま とめている様子がみられた。

## (2) 本研修に対する疑問

研修に対する疑問や意見としては、「今回は教育者のリフレクションが主だったが、学習者にもリフレクションを促した方がよいのか?」「次に同じことを繰り返すことにリフレクションが有意義だとは思うが、毎日新しいことをやるにはリフレクションは有意義なのか?」「抽象的なモデル論や定義論が多く、地に足がついていないように感じた。もう少し具体的なメソッドを知りたかった」といったコメントが寄せられた。学習者のリフレクションを促す視点を得ることや、リフレクションの結果に基づく新たな課題への対峙の姿勢については、直接的ではないものの、研修中に参加者に気づきを得てもらえるよう意識した点ではあったが、必ずしもすべての参加者に共有されるには至らなかったことがわかった。

## (3) あなたの思う"リフレクション"とは?

「今日の話を通じて解釈した、あなたの思う"リフレクション"とは?」という問いについて、寄せられた言葉を以下に示す。参加者がそれぞれの言葉でリフレクションを表現している。

- ●考えるのをやめないこと
- ●自分を離れて、自分を見ること
- ●次のための知恵を自分で身につける⇔授かる
- Feeling をつかまえて、Reflection にするのが大切

- ●自分で気づくということ、そして言語化するということ
- ●自分で自分の行動を理解して知見として実行可能なものに落とし込むこと
- ●今までの経験を反省するだけではなく、そこから何かを抽出し、次に生かすこと
- ●自らの試行や言動を俯瞰的に捉え、今後の教訓となるよう言語化すること
- ●何かを経験したあとのあの"モヤッ"とした感じを、そこで終わらせずに言語化して次につなげる
- ●その都度得られた経験や省察内容を言語化することによって、次の対応の授業といった実践の機会に つながるような知見を得られるよう、自らの振る舞いに対して意識的・自覚的であること

## 4. おわりに

本稿では、SLA 共通研修「リフレクションの理論と実践」について報告した。1時間という限られた時間での実践ではあったが、参加者から寄せられたコメントからは、リフレクションとは何をすることなのかを自分の言葉で理解し、その意義についてそれぞれが表現できていることがわかった。この研修を受けたSLAが、これらの知識を今後の活動に活かし、学習者とともに良質の経験が積み重ねられていくことが期待される。

## 参考文献

- Boyd, E. M. and Fales, A. W. (1983) "Reflective Learning: Key to Learning from Experience," *Journal of Humanistic Psychology*, 23(2): 99-117.
- Burns, S. and Bulman, C. (2000) *Reflective Practice in Nursing: The Growth of the Professional Practitioner*. 2nd Edition, Blackwell, Oxford.
- · Gibbs, G. (1998) Learning by doing: A guide to teaching and learning, London: FEU
- Haan, P. H. (1975) "Supervision as a learning aid in the education of supervisors," *Supervision 1: Theory and concepts*, 249-275, The Netherlands: Samsom.
- Harrington, H. L., Quinn-Leering, K., and Hodson, L. (1996) "Written case analysis and critical reflection," *Teaching and Teacher Education*, 12(1), 25-37.
- ・ 平嶋宗 (2004)「誤りへの気づき」を与えるインタラクションを目指して、ヒューマンインタフェース学会誌、6(2): 31-34.
- Kolb, D. (1984) Experiential learning as the science of learning and development, Englewood Cliffs, NJ: Prentice Hall.
- Lin, X, et al. (1999) "Designing technology to support reflection," ETR&D, 47(3):43-62.
- ・ 松尾睦 (2011)『「経験学習」入門』ダイヤモンド社.
- ・ 中原淳 (2010) 『職場学習論:仕事の学びを科学する』、東京大学出版会.
- ・ 日本の人事部『人事労務用語辞典』、https://jinjibu.jp/keyword/ (2018.6.7.確認)
- 日本認知科学会編(2002)『認知科学辞典』、共立出版.
- Moom, A. J. A. (2004) Handbook of Reflective and Experiential Learning: Theory and Practice, Routledge-Falmer: London.
- Organization for Economic Cooperation & Development (OECD) (2005) The Definition and Selection of Key Competencies: Executive Summary. http://www.oecd.org/dataoecd/47/61/35070367.pdf (2018.6.7.確認)
- ・ドナルド・A・ショーン (2007) 『省察的実践とは何か―プロフェッショナルの行為と思考』、鳳書
- ・ 辰野千寿ら編(1996)『教育心理学辞典』、教育出版.

# 振り返りシートおよび個別ヒアリング

SLA には、自身の活動を振り返り、次の改善につなげてもらうために、毎セメスター末に振り返りシートを作成してもらっている。この振り返りシートをもとに、年度末には当該セメスターの新規メンバーを中心とした 1 人 30 分の個別ヒアリングの時間を設けている。ヒアリングの主目的は次期セメスターの目標を立て、これをセンター・SLA 双方で共有することである。

以下、本年度実施した振り返りシートの項目を参考資料として掲載する。

#### <表 5-10-1. 振り返りシートの質問項目(理系、英会話、ライティング向け)>

- 【1】基本事項チェック(5段階評価)
- (1) 対応開始時にコンサルを確保し、学生のニーズ・状況を把握や、対応の目標を共有することができた
- (2) 質問しやすい・居やすい・また来たいと思えるような場づくりができた
- (3) 対応学生自身の成長を促す工夫ができた
- (4) 時間を意識して対応することができた(学生さんの予定、待ち札等)
- (5) "先輩の良さ"を活かした対応を心がけることができた
- (6) 5分前出勤を厳守できた

10

- (7) 勤務時間が延びそうな場合はセンター員に相談した
- (8) 勤務中、身の回りの整理整頓を意識することができた
- (9) エチケット(身だしなみ、マナー等)を意識できた
- (10) 勤務がなかった日のカルテ (活動記録) や業務日誌等をチェックし状況把握に努めた
- (11) 未対応時も積極的にやることを探して活動できた
- (12) センターの発行物(掲示物等)を把握するようにした
- (13) SLA の他の窓口・利用方法やイベント等の案内を学生に積極的に案内し、さらなる学び・さらなる SLA 活用へのチャンネルを広げてあげることができた
- (14) センターへの「ホウレンソウ」をしっかり実行できた
- (15) 自分以外の SLA の対応も意識しながら勤務することができた(ピアレビュー含む)
- (16) 他の SLA にもわかりやすい活動記録 (カルテ) を書くことができた ※対応時間いっぱいでカルテが記入できなかったときは除外して考えてください
- (17) ブリーフミーティング等、シフト内の学び合いに貢献することができた
- (18) 部会活動等を通して、同科目メンバー間の学び合いに貢献することができた
- (19) 他の SLA と積極的にコミュニケーションをとることができた
- (20) 新規 SLA: 積極的にわからないことを他の SLA に質問した 新規以外の SLA: 積極的に新規 SLA のフォローや指導を行った

#### 【2】記述式

- (1) あなたの SLA の活動に対する現在のモチベーション (ニーズ) は何ですか?上位3つを回答し、可能な人は、その割合を示してください。【ニーズ・モチベーション】
- (2) 学生対応において、あなたが工夫していること、意識していることを教えてください。【工夫・意識】
- (3) 今期の活動全体を通じて、身についた・成長したと思う点を挙げてください。【成長】
- (4) SLA の活動における現在の課題点・反省点、もっとこういうことを学びたいと思った点を教えてください。【課題】
- (5) あなたの来期の活動目標を教えてください。【目標】
- (6) 今期の活動の中で、「いいな」と思った他の SLA の対応や言動等はありましたか?あれば、誰の

どんな振る舞いか、教えてください。【他己評価】

- (7) センターへの要望や提案、活動全般に関する課題点について、あなたが感じたことを自由に書いてください。【要望】
- (8)総合して、あなたの今期の活動の満足度(100点満点)とその理由を教えてください。【満足度】

#### 【3】ミニレポート

今期の自身の活動を振り返り、印象に残ったことなどを中心に、思ったこと・感じたこと・考えたことを自由に記述してください。(箇条書きではなく文章化しましょう)

#### <表 5-10-2. 振り返りシートの質問項目(企画向け)>

- 1. 今期の活動で、自分が成長した、学んだと思う点を教えてください。
- 2. 今期の活動で、自分がもっとこういうことを学びたい、こういうスキルを習得したいと思った点を教えてください。
- 3. 企画 SLA 全体の課題についてあなたが感じたこと、考えたことを自由に書いてください。
- 4. あなたにとって、企画 SLA の活動をしたいと思えるモチベーションは何でしたか? (=あなたにとっての SLA 活動とは何か?活動する中で、何を得たいのか?等) 上位3つを教えてください。 可能であれば、それぞれがモチベーション全体に占める割合を示してください。



- 5. 学習支援センターに対する要望や、運営や活動に関する新たな提案があれば、なるべく具体的に書いてください。
- 6. あなたの今期の活動の総合評価は、何点ですか? 点数とその理由を教えてください。 総合評価 00 点 /100 点満点

理由

メッセージ: 今期の自分の活動をふり返り、来期の自分に対して、あるいはこれから企画 SLA として活動する仲間や後輩に対して、伝えておきたいことを自由に書いてください。特に、今後の活動において参考になる情報や意識しておくべき注意点などについても触れてもらえるとありがたいです。

# 6. SLA による活動振り返りレポート



#### SLA でともそだちをするということ

理学研究科物理学専攻 博士課程前期 2 年 SLA 物理担当 澁川 友菜

#### 1. SLA に加入する経緯

私は学部4年生の6月から大学院修了までSLAの物理部会として勤めた。きっかけは一緒にゼミをしていた友人から誘われたことである。その友人はきっと、私の研究分野が当時のSLA達と被っていなかったことなどを踏まえて、いろんなタイプの人がいた方が良いだろうと声をかけてくれたのだと思うが、私にとっては予想もしていない出来事だった。というのも、私は親が「自分で考えなさい」という方針だったことや、高校時代に理系の女子生徒が少なかったことから、友人と勉強したり塾のような環境で勉強した経験がほとんど無かったためである。大学に入ってやっと友人同士で質問・議論する環境に出会えたが、それでも学部生に教えられる自信がなく進められても応募を迷っていた。しかし友人の「SLAは答えを教えるところじゃないよ。わからない時だってあるし、一緒に考えていくんだよ。」という言葉を聞き、それならば挑戦したいと思い門を叩いたのである。周りのSLAは優秀な人が多く教えることにも慣れている様子だったが、そうではない自分だからこそ意識してきたであろうことについて述べたい。

#### 2. SLA としての姿勢

#### (1) 学生のわからなさを理解する

SLA はともそだちという理念を掲げており、質問に来る学生だけが学ぶのではなく、質問に答え る SLA もまた学ぶことができる。SLA として常々感じていたのは、学生が伝えてくる「わからなさ」 を理解することは難しいということである。そもそも知識が足りていないのか、問題文の読解に慣 れていないのかが掴めなかったり、学生が「何がわからないのかわからない」と訴えてくることも あった。また物理部会では自分たちの「当たり前」が学生には通じなかったということがしばしば 議題として挙げられた。この現象について多くの方々と意見を交換し合ったとき、当然のことでは あるが自分とは違う捉え方をする人もいた。例えば「学生のわからなさ」を SLA が理解できないこ とに対して、学生と SLA に優劣を付けたような考え方を聞いたときや、学生が SLA の「当たり前」 を理解できないことに対して学生の基本的な日本語力が不足しているという指摘を聞いたときには 驚いたとともに、不安な気持ちになった。その理由は、私は「自分が特に疑問を持たずにわかったつ もりになった部分を、この学生はきちんと理解しようとしていて立派だな。」と思ったり、「今自分 にとって『当たり前』になっていることも、当時は初めて出会って戸惑う概念だったな。」と共感し ていたからである。断っておくが、捉え方に正解というものはなく多様であっていいと思う。だが、 自分のような捉え方があることも伝えたいと思い積極的に多くの SLA と話すようにした。初めは自 分と学生が重なり、学生の代弁をしている気持ちもあったが、他の SLA の意見や体験から他の考え 方を知ることができたり、学生の頭の中を整理してあげる方法を学べるなど、実際の対応で役立つ 知見を得ることもできた。わからなさを理解して整理することだけでも、学生にとっては学びを進める大事なステップだということも身をもって知ることができた。

#### (2) 学生に期待する

私が SLA の活動で学生に期待することを意識し続けていた。それは学生に期待することは学生の成長を願うことであり「教育」に含まれると考えているからである。学部 1,2 年生のうち講義に付いていけずモチベーションが下がっている学生は少なくないが、そんな学生たちも受験勉強を乗り越えた実力があるはずで、「できない」と思ってしまうのは勿体ないことだと思った。そこで、大学に入学したての時は誰でも躓くなどと伝えて安心してもらった上で、例えば対応中にある程度の段階で「あとは〇〇さんなら解けると思うから頑張って。」と促すことをしていた。最後まで教えるのではなく敢えて期待していることを伝えて止めるようにしていた。ここで大事なのはコミュニケーションであり、相手に期待している、つまり成長を願っていることを伝えることである。SLAでコンサルや雑談の重要性が説かれているが、このとき学生の勉強や部活動などの最近の様子や進路の話を聞き、学生のことをより知ることで信頼関係を築くことも大事である。実体験としては、基本的な問題で躓いていた学部1年生が、「すごいペースでレベルアップしてるね。」「〇〇さんならきっとできるよ。」と伝えていた結果、1年後にまた対応した時には以前よりずっと実力が上がっていて、楽しそうに自分の考えを話してくれるのを目の当たりにしたことがある。その学生の努力があったからこそであるが、学生のモチベーションを上げるためにも期待していることをどんどん伝えていくことは意義のあることだと思っている。

#### 3. さいごに

教えることで自分も成長できる、と分かった上で SLA になったというつもりでいたが、その意味の深さを最近やっと理解できたと感じている。しばらくは学習支援者として「自分が」理解できるかや上手く教えられるかばかりを気にして、「学生の」学びに貢献できたかどうかを意識できていなかった。合宿などの勉強会、他の SLA との議論を通してようやく「学生主体」が分かってきたと思う。また、周りの SLA にはいつも非常に助けていただき、いつも対応など学ぶことが多かった。しかし心残りとしては SLA 同士のともそだちをとしてお互い「辛口」で指摘し合えば更に良いのではないかと今になって思う。今後の SLA の皆様に期待をしたい。

最後になりましたが、サポート室の皆様、SLA の皆様には大変お世話になりました。非常に濃く学ぶことの多い3年間でした。ありがとうございました。

#### SLA の立場を考える

文学研究科文化科学専攻博士後期課程 3 年 SLA ライティング担当 祝 釗

#### 1. はじめに

SLA とは英語の student learning adviser のことであり、訳すると、学生の学習に助言する者ということである。私は 2015 年の後期から、SLA ライティング担当になり、二年半の間、日本人学部生のレポートに対して、表現や構成等の面から助言してきた。また、去年から、外国人留学生のレポートや他の日本語文章に対して、日本語の文法と表現などの面から助言してきた。二年半、実践して振り返り、学生の学習に助言する者は果たしてどの立場にいて活動すべきかという疑問に関して、少し考えを述べたい。

#### 2. 私の SLA 活動を振り返る

#### (1) 先輩でありながらアドバイザーである

私が SLA として活動し始めた頃に、SLA には、先輩として後輩の学生の学習をサポートする役割があると言われていた。その時、この役割に関して、私は先輩の知見を活かして後輩を指導するというふうに解釈した。ライティングの対応中に、この解釈に沿って文章の中にあるおかしいミスを全部指摘し、特に文章の構成の面から、容赦なく利用学生にだめだししていた。普段、哲学を研究している博士後期学生として、文章の論理上の過ちを決して見逃してはならないため、SLA の活動中にもこうした姿勢を徹底した。しかし、私のこうした姿勢はあえて SLA に来る利用学生の負担になったということは後に自覚した。

おそらく、一年生から見れば、SLA のライティング支援は書き終わったレポートについて表現や書式などの問題を指摘し、いわゆる最終チェックのようなことである。ところが、いきなり文章の内容や構成等に関して指摘され、書き直すと言われると、戸惑うしかない。また、期末という多くのレポートを書かなければならない時期で一篇のレポートを書き直す余裕もない。

そこで、SLA としては、私の最初のように、指導先生や研究室の先輩のような指導者の立場にいて、問題点を厳しく指摘するのではなく、まず学生の状況を聞き取り、特に今抱えているレポートの数や、締め切りの時期などの情報を把握し、その上で学生ができる範囲でのアドバイスを提供するのは SLA がやるべきことではないかと今は思う。こうしてこそ、学生の学習に対するアドバイザーであり、言い換えると、助言をする者である。

#### (2) 教える者でありながら、教えてもらう者である

私の SLA 活動を振り返ると、もう一つの変化があった。初期の頃、利用学生に対応するときに、ほぼ半分以上の時間で私が話していた。その内容は主に利用学生のレポートを読んで発見した過ち、及びそれを修正する方法である。ただ、こうした話はあくまでも私の経験と知見によって考え出した修正案であり、それは利用学生にとって理解できるものなのか、そもそも納得できるものなのかという疑問を、後ほど私は気付いた。このように、SLA は利用学生に対して、知見や経験によって自ら教える場合、その教えが果たして利用学生が求めているものなのか。そもそも、授業で理解できなかったことを SLA に助けを求めてきたため、SLA が授業と同じ方式で教え込んでも学生は満足できるわけがないと考える。

そこで、SLA は利用学生に教えてもらうべきだ、と私は今考えている。いわゆる SLA の対応中によく重要視されているコンサルということである。まず、SLA に助けを求めて来る利用学生は聞きたいことや不安を感じていることを持っているに違いない。SLA として、利用学生に SLA の知見に基づいて教えようとする前に、まず、利用学生のそれらを引き出す必要がある。次に、利用学生の疑問を解消するためには、SLA の知見を活かすだけではなく、利用学生の知識をも利用する必要があ

る。言い換えると、利用学生自身の知識を引き出して、それを学生の疑問を解消ために活用するのは最も理想だと思う。そのために、SLA は教える者だけではなく、教えてもらう者にもなり、利用学生のポテンシャルを引き出す役割を全う立場にいなければならないと考える。

#### 3. 私から見た SLA の課題

#### (1) アドバイザーでありながら、先輩でもある

上に述べたように、SLA はアドバイザーという立場にいて、利用学生の状況を考慮して助言する者である。ただし、こうした心構えで実践する際に、場合によって、過剰に利用学生の視点に立って学生の質問について考える場合があり、それはあえて学生の問題の真の所在を見逃したケースになることがある。当然、学生の状況を考慮し、学生ができる範囲でのアドバイスをするのは最も重要なことではあるが、一方、学生より一歩の先にいる先輩として、私たち SLA は常に利用学生がまだ見えていない問題の真の所在を発見し、さらに先輩の経験や知見を活かして、利用学生にもそれを意識させる努力をしなければならない。利用学生の知見を尊重し、守ろうとするのは間違いないが、過剰にそれを意識すると、先輩としての立場をあえて忘れてしまうことになる。SLA としては、アドバイザーでありながら、常に利用学生の一歩の先にいる先輩という立場にもいる必要があると考えている。

#### (2) 対応する者でありながら、企画者でもある

去年、SLA には企画 SLA が誕生した。それまでに、ライティングの SLA は一年生向けにセミナーなどを行ってきたが、なかなか参加者がいなかった。私たちはセミナーの内容や宣伝の方式などの面から反省し、自分たちの企画力の不足を認識した。去年から、新しい企画 SLA の活躍を見て、特に行っている様々なイベントに参加者がますます増え、イベント自体が盛り上がっていることを目にしていた。そこで、次のことを感じた。即ち、主に学生対応をしている私たち SLA も常に対応中に得た知見や経験及び問題点などをまとめて、それらを活用して新たに何かの企画を考えるべきだということである。あるいは、企画自体を考える余裕がなくても、企画 SLA と連携し、イベントのネタを提供するのも、普段の仕事から得た収穫を最大限に活用する方法だと思う。SLA 自体が一人一人の利用学生のために活躍する者から、それだけではなく、大勢の学生たちに学習の支援を提供できる者までに成長することをこれからの SLA に希求する。

#### 4. 展望

2015年の時に、私が理解した SLA の使命は多忙な指導教官の代わりに学生の学習を指導する者であった。それと比べて、今私が理解している SLA の使命は大きく変わった。SLA とは、勉強について後輩学生たちの面倒を見る者である。これから、「大学の勉強が楽しい」、「自ら新しいことを発見してみたい」、「期末テストやレポートは全然苦ではない」などと利用学生に思わせるように、SLA はその案内人になればいいなと思う。

# ■資料 A 利用学生アンケート(コメント有・全データ)

# 理系

解	満	点	コメント	
決	足	数		
0	0	100	疑問点を伝えたらすぐに考えてくれて分かりやすかった。聞い ているだけでなく、考えるじかんもくれたので理解が深まった。	
0	0	100	ありがとうございました	
0	0	100	初めて利用させてもらいましたが、とても優しく教えていただき 嬉しかったです。	
0	0	100	とてもわかりやすかったです!何かわからないことがあれば来 たいと思いますので、よろしくお願いします。	
0	0	100	テイラー展開のところの予習をしました。自分だけでは難しい と思っていましたが、教えていただいてわかるようになりました。 とてもわかりやすかったです。	
0	0	100	テイラーの原理をかみくだいて教えてもらえて、分かりやすかっ たです。ありがとうございました。	
0	0	90	質問内容だけでなく、勉強の仕方についてもアドバイスして いただいたので参考になりました	
0	0	100	上極限、下極限の定義がよくわかり、とても安心しました! 来て良かったです!	
0	0	100	専門外の分野にもきちんと答えて頂けたのでとても嬉しかったです。	
0	0	100	今日もありがとうございます。ヒントをもらって自分で理解でき るようにしてくださるのがうれしいです	
0	0	100	分からなくて困っていた問題を解決してくれました!感謝です!!	
0	0	100	親切に教えてくれて分かりやすかった	
×	0	60	まあまあ。	
0	0	100	無事に解決できました!	
0	0	100	化学の内容なのに物理の方々が丁寧に教えてくださり嬉し かったです。	
0	0	100	手順をふんでテキパキと対応してくださったので、すぐに解決 できました。ありがとうございます。またよろしくお願いいたしま す。	
0	0	90	問題の解釈がよく分かりました。	
0	0	100	わからない課題があったが、何度も丁寧に教えて下さって、 解決しました。	
0	0	100	長い時間対応していただきありがとうございました。	
		80	合っててよかった	
0	0	100	とても分かりやすく、ていねいに教えていただきました。	
0	0	100	わからなかったところが全て解決してうれしかったです。ありがと うございました。	
0	0	95	一緒に考えてくれて、自分の考えがまとまりました。	
0	0	90	ε-δ論法の内容がよく分かりました。	
0	0	100	また行きます	
0	0	90	詰まったところを丁寧に洗い出して教えてもらえておてもわかりやすかったです。色々なアドバイスももらえて助かりました。	

0	0	100	基本からとてもわかりやすく教えてくれた。
0	0	100	全くわからなかった内容が理解できそうなところまで納得でき
			たと思います。家で復習して完全なものにしたいです。
0	0	100	ε-δ論法など、授業で理解できなかったことが理解できた。ありがとうございました
			一方的に語ってくるのではなく、自分が考えたことを言ってそら
0	0	100	からゴールに導いてくれたのがよかった
			丁寧にありがとうございました。じっくり見てもらえてよかったで
0	0		す。
$\triangle$	0	80	SLA を今後も使いたいなと思いました
0	0	100	勘違いしていた部分に気付けてよかったです。復習して定着
		100	させていきたいです。
0	0	100	用語の説明までしてくださって、根本的な部分まで理解する
-			ことができてよかった。
0	0	100	授業のときおいていかれた感があり焦っていたけど、ここにきた ことで何を先生がやっていたかが理解できました。ありがとうご
		100	さいました!!
0		95	ありがとうございました
			久々にきたが、昔と同じようにわかりやすく解決してくださり助
0	0	100	かりました。
×	0	80	ありがとうございました。
0	0	100	助かったー
0	0	100	ゆっくり自分で考えるのを見守ってもらえたのがよかった
0	0	90	ご協力いただきありがとうございました。 こんごともよろしく願い します
0	0	100	数学の課題が無事できそうです
0	0	90	勉強で困った時に頼れる人がいて安心しています。
	_		1年でそもそも何を学ぶことが目的の教科ということまで教え
0	0	100	てくれて、勉強の方針を立てることができた。
Δ	0	100	お世話になりました。これからも精進します。
			大学1年生で学ぶ事から、どのような学問に発展していくか
0	0	100	であったり、発展的な考察を教えてくれるのでいつもの SLA
			さんに聞きに行くのが楽しみです!!
Δ	0	80	もう一度取り組んでレポート書けるように頑張ります!
0	0	100	わからなかった微分方程式が分かってよかったです。
0	0	100	とてもわかりやすく丁寧に教えて頂けました。
0	0	100	丁寧でよかったです。問題も解決しました。ありがとうございました。
0	0	80	山崎先生もっとやさしい問題出してください。
			わからない問題を一緒に考えてくれて良かったです。解決で
0	0	80	きました。時間も気遣ってくれ、優しかったです。話していると
			だんだん気づくこともありますよね。
			さすがに自力ですべての問題をとくのに限界を感じたので利
0	0	100	用しました。ただ単純に問題を解くだけでなく、「何をやってい
			るのか」「どういう目的でこんなことをやっているのか」というのも

			分かったので、とても有意義でした。 今後も SLA を利用した	
			いと思います。	
0	0	100	解決しました。ありがとうございました。	
0	0		テスト頑張る!	
0	0	100	時間がない中丁寧に教えて頂いてありがとうございました。	
			問題の意図、どのような方針が考え得るのかという点が参考	
$\triangle$	0	85	になりました。今後もわかりにくい問題に直面した際はよろしく	
			お願いします。	
0		100	めっちゃわかりやすかった(こなみ)	
0	0	100	助かった	
0	0	120	テストへ自信が付いた。いける気がしてきた。ありがとうござい	
	0	120	ました。テスト頑張ります。	
0	0	100	具体的な例で解説してくれて分かりやすかった。	
0	0	100	分かりやすく教えて頂いてありがとうございました!理解できま	
		100	<b>した!!</b>	
0	0	100	解決しました ありがとうございました。	
0	0	90	複雑な問題でしたが答えにたどりつけました!	
		400	レポートの指針が立ち、なたガウスの法則についての理解が	
0	0	100	深まりました。	
0	0	90	自分では気づかなかったミスを指摘してくれてよかった。	
0	0	100	とても分かりやすく教えていただきました	
0	0	90	分からない問題を解決できてよかったです	
			なぜそれが正しいのかがわかりました。しかし、なぜ自分の考	
0	0	100	えが誤りなのかはわかりませんでした。	
		400	問題もわかりましたが、院や博士課程の話を聞くことができて	
0	0	100	よかったです。	
0	0	100	理解が怪しかったところ、数式の扱い方から問題と関連して	
		100	いろいろなことをアドバイス、教えてくださいました。	
0	0	100	数理統計学がわからなくて明確な解き方も分かりませんでし	
	_	100	たが、ものすごく納得できました。	
0	0	100	わからないところを詳しく何度も説明してくださった。	
×	0	100	問題が難しく解決することはできませんでしたが、とても丁寧 に対応してくださり嬉しかったです。	
			抵抗力が働くときの物体の運動の様子を勘違いしていたこと	
0	0	100	に気付けてとてもよかったです。ありがとうございました!	
0	0	100	とてもわかりやすかった。ありがとうございました。	
0	0		2 回目もしっかり対応していただき、すごく助かりました。	
			答えを「教える」というスタイルではなく、自分で考えさせるよう	
0	0	80	合えて「教える」という人ダイルとはなく、日ガモ考えさせるように指導してくださってよかった。	
		465	自分でゆっくりと考えさせてくれたのがよかった。4 問も付き合	
0	0	100	ってくれてありがとうございました。	
×	0	70	工学部の専門であったので明解には解決しなかったが、別の	
		, 0	視点から問題をみることができたのでよかったです。	
			線積分とか全くちんぷんかんぷんだったところを丁寧に教えて	
0	0	100	いただき助かりました。式の表し方とか初歩的なところも教え	
		100	ていただき勉強が進みそうです。ありがとうございました。	
0	0	100	ありがとうございました。	
0	0	100	いつもわかりやすく説明していただいて、ありがとうございます!!!	
0	0	90	9:::: 非常に分かりやすかった。(原理まで説明してくれたので)	
		90	線形の授業で分からなかったところが解決できてよかったで	
0	0	100	球形の技業でガからなかつだところが解決できてよかつにで す。テスト頑張ります!	

_			
			線形数学の基本変形について詳しく聞けて、問題が解決し
0	0	100	ました。加えて、線形代数学を含め、数学がいかに必須な
			のか力説してくれたので、面白かったです。
		200	混んでいて忙しそう中、丁寧に対応してくださりありがとうござ   いました。また利用すると思いますが、その際はよろしくお願い
		200	します。
0	0	100	良い時間をありがとうございます。
0	0	90	分かりやすかったです。
0	0	100	長い時間対応してくださり、またヒントを下さり助かりました。
			とても丁寧に教えてくれて本当に助かる。
0	0	100	授業よりかなり分かりやすかったです。ありがとうございました。
			基本が分からなすぎて友達にもきけずにいたので、今日解決
0	0	100	できてよかったです!ティラー展開のきれいな式まで教えても
			らえてよかったです。またよろしくお願いします。とてもわかりや   すかったです。
	0		分かりやすかったです。
	0	100	
_	_	100	ありがとうございました
0	0	120	エモい。ありがとうございました。
0	0	100	いつも、基本の分からないところから教えていただきありがとう ございます。とても分かりやすかったです。
0	0	100	とてもわかりやすかった。また来ようと思う。
0	0	100	分かりやすく説明していただいてありがとうございました!
0	0	100	やさしく、分かりやすくてよかったです!
0	0	80	難しかったです
		80	数学の問題で解けないところがあったのですが、納得すること
0	0	100	ができました。よかったです
0	0	101	数式をイメージで教えていただき、分かりやすかったです。
0	0	100	ゆっくり丁寧で分かりやすかったです
0	0	100	計算過程を順を追って説明してくださいました。解答の確認
			ができ、よかったです。
0	0	100	計算ミスに気付くポイントまで教えてくださってありがたかったです。ありがとうございました。
0	0	90	今日もていねいで、良かったです。ありがとうございました!
0	0	120	
			解き方をあくまで誘導するという形で教えてくれて、自分で考
0	0	90	えることができてよかった。
0	0	100	勉強になりました。
0	0	120	A=[1 4 7//2 5 8//3 6 9 ],trA=1+5+9=15
0	0	100	一緒に考えていただいてとてもたすかりました。すべて解決し
		100	ました。
0	0	100	レポートの書き方について悩みが解決しました。ありがとうござ し、まま
0	0	100	神!
		100	解決策も示してくれたけど、考える時間もくれたから、満足
0	0	100	「藤/大泉も小りくれたりと、ちんる時間もれたから、両足感?達成感?がありました★**
0	0	100	漠然とした質問にも答えてくださりありがとうございました!
0	0	100	疑問が解決しました。
0	0	100	とてもよくわかりました。
0	0	120	分からないことが分かるって本当にうれしい
	_	00	等高線の書き方に苦労していて、それが分かったのでよかっ
0	0	90	たです。

		1	
0	0	95	丁寧に教えてくださったので分かりやすかったです。
0	0	100	初歩的なところからひとつひとつ教えていただけました。課題 がうまく解決しそうです。ありがとうございました。
0	0	100	物理化学の課題でわからないところがあったのですが、丁寧 に対応していただいてよく理解することが出来ました。ありがと うございました。
0	0	100	いつも丁寧に教えていただいてありがとうございます。
Δ	0	80	テストで大事な部分をピンポイントで教えてくれたので助かっ た。 置換は謎のままだった。
0	0	90	何とか理解できました。
0	0	100	毎回レポートをしっかりと書き上げられるので助かっています。
0	0	100	ペンとかで表現していただいたのが、分かりやすかったです。
0		100	丁寧に教えてもらえました。今後の学科選択の参考にもなり ました。
0	0	100	こちら側の視点に立って解き方のアドバイスをいただけるので、頭を使いながら説明を聞くことができ、とてもわかりやすかった。
0	0	100	解けてよかったです!!!また来ます☺
0	0	100	すごく基本的なところだったので質問するか迷っていましたが、 聞いてよかったのです!ありがとうございました。
0	0	200	時間がオーバーしてしまったのですが、最後まで教えてくださ り、ありがとうございました。
0	0	100	SLA の方と一緒に問題を解くと、様々な知識がついて勉強が楽しいです!
0	0	100	使う機会ある!とか使えると便利!とか言ってくれて、やらなきゃ!とやる気が湧いた!!
Δ		70	僕がよく理解できていないまま質問したので、いろいろ迷惑かけて申し訳なかったです。
0	0	100	今回もお世話になりました。電磁気学頑張ります。
0	0	100	楽しかったし、よく分かりました。
0	0	100	解答の指針が理解できた。応用が利きそうな手応えをもて た。
0	0	100	2 人体制でとても分かりやすく教えていただけました。ありがと うございました。
0	0	100	授業で全然分からなかったところが分かって本当によかったで す。ありがとうございました。
0	0	100	問題が解けるようになりました!また、授業で扱った公式の 使い方が分かりました!
0	0		分かりやすかったです。
0	0	100	分からない点を丁寧に教えて頂いてありがとうございました!
0	0	100	物理の深い理解をできたので、満足できた。また利用しよう と思う。
0	0	100	電磁気学一般に使える対称性についても教えていただきま した。問題も複数の解き方を教えていただけました。
0	0	100	自分だと気づけなかった部分(見落とし)などに気づくことが できた。
0	0	100	1時間ほど悩んでいたことが10分程度で解決しました。やさしく対応していただきありがとうございます。
0	0	100	問題に関して質問に行ったが、その問題を考えるための、根 本的な部分を教えていただき、良かった。
0	0	100	ありがとうございました。また利用したいです。
0	0	100	とても難しい問題でしたが、解決できてよかったです!
0	0	100	問題が解決して助かりました。

		1		
です。				問題の根本の慣性モーメントとトルクがよくわかっていなかった
ごけました。課題	0	0	100	が、イメージから教えてもらえたので、問題だけでなく他の問題ので、
-0				題への応用もきくし、何よりさっぱりわからなかった N と I が何ものかわかってよかったです。ありがとうございました。
のですが、丁寧				わからず、誰にもきけずにいたところを聞くことができました。簡
きました。 ありがと	0	0	100	単なところから教えていただきありがとうございました。今日聞
. + -+				きに来てよかったです。ありがとうございます。また来ます。
ハます。	0	0	100	どんどんわかってきたことを実感できました。
れたので助かっ				実際どのような考えであるのか、という点を教えていただき、
	0	0	100	大変参考になりました。
	0	0	100	また来ます。
助かっています。	<u> </u>			
すかったです。	0	0	100	分かりやすく教えてくれた。
の参考にもなり	0	0	100	期末テストがんばります!
3,60.0.5		0	100	講義では教えてもらえないようなテクニックも教えて頂けて計
いただけるの			100	算が楽になりました。
もわかりやすか		0	100	話がとてもおもしろく分かりやすかったです。三井先生の話が
			100	特におもしろかった。
	0	0	100	問題の言葉の意味が分からないのを教えてもらえたので、課
っていましたが、				題が解けるようになりました。
	0	0	100	基本から教えていただき、助かりました。ありがとうございまし
・ で教えてくださ				た。がんばります。
23,	0	0	100	物理よりむしろ数学的な問題でしたが、無事に解くことがで
哉がついて勉強			100	きました。ありがとうございました。
	0	0	100	テストに向けてがんばります!ありがとうございました!
こくれて、やらな	0	0	100	ありがとございます。
	0	0	100	教科書に基づいて最初からていねいに教えて下さりわかりや
いろいろ迷惑か			100	すかったです。ありがとうございました。
	0	0	100	ありがとうございました。分かりやすかったです。
)ます。	0			聞きに来てよかったです。自分が分かっていなかったところがど
	0	0	100	こかというところから解決しました。本当にありがとうございまし
手応えをもて				た。
, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,				積分計算ができなくて困っていましたが、全てすっきりとかいけ
ました。ありがと	0	0	100	つしました。説明が丁寧で分かりやすかったです。ありがとうご
	0 0 0 0			さいました★♡
当によかったで	0	0	100	SLA すばらしい!
	0	0	100	少しテストへのめどが立ちました。ありがとうございました。
扱った公式の				意味不明だった点がすっきりしてよかったです。ありがとうござ
	0	0	100	いました。
			120	親切に対応していただき、今後の展望も示していただいてと
ございました!	0	0	120	ても参考になりました。ありがとうございました。
また利用しよう	0	0	100	ありがとうございました。
		_	4.5-	力学的エネルギーについてわからなかったところがすぐに解決
えていただきま		0	100	されました。 ありがとうございました!
ました。	0	0	100	長時間対応していただきありがとうございました。
どに気づくことが		0	100	
			100	
解決しました。 や	0	0	100	ギリギリの時間なのに対応してくださりありがとうございました。 解決してよかったです。
			100	本当にありがとうございました。わかりやすかったです。
えるための、根	0	0	100	
	0	0	100	イメージがよくつきました。思いきって聞きに来てよかったです。
	$\vdash$			ありがとうございました。
たです!	0	0		ていねいな解説ありがとうございました。
		0	100	異なる性質を示すこと、の理由について、納得のいく説明を
				得ることができました。より厳密な説明はこれから長い道のり

どう取り組む 、ありがとうござ くださったり、ど 。ありがとうござ にはない本質を た。更に、つま 良かったと思 うございました。 ったです。分か 。いつも分かり にした。授業のり ます。 こでもらえいまし ぎいます。 ます!!
くださったり、ど。ありがとうござ はない本質を た。更に、つま 良かったと思 うございました。 かたです。分か。いつも分かり にした。授業のり はす。
。ありがとうござにはない本質を た。更に、つま良かったと思 うございました。 かたです。 かったです。分か。いつも分かり にした。授業のり です。
。ありがとうござにはない本質を た。更に、つま良かったと思 うございました。 かたです。 かったです。分か。いつも分かり にした。授業のり です。
た。更に、つま良かったと思 うございました。 かたです。 かったです。分か。 いつも分かり にした。授業のり はす。
た。更に、つま 良かったと思 うございました。 ったです。 っったです。分か 。いつも分かり にした。授業のり ます。
良かったと思 のございました。 かたです。 かったです。分か。 いつも分かり にした。授業のり です。
かたです。 かったです。分か 。いつも分かり とした。授業のり です。 でもらえいまし ざいます。
。いつも分かり だした。授業のり はす。 てもらえいまし ざいます。
だした。授業のり です。 でもらえいまし ざいます。
です。 でもらえいまし ざいます。
てもらえいまし ざいます。
ざいます。
ありがとうござい
下安な状態だっ 皆に考えようって うございま
ました。
うございまし
ざいました。 いつ がいします。
は解決できま
人答えてくださ
れただけでな 見気づよくサポー ながら、すごく 勉強法なども
せながら教えて !! ありがとう
うっしゃると大変
問題の仕組み

0	0	100	途中式がなく、何が起こっているのか分からなかった計算を 順序よく理解できました。計算は実際に手を動かさないと分
		100	からないことが思い知らされました。
0	0	100	わかりました!テストがんばります
0	0	100	適切な対応だった
			教科書の説明がおかしいという初学者では気づけないような
0	0	100	ことに、SLAの指導のおかげで気づくことができて助かりま
			した。
0	0	100	不明瞭だったところがよく分かるようになった。
0	0	100	ありがとうございました!
0		100	時間が無い中対応していただきありがとうございました。
0	0	100	結局考えていたことがどのようであったのか、明確になりました。
0	0	100	とてもわかりやすくおしえて頂きました。ありがとございました。
0	0	90	分かりやすく教えていただけました。長い時間ありがとうござい
		50	ました。
0	0	100	問題が解けても理解していないとわかった
Δ	0	100	明日、実際の問題を持ってきて質問をします。
Δ	0	100	明日また来ます。少しわかってきました。
0	0	90	点群の表現の表し方(ベクトルでの) と、対象操作の K2 回転と鏡映の違いが分かりました。
0	0	95	片対数グラフの書き方がよく分かりました。
0	0	100	計算頑張ります!!
0	0	100	すばらしい
0	0	100	とてもわかりやすく、問題は解決しました
0	0	100	ありがとうございました!
0	0	100	解決しました
0	0	100	学問は深いと思いました。
0	0	100	非常にていねいに教えていただきました。ありがとうございました。
0		100	頭の中が整理されて、他のもんだいも解けそうな気がします。
	0	100	ありがとうございました。またよろしくおねがいします。
0	0	80	がんばります!
0	0		分かりやすかったです。
0	0	100	わかるまで説明してくださったのがとても助かりました。
		100	すごく丁寧に教えてくださり、ありがとうございました。分かった
0	0	100	つもりで放置していて何も理解していなかったので、今日きき にきてよかったです。本当にありがとうございました。
			忘れていたことをたくさん思い出せてよかったです。今日も聞
0	0	100	きにきてよかったです。たくさんいろいろ教えていただきありがと
	_		うございました。
0	0	100	基礎から教えてくださって助かりました。
0	0	100	分かりました!
0	0		根気よく質問をかんがえてくれてありがとうございました!
0	0	100	短時間で何も分からないところから完全に理解できました。 ありがとうございました。
		165	解決への糸口をいくつか発見できたので、たのしかったです。
0	0	100	ありがとうございました。
0	0	100	勉強たのしいね!
Δ	0	90	問題に不備があったかもしれないので、きれいな解答が出せ
			ませんでしたが、親身に対応していただきました。

0	0	250	問題の解決と追加の話にも応じて頂き、とても参考になりました。 ありがとうございました。
Δ		100	時間がない中で対応してくださり、ありがとうございました。
0	0	100	わかりやすい!
0	0	100	専門の線形代数を質問したのですが、分かりやすく、流れや 本質を理解させてくれて、とてもよかったです。 助かりました。
0	0	100	授業であやふやな所を確認できてよかったです。
0	0	100	専門科目でいたが、微積を専門にしている方から習え、とて も分かりやすかったです。
0	0	100	C p −Cv=R が分かって良かった。
0	0	100	ありがとうございました。
0	0	100	がんばります。
0	0	100	すごく分かりやすく教えてくださりありがとうございました。
0	0	100	最高
0		90	最終的にしっかりした答案を出してくれたので、とてもタメになった。
0	0	100	テスト頑張ります。

	0	0	100	なぜそうなのか、どう考えればいいのかをわかりやすく教えてく ださったので、とても勉強になりました!!
ŀ				
	0	0	100	線形のプロということもあり、とても分かりやすかったです。あり
ļ				がとうございました。
	$\circ$	$\circ$	100	聞きにきてよかったです。どこがポイントなのか、ということが分
	0		100	かったし、スムーズにもんだいをといていくことができました。
Ī	0			今回の問題だけでなく、今後、どのように勉強していけばいい
	0	0	100	か、というのが分かった。
	)			分からないところを丁寧に教えていただきました。最後に自分
	0	0	100	で解いてみる時間をくれるのが良いと思います。
Ī	0	0	100	こんがらがっていた部分がすぐに解決して、とても良かったで
	0	0 0		す。ありがとうございました!
Ī	0		120	物理 B わかりました。テスト頑張ります。 ありがとうございまし
	0	0		た!
Ī	0	0		分かった!!勉強がんばります。
ı				初めて SLA を利用したため、上手く話を理解できるか、わか
			0 100	らないことを説明できるか不安であったが、担当の方は僕の
	$\circ$	0		話をきちんと解釈してくれたし、解説も分かりやすかったので
L				安心した。

# 英会話

大五山						
解	満	点	コメント			
決	足	数	1721			
0	0	100	優しく、ゆっくり話してくれてよかった。とてもエキサイティングで、次はこちらからも話をふれたらいいと思った。 また来させてもらいます!!			
0	0	100	久しぶりの英会話がとても楽しかった			
0	0	100	今セメスターもがんばりたいです。専門との両立を特にがん ばりたいです。			
0	0	100	英会話だけでなく SAP の情報などすごく有益なことが聞けました。ありがとうございました。			
0	0	100	時間を考えた対応、アドバイスがよかった			
	0	100	長い時間英会話できたし、マジメな話も楽しい話もできた。			
0	0	80	very helpful.			
	0	100	私は英語でのコミュニケーションは全然できなくて、今日もあんまりしゃべれなかったけどドナさんはゆっくりひろってくれてよかったです。 またきます			
0	0	80	まわりが英語の上手な人ばかりで、少しついていけないとき がありました。 わからなかったら積極的に聞いていこうとおも います!			
	0		久々に英語での会話ができてすごく楽しかったし有意義な 時間でした。また来させてもらいます。			
	0	100	英会話をしてみて、難しかったが、丁寧に対応していただき、会話の内容が大まかに理解することができた。また、次回も SLA に来ようと思う。			
0	0	100	今日も面白かったです。			
	0	100	英会話を一から丁寧に教えていただき、とても練習になりました。 少しずつ会話ができるようなきがしました。 SLA 楽しいです。			
0	0	100	久しぶりの英会話楽しかった!			
0	0	100	自分の誤りやすい傾向が明らかになりました。自分で探そうとしても少し見つかりづらい点で参考になりました。表現力を高めるよう努力していきたいと思います。ありがとうございました。			

	Δ		英語でいろいろ学べてよかったです。
	0	100	色々な話題で話ができたので良かったです。
	0	100	英会話をする目的や学び方など詳しく教えていただきとても ためになりました。writing もしっかりと練習していきたいと 思いました。
0	0	100	世界の旅の本がおもしろかった!
		100	前回よりもたくさん話せてよかったです。次はもっと英語の割合を増やしたいです。
0	0	80	自分のコメントはさみたかったけど、うまく表現できなかった。 次はがんばりたい。お話をきいてとても感銘を受けた。
	0	100	とても楽しくて 30 分があっというまでした。また利用させても らいます。
0	0	100	英語を話すいい機会になった。
		90	バリエーションに富んだ質問があって面白かった。
	0	100	今日も丁寧な対応で満足できた。
	0	80	全然言えなくて大変でした。楽しかったです。
	0	90	初めて英会話カフェを体験しました。もっと英会話を上達させたいので次は1対1をやりたいです。
0	0	100	たのしかったです。英語のスピーキングが苦手なのでまた利 用させてください。
	0	95	今日も、英会話の練習がしっかりできてよかったです。
×	0	100	またよろしくお願いします。
	0	100	初めて本格的にカフェを利用しましたが、とても楽しく活動 できたのでよかったです。
0	0	100	大変楽しく参加させて頂きました。ありがとうございました。
	0	90	たのしく英会話できた。しかし人数が多いと意外と聞く時間 が多くなるので個別もためしてみたい。
0	0	80	英語圏でないところの出身を活かしつつ、その言葉を教え てほしいです。フリーの強みをもっともっと活かしてください。
0	0	90	楽しかったので、もっと時間のあるときに来たい。
0		100	難しいけれど良い練習になりました。
	0	90	色々なトピックについて話せたのでよかったです。

○   100			ı	A D U # A = 7 a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a + d a +
□ 100	0	0	100	
100    す。   2				
○ 100 分から会話できるように頑張りたいです。   今回は前回よりも話せた!!ドナさんはセンテンスを言い換えて伝わるようにして代わるのでとても勉強になります。もっとスラス語せるようにがんばかたです。といくなりないとです!!THANKS   初めての利用で緊張してしまいましたが、優しく対応してもらえて嬉しかたです。ありがとうございました。		0	100	
今回は前回よりも話せた!!ドナさんはセンテンスを言い換えて伝わるようにしてくれるのでとても勉強になります。もっとスラスラ話せるようにがんばりたいです!ITHANKS		0	100	
で伝わるようにしてくれるのでとても勉強になります。もっとスラスラ話せるようにがんばりたいです!!THANKS 初めて利用で緊張してしまいましたが、優しく対応してもらえて嬉しかったです。ありがとうございました。 2週間がのにワンさんに対応してもらいました。 3回間がのにワンさんに対応にですらいました。今回はやはカリハイレベルでしたが、前回のさきよりも会話らしくなりました。これからも継続して練習していきたいです。日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。今日は 1001 とカフェをしちからいちにいき思います。 100 たのしかったです! いいれんしゅう 100 だきやかで楽しかったです! ディスカッションがよかったです。 100 たのしかったです! いいれんしゅう 100 だきかで楽しかったです! ディスカッションがよかったです。 100 また利用したいです。 100 また利用したいです。 100 おりがとうございました。 今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきまかったです。 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。 今日は文法中心と会話中心の2つの part に分けて英語の練習をしました。この2part に分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。 9日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。よう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。 100 は was very fun to explain my major to others. Thanks!! きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。				
フスラ話せるようにがんばかたいです!!THANKS   100				
○   100   らえて嬉しかったです。ありがとつございました。初回の時は   ほとんどはやくて英語を聞き取ることができませんでした。今回はやはかハイレベルでしたが、前回のときよりも会話らしく なかました。これからも継続して練習していきたいです。   日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思う が 日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。   今日は 1011 とカフェをしました。カフェは 2 回目でしたがとても楽し、カフェをしりながら SLA サポートを活用したいと思います。   100   たのしかったです! いいれんしゅう   こざやかで楽しかったです! ディスカッションがよかったです。   100   また利用したいです。   100   また利用したいです。   100   また利用したいです。   100   また利用したいです。   100   また利用したいです。   100   かったですと呼らながたっとさいました。   100   でぎやかで楽しかったです! ディスカッションがよかったです。   100   かっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。   今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しい意した。また。また。 適切なアドバイスもいただきよかったです。   100   対しいが、とても面白いゲームを行い、楽しのと対した。また。 また、適切なアドバイスもいただきまかったです。   100   がしいが、と話してあって。   200   変しかった。 この 200 part に分けて英語の練習をしました。 この 200 part に分けて英語の練習をしました。 また、語の内をもたいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。   100   は、ないないました。   200   は、ないないました。   200   は、ないないました。   200   は、ないないました。   200   は、ないないました。   200   ながなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも   200   ながなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも   200   専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。   今度時間があるときにゆっくりときたいです。   今度時間があるときにゆっくりときたいです。   200   おもを最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。   200   かったです。   200   おもを最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。   200   かったです。   200   おもを最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。   200   かっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリビートしてもらうことな理解できました。   200   かっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリビートしてもらうことな理解できました。   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200   200				ラスラ話せるようにがんばりたいです!!THANKS
5えて嬉しかったです。ありがとうございました。 初回の時は はとんどはやくて英語を聞き取ることができませんでした。今回はやはカハイレッルでしたが、前回のときよりも会話らしく なりました。これからも継続して練習していきと思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。   日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。   今日は 1001 とカフェをしました。カフェは 2 回目でしたがと			100	初めての利用で緊張してしまいましたが、優しく対応しても
90   ほとんどはやくて英語を聞き取ることができませんでした。今回はやはりハイレベルでしたが、前回のときよりも会話らしくなりました。これからも継続して練習していきたいです。		0	100	らえて嬉しかったです。ありがとうございました。
○ 90 回はやはりハイレベルでしたが、前回のときよりも会話らしくなりました。これからも継続して練習していきたいです。 日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。 今日は 10n1 とカフェをしました。カフェは 2 回目でしたがとても楽しく、カフェをしてよかったと思いました。今後も 10n1とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。 ○ 100 たのしかったです!いいれんしゅう ○ 100 にざやかで楽しかったです!ディスカッションがよかったです。				2 週間ぶりにワンさんに対応してもらいました。初回の時は
おりました。これからも継続して練習していきたいです。 日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。   今日は 1001 とカフェをしました。カフェは 2 回目でしたがとても楽しく、カフェをしてよかったと思いました。今後も 1001 とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。   100 たのしかったです! いいれんしゅう   100 また利用したいです。   もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。   新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。   今日は文法中心と会話中心の 2 つの part に分けて英語の練習をしました。非常に質の高い練習ができました。   100 案しかった。自信をつけられそう。   100 にまた、諸の株習をしました。非常に質の高い練習ができました。   200 によまた、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と派した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。   100 にまた、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。   100 はwas very fun to explain my major to others. Thanks!!   きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。   なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った   専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。   今度時間があるときにゆっくりときたいです。   木でさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった   100 切を対比であるときにゆっくりときたいです。   木でさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうごとなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうごとなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなく理解できました。   100 対象リビートしてもらうことなどができないないました。   100 対象リビートしてもらうことないました。   100 対象リビートしてもらうことができないませんだけないますないませんないませんないませんないませんないませんないませんないませんないません		0	90	
□ 日本語を用いて円滑に会話ができるようにしていると思うが、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。 □ 100				
<ul> <li>○ 80 が、日本語を使わないでいてくれ方が個人的には練習になるのでありがたい。</li> <li>今日は10n1とカフェをしました。カフェは2回目でしたがとても楽しく、カフェをしてよかったと思いました。今後も10n1とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。</li> <li>○ 100 たのしかったです!いいれんしゅう</li> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 90 た。今日はありがとうございました。</li> <li>○ 90 おします。</li> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 90 た。今日はありがとうございました。</li> <li>○ 100 がしたです。</li> <li>○ 100 がした。今日はたりかりたです。対しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。</li> <li>○ 100 がした。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。対しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。</li> <li>○ 100 にぎやかて楽しか面白い。この2partに分けて英語の練習をしました。また、語の内容高に独習ができました。</li> <li>○ 100 にぎやかて楽しかられるこの2partに分けて英語の練習ができました。</li> <li>○ 100 にき楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。 今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。</li> <li>○ 100 は ないとまいた。</li> <li>○ 100 は ないないと思いた。</li> <li>○ 100 ないない思った。また、話の内容もだいたいです。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った。</li> <li>○ 100 対なが取ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った。</li> <li>○ 100 内容・対なが思ったことを表話にするのは難しかった。これからも次語の練習に使いたいと思った。</li> <li>○ 100 は 20 は 20 に 20 に 20 に 20 に 20 に 20 に</li></ul>				
3のでありがたい。   今日は10n1とカフェをしました。カフェは2回目でしたがとても楽しく、カフェをしてよかったと思いました。今後も10n1とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。   100 たのしかったです!いいれんしゅう   100 にぎやかで楽しかったです!ディスカッションがよかったです。   100 また利用したいです。   もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。   100 にしたい。   今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。   100 にしたい。   今日は文法中心と会話中心の2つのpartに分けて英語の練習をしました。この2partに分けるやり方は、非常に良いと感じました。まずに質の高い練習ができました。   100 楽しかった。自信をつけられそう。   100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。   100 とて楽しむことができました。   100 はwas very fun to explain my major to others. Thanks!!   きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。   100 対なかか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った   専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。   今度時間があるときにゆっくりときたいです。   木できんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった   100 切りをリピートしてもらうことなく理解できました。			00	
今日は 10n1 とカフェをしました。カフェは 2 回目でしたがとても楽しく、カフェをしてよかったと思いました。今後も 10n1 とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。			00	
□ 100				
とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと思います。		_		
<ul> <li>○ 100 たのしかったです!いいれんしゅう</li> <li>○ 100 にぎやかで楽しかったです!ディスカッションがよかったです。</li> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 90 もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。</li> <li>○ 100 デせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。</li> <li>○ 100 帰しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。</li> <li>○ 100 楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。20日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。</li> <li>○ 100 はなる いたいきました。</li> <li>○ 100 はなる いたいきました。</li> <li>○ 100 さまた、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 100 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 100 好っくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		0	100	とカフェのバランスをとりながら SLA サポートを活用したいと
<ul> <li>○ 100 にぎやかで楽しかったです!ディスカッションがよかったです。</li> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 90 もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日はありがとうございました。</li> <li>○ 100 デせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。</li> <li>○ 100 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。</li> <li>○ 100 解しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。シーロのようを対した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 は was very fun to explain my major to others. Thanks!!</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>○ 100 財を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> </ul>				思います。
<ul> <li>○ 100 また利用したいです。</li> <li>○ 90 もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。</li> <li>○ 100 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。</li> <li>○ 100 おけいでしたのでは、まずに質の高い練習ができました。また、語の検習をしました。非常に質の高い練習ができました。</li> <li>○ 100 また楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 は was very fun to explain my major to others. Thanks!!</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 結を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 91 かっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>	0	0	100	たのしかったです!いいれんしゅう
90    もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いました。今日はありがとうございました。 今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。    100    新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。    今日は文法中心と会話中心の 2 つの part に分けて英語の練習をしました。この 2 part に分けるやり方は、非常に良いと感じました。この 2 part に分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。    とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。    500    らした。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。    100    it was very fun to explain my major to others. Thanks!!    きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。    100    なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った    専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。    今度時間があるときにゆっくりときたいです。    木せさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった    100    かったです。    100    がっとうことなく理解できました。	0	0	100	にぎやかで楽しかったです!ディスカッションがよかったです。
○ 90 た。今日はありがとうございました。     今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。     新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。     今日は文法中心と会話中心の 2 つの part に分けて英語の練習をしました。この 2 part に分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。     ② 100 楽しかった。自信をつけられそう。     ② 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日は本当にありがとうございました。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。     ③ 100 は was very fun to explain my major to others. Thanks!!     ③ 100 きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。     ③ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。     ⑤ 20 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。     ⑤ 20 時間があるときにゆっくりときたいです。     ⑥ 100 計を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。     ⑤ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。     ⑤ 100 ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。	0	0	100	また利用したいです。
た。今日はありがとうございました。 今日は、カフェを行い、とても面白いゲームを行い、楽しく過ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。 今日は文法中心と会話中心の2つのpartに分けて英語の練習をしました。この2partに分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。 楽しかった。自信をつけられそう。 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。 り100 とで楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。はwas very fun to explain my major to others. Thanks!!  100 はwas very fun to explain my major to others. Thanks!!  100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。 今度時間があるときにゆっくりときたいです。 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。 ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。			00	もっと英語の単語がスラスラでるようになりたいと思いまし
<ul> <li>○ 100 ごせました。また、適切なアドバイスもいただきよかったです。 新しいゲームが面白い。言いかえと過去形に気をつけるようにしたい。 今日は文法中心と会話中心の2つのpartに分けて英語の練習をしました。この2partに分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。 ② 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。 ② 100 した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。 ③ 100 はwas very fun to explain my major to others. Thanks!! ③ 100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>□ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも 英語の練習に使いたいと思った</li> <li>□ 100 すれせきんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>□ 100 がつくりと表にいてす。</li> <li>□ 100 がつくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		)	90	た。今日はありがとうございました。
○ 100         にしたい。           今日は文法中心と会話中心の2つのpartに分けて英語の練習をしました。この2partに分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。           ○ 100         楽しかった。自信をつけられそう。           ○ 100         とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。           ○ 100         した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。           ○ 100         は was very fun to explain my major to others. Thanks!!           ○ 100         きよう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。           ○ 100         なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った           ○ 100         専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。           ○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。           ○ 100         おせさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった           ○ 90         話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。           ○ 90         話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。           ○ 100         ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。		0	100	
今日は文法中心と会話中心の2つのpartに分けて英語の練習をしました。この2partに分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。   100 楽しかった。自信をつけられそう。   とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。   今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。   100 した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。   it was very fun to explain my major to others. Thanks!!   きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。   なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った   専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。   今度時間があるときにゆっくりときたいです。   ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった   90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。   ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。	0	0	100	
<ul> <li>○ 100 語の練習をしました。この 2 part に分けるやり方は、非常に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。</li> <li>○ 100 楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 2 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 は was very fun to explain my major to others. Thanks!!</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>				
<ul> <li>に良いと感じました。非常に質の高い練習ができました。</li> <li>○ 100 楽しかった。自信をつけられそう。</li> <li>○ 2て楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 はwas very fun to explain my major to others.Thanks!!</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		0	100	
□ 100 とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いたいです。今日は本当にありがとうございました。				·
<ul> <li>○ 100 いです。今日は本当にありがとうございました。</li></ul>	0	0	100	楽しかった。自信をつけられそう。
いです。今日は本当にありがとうございました。 今日はカフェで楽しく専門的な物理の話をすることができました。 は いた。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。 は was very fun to explain my major to others. Thanks!!  100 おかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った。 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。  今度時間があるときにゆっくりときたいです。  小ささんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった。  90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。  ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。		_		とて楽しい有意義な時間を過ごせました。継続的に通いた
<ul> <li>○ 100 した。また、話の内容もだいたい理解でき、純粋に英会話と楽しむことができました。</li> <li>○ 100 it was very fun to explain my major to others. Thanks!!</li> <li>○ 100 きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 は見信はついたので来てよかった</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>	0	0	100	
と楽しむことができました。           it was very fun to explain my major to others. Thanks!!           100         きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。           かかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った         専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。           今度時間があるときにゆっくりときたいです。         ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった           90         話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。           ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。				
<ul> <li>○ 100 it was very fun to explain my major to others. Thanks!!</li> <li>○ 100</li></ul>		0	100	
<ul> <li>○ 100 others.Thanks!!</li> <li>○ 100</li></ul>				
<ul> <li>○ 100 きょう英語で話して、すごく緊張してしまいました。もっとリラックスして話せるようになりたいです。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		0	100	, , , ,
<ul> <li>○ 100 クスして話せるようになりたいです。</li> <li>○ 100 なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも 英語の練習に使いたいと思った</li> <li>○ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>				
<ul> <li>○ 100 英語の練習に使いたいと思った</li> <li>□ 100 専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽しかったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>□ 100 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>□ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>□ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		0	100	
英語の練習に使いたいと思った			100	なかなか思ったことを英語にするのは難しかった。これからも
<ul> <li>○ 100 かったです。</li> <li>○ 今度時間があるときにゆっくりときたいです。</li> <li>○ 100 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>			100	英語の練習に使いたいと思った
かったです。		0	100	専門的な物理の話をえいごですることができて、とても楽し
<ul> <li>□ 100 ホセさんと話してみて、自分の語彙の不足は感じたが、少し自信はついたので来てよかった</li> <li>□ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>□ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>				かったです。
<ul> <li>○ 100 し自信はついたので来てよかった</li> <li>○ 90 話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。</li> <li>○ ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。</li> </ul>		0		今度時間があるときにゆっくりときたいです。
○ 100 ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部分をリピートしてもらうことなく理解できました。	0	0	100	
○ 100 分をリピートしてもらうことなく理解できました。	0	0	90	話を最後まで聞いてくれて、話しやすかったです。
分をリヒートしてもらうことなく埋解できました。			100	ゆっくりと英語を話していただいたので、会話の内容の大部
○   ○   100   "Who am I?"のゲームがたのしかったです!			100	分をリピートしてもらうことなく理解できました。
	0	0	100	"Who am I?"のゲームがたのしかったです!

Δ	0	90	自分の苦手なところがわかったのでよかったです。 ありがとう ございます。
			今日は軽く英語で絵を説明するという活動をしました。カフ
	0	100	ェでは普段できない活動(プレゼンなど) もできるので、英
			語以外も練習できいいとおもいます。
	0	100	今日も楽しく活動できて良かったです。
0	0	100	とてもたのしかった。英語がたくさん話せてよい時間だった。
0	0	100	最初は緊張したけど、とても楽しかったです。また来たいです
0	0	90	企画が楽しかった。
			初めて英会話に参加しました。サポーターに方が楽しく進
	0	100	行してくださいました。来てよかったです。
0	0	100	英語で何かを説明することの難しさを感じたが、とても楽し
_			かった。
0	0	100	楽しかったです。
			discussion がたのしかった。話している時に、英語をすぐ
0	0		訂正して下さったので、どこを直せばいいか分かりやすかった
			です。
		100	今日は英語での敬語の使い方を学びました。丁寧に説明
	0	100	していただきとても良かったです。また、英語もゆっくり話して いただき聞き取りやすかったです。
			カフェでしたが他の人が来なかったので 1on1 のようになりま
	0	100	した。ホセさんの物理の話がとても面白かったです。
			今回初めて SLA を利用したのですが、とてもフレンドリーで
	0	100	楽しかったです。英語がでてこなかったときに優しく教えてく
			れてなおかつ自分でも考えされられ、とてもよかったです。
			初めてだったため不安でしたが、優しく対応してくださったの
	0	100	で安心しました。私は英語らしいアクセントや発音ができな
	0	100	いので、改善すべき点があれば指摘してほしいです。また来
			たいです。
	0		英会話をとても楽しめた 1 時間でした。
0		100	非常に助かりました!
0	0	90	日本語での説明もあって分かりやすかったです。語彙力つ けます。
			初めてでおどおどしてましたが、サポートしてもらいながら何と
	0	90	か参加できました。ありがとうございました。
		00	パワーポイントでサクサク質問を出すのが面白かったので、
0	0	99	質問がたくさんあるといいと思います。
			ゆっくり英語を話していただいたので、多くの言葉をしっかり
	0	100	聞き取ることができよかったです。また、たくさんのトピックにつ
			いて話しができたので、しっかり英語の練習ができました。
0	0	90	話すテーマが決まっていたので話しやすかったです。発音、
$\vdash$			相づち打ち方も知りたいです。 初めての SLA 利用、初めての英会話でしたがとても楽しん
	0	80	で会話することができました!また来ます!!
	0	90	ゲームがメインだったので、次は他の事もしたい。
	0	100	カフェで今までやったことのないゲームができ楽しかったです。
		120	英語の発音の練習をしていただきましたが、辞書も使いな
			がら一語一語丁寧に教えて頂きとても助かりました。
	0	100	久しぶりに沢山話せました。
		100	丁寧に対応していただいてとてもよかったです。また、最後に
	0	100	review をして頂いたので今日の内容を深く理解すること ができました。
0	0	100	楽しくゲームができました!
	0	90	<b>色々な話ができてよかったです。</b>
	0	90	ロベは音がてないがたじょ。

		I	TOTAL TOTAL (
0	0	100	TOEIC と TOEFL について教えていただきました。親切に 教えてくださりきてよかったです!
0	0	95	とても楽しくできました。日々上達しているように感じてま す。ありがとうございます!
			プレゼンテーションの練習のために、わざわざ教材を作成し
	0	100	ていただき、丁寧に練習に付き合ってくださってとても感謝し
			ています、また今日も物理の話もとても面白かったです。
	0	100	I enjoyed speaking English. I want to come again.
	0	100	カフェで楽しく活動できてよかったです。
0	0	100	たくさん人がいて楽しかったです。
0	0	90	たのしく話すことができました。
	0	100	たのしくディスカッションできてよかったです。
0	0	99	毎度楽しませてもらっています。
	0		楽しく英会話できた。
	0	100	簡単なトピックでたくさん話せたので面白かったです。
	0	100	今日も丁寧な対応をしていただいてありがとうございます。
	0	100	長時間対応していただいてありがとうございます。
	0		緊張しました。
0	0	90	すごく面白く英語を通してコミュニケーションが出来てよかっ
			たです。 質問されて答えるのに慣れてきたが、自分の言いたいことを
			負向されて音えるのに関れてされた、自力の言いたいことを 100%言えてはいないので、もっと上達したい。
0	0	90	楽しくおしゃべりができて、英語力も上達したように感じら
			れ、有意義な時間でした。
	0	100	楽しく英会話できてとてもよかったです。
			もっと英語が上達したくなった
0	0	90	楽しいです。英語でなんとか表現することが前よりできるよう になりました
	0	100	1on1 とカフェ両方でき、とても楽しめました。
0		90	あいづちの打ち方を知りたいです。
0	0	100	英語の勉強頑張ります
	0	90	もう少し英会話力を上げたいです。
	0	100	久々に英語を話せてよかった。話す機会があることはありが
		100	たいことだと思う
	0	100	今日は自分から発言することが少なかったと思ったので、次 回はより多く自分から発言したいと思います。
	0	100	すごく丁寧に対応していただきありがとうございます。発言の
			仕方などとてもためになりました。
0	0	100	いろいろ学べました。
0	0	90	楽しかったです
0	0	100	今日はよく話せたと思います。次回もよろしくお願いします。 このようなゲームは初めてだったので、だいぶキョドってしまい
	0	100	ました。でも英語で話せて、純粋に楽しかったです。
Δ	0	90	また来たいです。ありがとうございました。
0	0	99	うつ状態を脱出できて、大変助かりました。
0	0	90	全然話せず、自分の力不足を痛感しました。
0	0	95	News について自分の考えを言うってのは大切なんだってことが分かった。
	0	100	会話をゆっくりしていただいたので、ある程度理解ができ良
0	0	99 90 95	また来たいです。ありがとうございました。 うつ状態を脱出できて、大変助かりました。 全然話せず、自分の力不足を痛感しました。 News について自分の考えを言うってのは大切なんだってとが分かった。

	0	100	だいぶ苦しみました。
	0	70	もう少しスピーキングをしたかった。でも楽しかった!
0	0	100	思ったりよりも言葉が詰まってしまいました。いい練習になり ました。
	0	100	ゲームが楽しかった。
	0	100	楽しく英会話できてよかったです。
0	0	90	英語で表現しようとする姿勢の大切さを改めて学びました
	0	100	前回よりも英語が話せるようになった気がします。
0	0	90	長時間ありがとうございました。
	0	100	カフェと 10n1 両方で楽しめたのでよかったです。
0	0	100	カジュアルトークができてよかったです。
			人がいっぱいいるとやりたいことがやれないのは少し残念。
			仕方ないのはわかるけど…
	0		apples to apples が楽しかった
Δ	0	85	前回より楽しめた。
	0	100	今日は今までやったことのない新しいゲームをできて楽しかっ たです。
	0		今回は本当にボロボロだったけど、やるきがでました。ありが
			とうございました。     今日も丁寧な対応をして頂きありがとうございます。また、
	0	100	英会話の最後に review をするのは知識の整理にもなり
			とても良いと思います。
0	0	100	失敗をおそれずにどんどんディスカッションしていきたい。
0	0	100	TOEFL の勉強法を丁寧に教えていただいてありがとうござ
			いました。頑張ります。  "R"と"L"の発音の仕方をとても丁寧に教えてくださりありが
	0	100	とうございます。また、日本人によくある日本語間違いを教
			えてくださり、とても勉強になりました。
	0	90	ありがとうございました。
	0	100	病院での対応を想定してゲームを行い、とても勉強になり ました。
	0	80	ありがとうございました。
0	0	90	ゲームをしながらできたので、楽しかったです。
0	0	90	何が言いたいのか推測してヒントをくれて、言い直させてもら
		50	えたのが良かったです。
	0	120	とっても優しくて話しやすかったです。 たくさん課題も提供してくれて楽しかったです。 また来ます。
	0	100	英語をゆっくりと話していただいたので、理解しやすかったで す。
			1on1 を初めて利用させてもらいました。 英語を話すことに
	0	100	は抵抗はそこまでありませんでしたが、さすがに始まる前まで
0	0	100	は緊張しました。ですが、とても楽しく英会話をさせていただ きました。Topic を用意してくれているのは、とてもいいことだ
			と思いました。ありがとうございました。
			分からなかった単語などをホワイトボードに書いてくれてよか
		80	った。様々な場合で使える表現をたくさん書いてもらえるとう
		100	れしい。 楽い活動できてよかったです。
	0	100	ありがとうございました!
	0	100	楽しく過ごせました。
0	_	100	楽しかったです。
0	0	100	初めての人が来てくれました。

			Speaking English is difficult, but very
0	0	100	interesting. I want to recommend it to
0	0	100	everyone!! Thank you. ディスカッションを楽しくできてとてもよかったです。
		100	1on1とカフェ両方で楽しく会話できたので良かったです。
	0	100	今日も丁寧な対応をして頂きありがとうございます。
	0	100	ありがとうございました。
			   短い時間の参加でしたが、色々なゲームができてよかったで
	0	100	す。
	0	100	色々な話ができてよかったです。
		100	楽しく会話できました。
	0	100	英語をゆっくり話して頂いたので、聞き取りやすかったです。
	0	100	英語の文を作るのに苦戦した。もっと練習したい。
0	0	90	日本人が誤りやすい表現も教えていただけよかったです。
			おみやげ、がっかり名所など面白いトピックで話せて、楽しか
0	0	80	ったです。英語を話すのに時間がかかるので、少し待ってく
			れると嬉しいです。
		100	英会話 10n1 を利用させていただきました。いつも通り楽
		100	しく英語をつかえ、英語に触れる時間を増やしたい私にとって、とても素晴らしいプログラムです。ありがとうございました。
		100	ディスカッション楽しかったです②
0	0	100	久しぶりで楽しかったです。
0	0	100	質問・応答でいつもより多く話すことができたと思います。 楽しく会話できてよかったです。また、丁寧な対応ありがとう
	0	100	楽いく云面 じさ じょかりに じゅ。また、 ] 夢な対心のりがこう   ございます。
0	0	90	楽しかったです。また来ます。
0	0	100	ドナさん最終日ということで、今まで本当にお世話になりました。とてもたのしかったです…!
			英語の音楽を使ってゲームをしました。英語独特の表現方
	0	100	法など多くのことを知ることができ、とても楽しかったです。
	0	100	話しやすいトピックでたくさん話せたのでいい練習になりまし
		100	た。
	0	100	短い時間でしたが充実していました。
		100	ディベート形式がとても楽しかった。どんどんやりたいです。
	0	100	初めて絵をかくゲームをやりました。 今までのゲームとは違っ た感覚で楽しめました。
0	0	100	ディベート楽しかったです。
			Debate は楽しかった。言いたいことが言えるようになりた
	0	95	い。
	0	100	ありがとうございました。
0	0	100	ゲームたのしくできました。ありがとうございました。
		100	色々な国や有名な場所について英語で話せて楽しかった
	0	100	<b>ल्</b> बं.
	0	100	いつもお世話になってます。楽しく英語が話せる場所として 重宝してます。
	0	100	今日も楽しく英会話できてよかったです。
	0	100	楽しいディスカッションができました。
0	0	100	久しぶりの英語楽しかったです。
	0	100	色々なゲームができて楽しかったです。
	0		英会話カフェに初めて参加したが楽しめた。
		80	央会話カノエに初めて参加したか楽しめた。 英語の発音の仕方を丁寧に教えていただいてありがとうご
	0	100	・ 受話の発音の狂力を丁寧に教えていただいでありがとうことがありました。
		·	<u>l</u>

	0	90	英語の発音が学べてよかった。
	0	100	プレゼンテーションの練習を一緒にして頂いて、ありがとうご ざいます。いい経験になりました。
		100	とても楽しかった。自分が時間を取ってしまって申しわけな い。
0		100	楽しかったです。
	0	100	今日も楽しく会話できたのでよかったです。
	0	90	内容がぶっ飛んでて面白かったです。
	0	100	発音の練習や話す際に心掛けることなど丁寧に教えていた だいて、とても勉強になりました。
0	0	99	ずいぶんお世話になりました。
	0	100	日本のアニメと海外のアニメの違いを知ることができて、とて も面白かったです。
	0	100	今日も楽しい英語ができてよかったです。
	0	100	今日のディスカッションは内容もとても面白く、楽しめました。
	0	100	丁寧に発音練習に付き合っていただきありがとうございます。次のセメスターも継続してきます。 今セメスターありがとうございました。
0	0	100	久しぶりに楽しかったです。
0	0	100	久しぶりでなかなか英語が出てこなかったです。また来ま す。
0	0	100	久しぶりに SLA に来ました。SAP のお話や@home の話など聞けて楽しかったです。
	0	90	初参加で緊張しましたが、かなり練習になったと思います。
0	0	90	何ていったらよいかわからないことを丁寧におしえてくれてとて も楽しかった。
	0	100	今セメスター初めての参加でしたが、楽しく会話ができてと ても楽しかったです。
0	0	100	とても楽しかったです。また来ます!
0	0	100	はじめてでしたがとても気さくに田さんが話して下さったので たのしかったです。
0	0	95	"Who am I"のゲームがとても楽しく英語を学ぶことができた。
0	0	90	楽しく英語で会話できたのでよかった。自分の英語の未熟 さを痛感した。改善に努めたいと思う。
	0	100	久しぶりに SLA で楽しく会話ができてよかったです。また、 会話がゆっくりで聞き取り易かったです。 今セメスターも積極 的に SLA を活用していきたいと思います。
0	0	100	来るのが遅くなってしまったのに、色々対応してくださってとて も嬉しかったです。
0	0	100	英作文を見てもらいました。構成をうまくする方法を学べて よかったです。
0	0	95	日本語でいったことをていねいに英語でていねいに説明して くれてたのしかった。
0	0	100	とてもよかったです!
0	0	100	相談にものってくれたりしてとても充実した英会話ができたと思う。
0	0	95	また来ます!
	0	100	楽しく会話ができてとてもよかったです。
		90	ハロウィンの起源も知れてよかったです!
	0	100	バロウィーンの話やミニゲームなど、今日も楽しめてよかった です。
		100	<b>ੱ</b> ਰ

			ハロウィンの起源などがわかって良かったです。 文化を知るこ
0	0	90	とができるのは楽しいですね。英語だけでもゆっくりであれば
			聞き取れるので、あまり心配しないでください。
0	0	90	表現に困ったときに新しい表現を教えてくれたのでありがたかったです。
			自分のトピックについて話し合うのはとてもよかったが、そのこ
0	×	90	とだけでなく他のトピックにもっとふってもらっていろいろな話を
			してみたかった。
0	0	100	Halloween の歴史がわかった。
			英会話の終わりにまとめや文法についてのアドバイスをして
	0	100	いただいたので、自分では気づかなかった文法の誤りについ
			て知ることができました。
	0	100	トピックのディスカッション形式が話しやすい。ディスカッション の方がゲームよりも話す練習になると思った。
		100	英語は奥が深いですねー
			初めての利用でしたが、とても楽しむことが出来ました。また
0	0	100	来ます!ありがとうございました!
	0	100	ありがとうございました!
			   たくさん新しい表現を知ることが出来てよかったです。
0	0	100	VOLCANO
			時間があればディスカッションをしたい
0	0	100	good!
0	0	95	もっと話せるようになりたいです。
			今日の SLA では英語でプレゼンテーションの練習ができ、
	0	100	英語の練習とともにプレゼンテーションの練習ができてとても
			ためになりました。
0	0	100	いいプレゼンの練習になった
	0	100	様々なトピックについて話せて楽しかったです。
0	0		間違えた表現をしている時に訂正して下さって非常に勉強
			になりました!!また来ます
0	0	100	ディスカッション楽しかったです。
0	0	100	初めて参加しましたがとても楽しかったです。
	0	100	ディスカッション楽しかったです。
	0	100	楽しくいろいろなことが学べていい経験になりました。
	0	100	複数のゲームとディスカッションができてよい時間を過ごせま
			Utc.
		100	初めて英会話をSLA教室で利用しましたが、これからも
0	0	100	続けていけるような感じでした、、、英会話できるようになりたいと思いました。
			英語でおしゃべりというのがなかなかできることではなかったた
	0	100	め、このような機会があってとても楽しかったです。また参加
			したいです!
		100	ディベート面白かったです。今まで知り合ったことのない人と
			英語で話せて楽しかったです⊙
	0	100	今日は発音なども勉強できて楽しかったです。
	0	100	クリスマスの詳しい話ができて楽しかったです。

			日本を外から見た視点のトークで面白かった。自分の文法
	0	80	カが落ちているのも分かってよかった。 (トークとは関係ないですが)
0	0	100	続けていきたいです。
0	0	100	おどろきがいっぱいでした
	0	100	発音について詳しく解説してくださり参考になりました。
	0	100	親切に対応してくださって嬉しかったです。初めての利用で したがまた来たいと思いました。
	0	100	カフェの利用は初めてでしたがたくさん話題を振ってくれて非常に英語の練習になりました。
0	0	100	楽しくできた。
0	0	100	途中から参加してもきちんと対応してもらい、とてもありがた かった。とても楽しい時間がすごせてよかった。
	0	100	様々なトピックについてディスカッションできたのでよかったで す。今日は話す量が少なかったので、次回はもっと多く話し たいです。
	0	100	とても長い時間会話できて、とても楽しくすごすことができま した。
	0	100	今日のアクティビティはとても楽しかったです。ぜひ、似たよう なアクティビティをいつかまたやりたいです。
0	0	100	久しぶりに英語がしゃべれてよかったです。
	0	100	I learned many useful English expressions. It was very good time! Thank you.
		100	ビデオを見たのが面白かった。
	0	100	日本人が気づかずに使っている間違った英語を知れて楽し かったです。
0	0	100	意外と親しみやすくて満足
	0	100	久しぶりに英会話をできて楽しかったです。また、推測ゲームとても楽しかったです。
		100	新しいフレーズを使えるようになりたい。
0	0	100	テスト期間に英語を話してリフレッシュできた。
0	0		たくさんしゃべれた。
0	0	100	町づくりのゲーム楽しかったです。テスト期間でしたが楽しく コミュニケーションがとれて気分転換になりました。
0	0	100	シャイにならずにたくさん話します!
0	0	100	たくさんディスカッションできて楽しかったです
0	0	120	どのように誤りの選択肢が誤っているのか、丁寧に指導して いただき参考になりました。
Δ	0	90	話す内容をうまく英語にできませんでした。
0	0	100	楽しく discussion とゲームできたのでよかったです。また、 文法や言い回しを会話中に教えていただいて勉強になりま した。
×	×	70	うまく英語で表現することができず、また自信もあまりなかっ た。
0	0		1 セメのころから英会話に参加したかったんですけど勇気がなくって…今回初めて参加したのですが、もっと早く来ればよかったと思いました。英会話力を上げてインターンシップ、短期留学に行きたいです。

#### ライティング

フ1	( ア	ィン	7
解	満	点	7/1
決	足	数	コメント
0	0	95	漠然としたレポートに導いてくれました。よいアドバイスを聞いてよかったです。
0	0	90	レポートの報告型課題に対して、どうすればよいのかという ことを、作成の前から教えていただいたので、疑問点を解 消することができました。
0	0	90	質問していることから丁寧に教えていただけて、なんとか解 決できそうです。
0	0	90	レポート返却後に何をすればいいか分からなかったので、 そのことについて考えることができて良かったです。
0	0	100	親切なサポートをもらって本当にうれしかったです。日本語 能力の腕をあげるいい機会だと思います。
0		90	助かりました!
0	0	100	難しかった部分を説明してもらって本当によかったです、あ りがとうございました。
0	0	100	寺川先生はとても親切で、大変たすけてくれました。あり がとうございました。
0	0	100	自分の困った問題を解決するだけでなく、解決方法もみ つけられとてもよかった。
0	0	100	1 人で考えられなかったことを手伝ってくださって本当に助かりました。
0	0	90	SLA のような場所があって学習や研究でいろんなことが 相談できることはとてもよいと思う
0	0	100	先輩たちはとてもやさしいですね。
0	0	85	レポートをより分かりやすくするにはどうすればよいかを、第 三者の視点で教えていただきました。ありがとうございました。あと、どうして分かりにくいのか、理由を教えていただけるとなお嬉しいです。
0	0	100	もやもやしていたアウトラインが明瞭になりました!
0	0	100	はじめて利用しましたが利用できてよかったです!また利 用したいです。
0	0	90	2つもレポートを見てアドバイスしていただき本当にありが とうございました!レポートがどうすれば分かりやすくなる か、何が不足しているかもしっかりとおしえていただきまし た。
0	0	100	参考文献の表示の別の方法を提案してもらってよかった です。
0	0	100	レポートの書き方がより分かった。次回質問があるときもま た利用したい。
Δ	Δ	100	問題点を明確にするのを手伝っていただいた。
0	0	100	専門分野の面白さを伝えるうえでの大きなキーワードを引き出していただいた。
0	0	100	疑問点以外も丁寧に対応していただき感謝しています。
		100	丁寧に対応してもらいありがとうございました。良いレボートになりそうです。
		95	書き方が全く分からなかったところから、とっかかりがつかめるまで一緒に考えていただけてありがたかったです。レポー

			トの考え方や形式・引用についてなども具体的な説明を いただけました。レポートを書くのが楽しくなりそうです。
0	0	100	丁寧な対応ありがとうございます。
0	0	100	私の中でもやもやしていた問題点を一緒に考えていただき、ありがとうがございました。レポートに関して、質問した以外に的確なアドバイスもいただきました。自分 1 人では解決できなかったので、本当に助かりました
0	0	100	レポートの書き方について細かく指導を受けたので、よりよ いレポートがかけそうな気がした。量子化学に対する理解 も深められた。
0	0	100	疑問点が解決したので SLA を受けて良かったです。良い レポートを書くために頑張ります。ありがとうございました。
0	0	100	的確なアドバイスを頂いたので良いレポートが書けそうです。読みやすさについても色々と意見をいただき、自分だけでは気づけなかったので、SLAを利用してよかったです。 本当にありがとうございました。
0	0	100	SLA でレポートの添削を受けるのはかなり有意義なので、皆におススメです。 言葉の間違いや意味の伝わりにくさなど、自分で気づきにくい改善点を教えてもらえます。 対応も優しくて親身です。
0	0	100	長い間レポートの作成についてのアドバイスでお世話になりました。 定稿まで頑張って仕上げたいと思います。 ありがとうございました。
0	0	100	何となくレポートを書き進めていったので、良い軌道修正 ができたと思います。ありがとうございました。
0	0	100	とても丁寧に教えてくださり、良いレポートにすることができ ると感じました。ありがとうございました。
0	0	95	初めてレポートを直してもらった。対応が丁寧なので、1 人だと気づかないこと、文章として使うと変な文になってし まうところなどを指摘してもらえた。
0	0	100	とても分かりやすい指導をいただけました。ありがとうござい ました。
0	0		最後まで丁寧に対応して下さり、とてもありがたかった。
0	0		文法の説明はとても分かりやすかったです。
0	0	99	今回2度目、レポートをチェックしてもらいました。チェックしているうちに、正しい日本語をもっと知ることができました。 チェックしてくれたおかげで、レポートを終わることができました。 ありがとうございます。
0	0	70	構成についてよく教えてくれたので、こちらも詳しく知ることができましたが、文章表現などについての指摘が少なかったかなと思いました。
0	0	100	ここに来てよかった!すごくたすかりました!!ありがとうご ざいます!!
0	0	90	文章でもチェックコレ頂きたいです。
0	0	100	自分では気づけなかった文章表現のクセや、レポートを書く上での分かりやすい流れを教えていただけました!雰囲気もとても良かったので、またレポートを書く機会があればぜひ活用したいです!
0	0	100	1 ねんせいでまずレポートがどういうもので、何を書くべきな のかあまり理解できていなかったので、こう書けば、書き始 めればいいというのが分かりました。

0	0	100	初めて SLA を利用して、自分の文章が論理性に欠けている(すごく)ことに気付きました。授業で言われず SLA を利用していなかったら…と思うと、来てよかったなと思います。
0	0	100	全体的なレポートの形式やレポートを書く目的を明確に 教えていただいたので、レポートの作成にすごく役立つと思 いました。
0	0	150	プレゼンテーションの構成について、どのように上手くまとめ ていけばよいか、ということをまとまりよく定めることができまし た。ありがとうございました。
0	0	100	今回は2回目のSLA利用でした。初回よりもきん張せず指導をうけられました。2回連続時間外のお願いもうしわけなかったです。ありがとうございました。また利用させてください!
0	0	100	文章の添削ができました。すごくていねいに見てくれまし た。
0	0	100	すごく丁寧に対応してくれた玉田さんの姿を見て、ライティングだけではなく SLA としての私にもすごく役に立ちました。

0	0	100	3回目の利用でした。初めてきちんとライティング対応時間に来れて良かったです。今回は3つも課題を持ち込んでしまいましたが、聴きたいこともある程度固まっており、それぞれについて的確にアドバイスをもらえたので、とてもうれしいです。またよろしくお願いします!
0	0	100	ライティングの指導とともに、仏語についてお話できたことが 嬉しかったです。ありがとうございました。
0	0	100	大変勉強になりました。
0	0	120	より分かりやすい表現にするために、普段から文章を書く際にどのような一文の構成にすればよいか、丁寧に指導して頂いてとても参考になりました。ありがとうございました。
0	0	80	レポートの流れを再検討することができました。
0	0	100	聞く内容もはっきりしない状態で行ったのに、どんどん引き 出してくださって、もっと良いレポートが書けそうな気がしま す。ありがとうございました!
0	0	100	丁寧にレポートの文法上のミスや構成のミスを教えてくれた! ありがとうございます!

# 日本語カフェ(企画)

解	満	点	= 45.1	
決	足	数	コメント	
0	0	100	知らない言葉を知りました。よかった!いろいろな言葉が 生活に役立ちます。担当のボランティアもやさしいです。	
0	0	100	会話の方法は好きです。練習しました。 あいさつについて 日本語は勉強したいです。	
0	0	100	really happy to be here	
0	0	100	新しいたんごを勉強してうれしいです。みなさんの生活も少し知ることができました。また、ここにきっと来ると思います。担当のボランティアがやさしいです。会話力がもうちょっとあがることが昨日です^-^	
0	0	100	うれしいです。人がやさしいです。みなさん一緒に会話は 有用的です。時間は長くになるといいです。	
0	0	100	このクラスで新しい友達を認めました。東北大に来た理由 について話しました。他人はいろな理由です。面白いで す。	
0	0	100	おもしろかった	
0	0	95	いろいろな日本に対して質問を聞いても大丈夫です。ずっ と困ってる問題も明らかに解決しました。ムムサークルと思った。	

0	0	100	いろいろな漢字の読み方を勉強しました。例えば、口述、 筆記、末吉、今日など漢字です。
0	0	100	今日は自分の入学試験の面接を練習しました。とても感謝します。これからも日本語話する能力を練習したいです。
0	0	100	前回に続き、レポートの形式や言葉使いに関する助言を いただきました。前回のときも、レポートを書く際にすごく役 立ちましたが、今回もすごく役立つと思います。
0	0	100	今日も入学試験の面接について練習しました。ありがとう ございました。
0	0	80	僕も気付かなかったような部分を指摘していただいて、とて も勉強になりました。
0	0	100	入学試験の面接練習、本当にありがとうございます。
0	0	100	今日も入学試験の面接を練習しました。本当にありがと うございます。
0	0	95	分からなかったことを全部教えてくれてとても良かったです。
0	0	100	今回の topic は最近読む本です。「巻」とか「中古本」と か勉強しました。よかったです。
0	0	90	教員はやさしいし、ゆっくり話すし、いいイベントと思う。もし 時間があれば、参加し続けたい。よろしくお願いします。

#### その他・科目不明

<del>て</del> 0	その他・科目不明			
解決	満足	点数	コメント	
0	0	100	ありがとうございました!	
0	0	100	とてもしんせつでした。	
		100	立式の修正をしてもらい助かりました。	
0	0	100	嬉しいです。	
0	0	100	自分の中で頭がモヤモヤした部分を実際に言葉にしたり アドバイスを聞いたりして、イメージができた。次の自分で 文献を読む段階に活かせると思う。	
0	0	100	条口も分からない内容でしたが細部まで分かりやすく対 応してくださり解決できました。よかったです。	
0	0	80	とても参考になった。	
0	0	100	自分で答えにたどりつけるように丁寧にしんぼうづよく教 えてもらってありがたかった。	
0	0	98	everything's good!	
0	0	100	疑問に思っていたことが少し解決しました。	
0	0	100	わかりやすかった。	
0	0	100	思ったよりもカンタンな問題でしたが SLA がなければ解けなかった。	
0	0	100	気軽に聞きにいける雰囲気が良いと思いました!	
0	0	100	勉強だけじゃなくて、進路の話もできて楽しかったで す!!	
0	0	90	有意義な時間を過ごせました。	
0	0		初めての利用でしたが、とてもわかりやすく助かりました。	
0	0	100	いっぱい質問に答えていただきありがとうございました	
0	0	100	こっちの時間がない中、辛抱強く解決してくれました。	

0	0	90	言いたいことを推測して話してくださったのはうれしいので すが、自分で言うか、言い直すかしたかったです。
			謝謝
	0	90	ありがとうございました。
0		100	話しも聞いてもらえてよかったです。
0	0	100	発展的内容も含めてしっかりと教えてくださったので理解 できました。ありがたいです。
	0	90	会話を円滑に進めてくれてよかった。
0	0	100	とても丁寧にグラフの書き方を教えていただき、また統計 も教えていただきとても助かりました。
0	0	90	とても参考になる話がきけた。
0	0	100	丁寧な対応ありがとうございました。 最終調整がんばります。
0	0	5000 兆	わかりやすかったです。
0	0	100	日本語の表現を直していただいて本当に助かりました。
		95	うわあああ
0	0	100	分かりやすく教えて頂けて、とても助かりました!!
0	0	100	よかった (小並感)
×	0		参考にできる本があってよかった。丁寧に説明して下さっ た。
0	0	100	解決できた
			使える用語がふえた。
0	0	80	既約表現への簡約が理解できた気がします。復習しま す。
0	0	90	ちょっと今までよりレベルが高くて難しかったです!分からない単語があったときに気軽に聞けるよう、私ももっと積極的になれるよう頑張ります。

#### ■資料 B 夏期研修ワークショップ成果物

#### 「三位一体」グループ

#### SLAができること

─数・物・ライの三位一体─

2017年9月11-12日 in SLAラウンジ

チーム:三位一体



#### 分からないことを素直に聞けるようにする

- ・説明の前に声かけ
- 学生のモヤモヤを言語化する
- 分からないことは倒していこう
- SLA側が自分が学んでいるときには分からなかったと伝える



#### イメージを持ってもらう

- ・ 実物をみせる(レポート・辞書)
- ヒントを与えて自分で考える時間を作る
- SLA側のイメージを伝えてみる
- それぞれの人の特性に合った説明をする
- 図や図式やレポートのアウトラインを書く・書いてもらう(見える化)



#### 日頃からの学びを大切にしてもらう

- 学びにいかに時間がかかるかを伝える
- 学びにかかった時間の実体験を伝える
- ・ 学問の面白さを語る
- ゆるいけど学問に接続しているイベントを行う (考えるソファー 研究紹介)
- 今学習している事の見通しを伝えることでモチベーションを高めてもらう



#### 目次

- 分からないことを素直に聞けるようにする
- 学生が問題の解決方法を自分で考えられるよう にする
- イメージを持ってもらう
- SLAを最大限に有効活用してもらう
- 日頃からの学びを大切にしてもらう
- 情報収集を促す



#### 学生が問題の解決方法を自分で考えられる ようにする

- 問題の分割をするとよいと伝える
- 伝えたうえで(学生の思考を待ってみて)分割が 難しい場合はSLA側が問題の分割方法を提示する
- 簡単な具体例を考えてもらうよう誘導する
- 問題の意味が分かるようになるためのアプロー チの方法を伝える
- 問題が難しいときは難易度の再設定を提案する



#### SLAを最大限に有効活用してもらう

- ・ 利用者に利用方法を丁寧に伝えていく
- ・ 広報の仕方を工夫する
- できないことでも「肉のないカレーを美味しくする」
- SLAのできる/できないことを知ってもらう





#### 情報収集を促す

- 対応において教科書を色々参照してみることで 著者による説明の違いを実感してもらう
- 物事を批判的・多元的にみるのが大学の学びであることを伝える
- 教科書の誤植・あやまりもあり教科書が完璧ではないことを理解してもらう
- インターネットの活用をすすめる(信憑性に注意 してもらいつつ)
- ・ 授業だけでなく主体的な情報収集の必要性を説く



2017年9月11-12日 in SLAラウンジ



#### **Outline**



- 事前準備
- モチベーション
- コミュニケーション&表現力



#### モチベーション

現実 ・テスト対策で終わる ・単位のため 理想 ・学生から話を聞く ・SLAと白熱した議論をす ×

SLAができるこ



- ・身近な内容に絡めて説明する
- ·SLAが体験談を話す
- ・SLA自身が高いモチベーションを持つ



#### まとめ

まずは最強のSLAとなるために

- ・事前準備
- ・モチベーション
- ・コミュニケーション・表現力

に注目したが、道はまだ長い…



#### チーム・アミノ酸の由来

珍田(CHinda)、大野(Ohno)、野本(Nomoto)

C,H,O,Nを使ってチーム名を決めたい…

化学式っぽくね???

アミノ酸でよくね??? ↓

アミノ酸に決定



#### 事前準備

現実 ・手を動かさない ・調べない ・自信が無い 理想 ・考えた形跡を示せる ・分かっているところま でを説明できる

SLAができるこ



- ・調べ方を教える(本の読み方)
- ・多少の厳しさをもって指導する
- ・解決策を教えて手段を増やす
- ・やってきていることを褒める
- ・様々な方法を共に調べる



#### コミュニケーション&表現力

現実・反応が薄い・分からないところを伝えられない・受け身な態度、反応

理想 ・友達以上、先生未満 ・自ら話す姿勢 ・自発的な態度、反応

SLAができるこ



- ・コンサル時に雑談をする
- ・名前で呼ぶ
- 顔を見て話す
- ・話を整理してSLAが喋る



料

7

#### 「SLA ファーストの会」グループ

#### 理想の学生像

①コミュニケーション(発信・受信)ができる

②知的好奇心があってそれを行動に移せる(自律的 学習者)



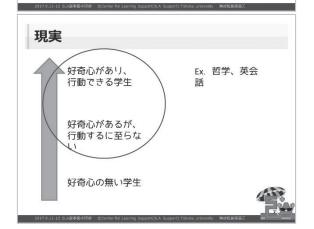
#### コミュニケーション=発信+受信+0

	<ul><li>自分のアイデアを考え出すことができる。</li><li>例) 私はこう思う、など。</li></ul>	2
	ロ 他者に配慮したコミュニケーションが取れる。 例) 相手の話を切らない。	2
直接	<ul><li>自分から議論を切り出すことができる。</li><li>例) 沈黙をやぶる。</li></ul>	3
直接場面	ロ 自分の意見を論理だてて相手に説明できる。 例)結論から言うとへ。なぜなら~。	3
0.50%	□ 相手の意見を理解できる。 例) つまり、どういうことが言いたいのか?を把握する。	3
	ロ 具体例を挙げて議論ができる。 例)抽象的な話を身近なたとえ話をもちいて説明する。	2

#### 新しいイベント

#### 英語で伝言ゲーム

・短めのストーリーを英語で伝言する。伝言 するためには相手の話をよく聞かなければな らない。また限られた英語力だとパラフレー ズせざるを得ないので、発信の練習にもなる。



①コミュニケーション(発信・受信)ができる



#### SLA側の対応例

- アクティビティの最初に「ルール」を説明する。
  ・相手の話を切らない。「考えるソファ」では毎回説明している(企画)。
  ・事前に「質問してね」と伝える(英語)。
  アクティビティの最中・
  「〜」だと思う」に対して「それはどういう理由から?」
  「具体例を思いっく?」などと問いかける。
  ・必要に応じて「結論から言うと〜」「なせなら〜」といった便利表現を紹介する。

②知的好奇心があってそれを行動に移せる (自律的学習者)



#### SLAとして何ができるか

- ・行動への敷居を低くする。
  - 「美術館案内」 一人では行きづらい、という人へ 「Coffee Talk」難しい分野に、別の切り口を
- ・行動の仕方を伝える。 「メディアの紹介」 TEDとか、オバマ大統領のスピーチとか。 →英語の勉強(行動)の方法を示す



#### 「永谷園」グループ



#### 自主性

- ・ 勉強の仕方を自分なりに考える。
- ・ 勉強の計画ができる。
- 大学でやりたいことが明確。
- 図書館で本を調べる。
- わからないことを分析する。
- 積極的に自分の手を動かす。



#### 根性

- ・ 難しい問題にも積極的に挑戦する
- ・ 図書館でいろいろな本を調べる
- ・ 解き方がわからないときも手を動かしてみる
- 方針が見えたら「まずは自分でやってみよう!」と思う
- ・ 躓いた問題の例題・類題を探してみる



#### SLAとしてできること

#### 自主性

情熱

手を動かしてもらう働きかけ

楽しさを伝える

# 一緒に経験する

### 根性

大変

→苦労の共有⇔達成感の共有

考えを導く質問をする わざと間違ったことを言ったり、 わからないふりをする

#### 我々の願い

# 自律した大人になって欲しい

自主性

情熱

根性

相互作用



#### 情熱

- ・ 勉強以外の楽しみを持つ
- 大学でやりたいことを明確にしている
- 今の問題(授業)がどんな学問に繋がっているか興味を持つ
- 目標を持って学ぶ



#### 相互作用(表現力)

- わからないところを質問する。
- SLAの話を批判的に聴く。
- 質問に反応する。
- 自分の考えを詳しく説明できる。
- 自分の分からなさを言葉にできる。



#### 分からなさの言語化

学生には「分からなさの言語化」を出来て欲しい しかし、とても難易度が高い

- ▶ 分からなさを自分で分析し
- ▶ それを言葉で表現する

ナラティブ・モ デル



## まとめ

時には**自転車を後ろで支える親**のように… 時には背中で語る**憧れの人**のように… 時には長い**マラソンの伴走者**のように… 時には**語り合う友**として…

学生と**ともそだちする先輩**でありたい



# 資 料

#### ■資料 C 2017 年度発行ポスター





Tohoku University Student Learning Adviser

@SLAラウンジ (M棟1階) 予約不要

学部オリエンテーション で配布された冊子です!

東北大学レポート指南書

第1回目に参加しそびれた方 レポートの書き方をマスターしよう 「本を読むだけではわかりにくい」

というあなたに、ワーク形式で 身につく入門ゼミをお届けします!

\*\*\* PROGRAM \*\*\*

1 思考を整理して問いを立てよう! ーマインドマップ活用術ー 6/12(月) 6/14(水) ---1章相当

3 誰でもできる!わかりやすい文章 - パラク゚ラフライティンク゚の書き方-6/26(月) 6/28(水) - 3章相当

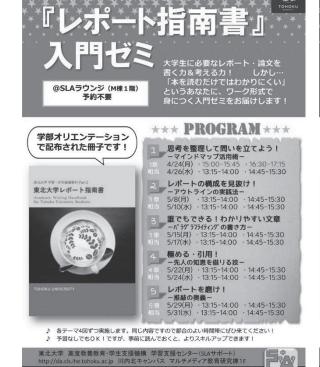
2 レポートの構成を見抜け!

ーアウトラインの実践法ー 6/19(月) 6/21(水)

4 極める・引用! -先人の知恵を借りる技-7/3(月) 7/5(水)

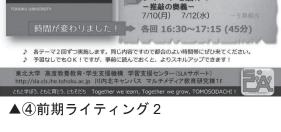
5 レポートを磨け!

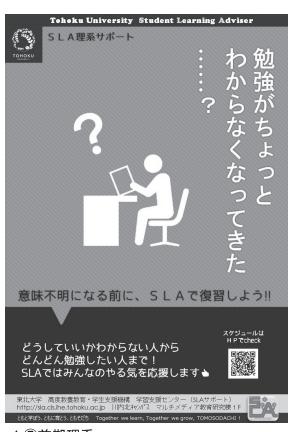
Tohoku University Student Learning Adviser



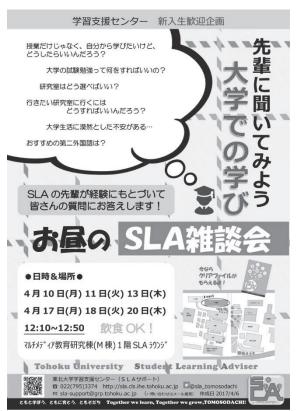
▲③前期ライティング

Tohoku University Student Learning Adviser





▲⑤前期理系



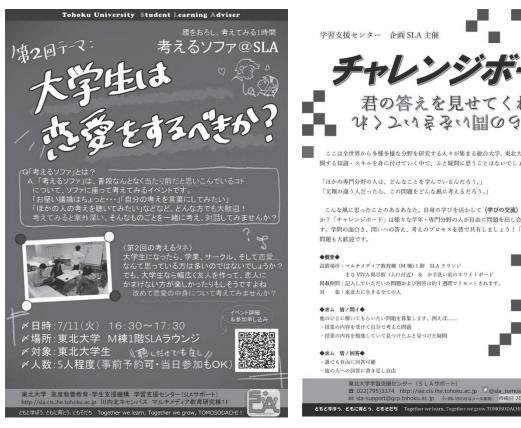
▲⑦前期企画 1



▲⑥前期総合2



▲⑧前期企画 2



#### ▲9前期企画3



▲⑨前期企画 5



#### ▲⑩前期企画 4



▲⑩前期 SLA 募集







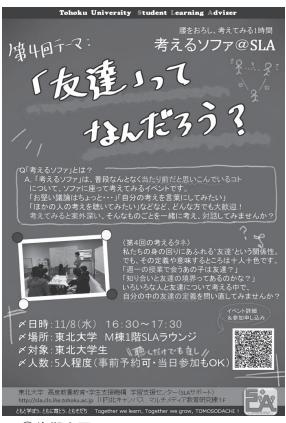
▲③後期ライティング



▲12後期英会話



▲(4)後期企画 1



#### ▲15後期企画 2



▲ 13後期企画 4



▲ 16後期企画 3



▲40後期企画 5 (イベント 1)



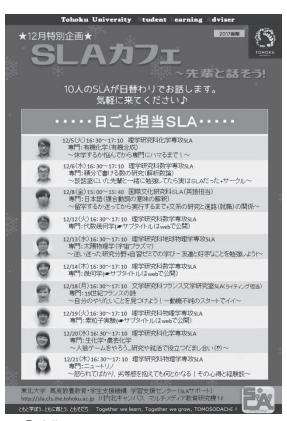
▲15後期企画 6



▲⑪後期イベント 3-1



▲16後期イベント2

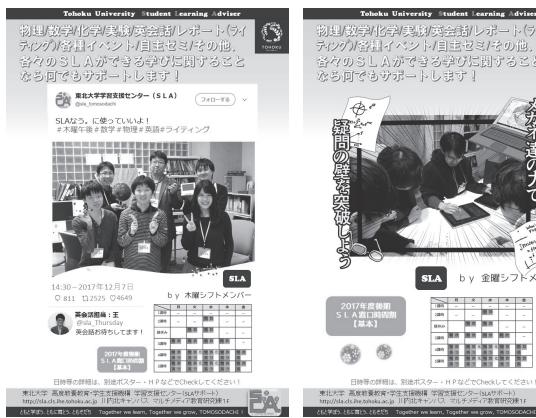


▲®後期イベント 3-2

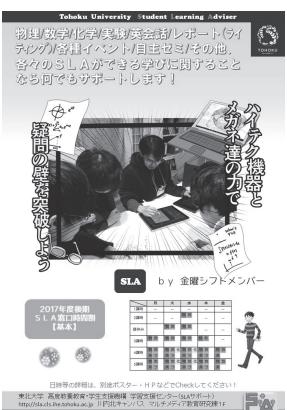




#### ▲19関西大学での発表



▲②1木曜シフト作成ポスター



▲<br />
②木曜シフト作成ポスター



質問の仕方を学べます! 何が必要な知識なのか一緒に考 えていきます。

「なんとなくわからない」 。でも大丈夫!



ぜひ気軽に立ち寄ってみてね♪



▲<a>②利用促進ポスター1</a>

#### エスエルエーコてじつは・・・

理系科目の質問は、文系学生の 皆さんにも開かれています!

統計系の質問や経済数学 の計算、自然科学総合実験 の質問など…!



▲②利用促進ポスター2

#### エズエルエーつてじつは・・・

1時間でも2時間でも あなたの疑問に おつきあいします!!



※注意 他の質問学生さんがいない場合



ともと学ぼう、ともに育とう、ともそだち Together we learn, Together we grow, TOMOSODACHI!

▲②利用促進ポスター3

#### エスエルエーってじつは・・・

グ部生からドクター生まで 、 幅広い学生がいるんです



※SLAの情報が知りたい場合は SLAサポート室壁面に自己紹介が 掲載されているので見てみてね!



▲26利用促進ポスター4







▲<br/>
②利用促進ポスター7



▲30利用促進ポスター8



▲③利用促進ポスター9



▲ ③ 後期 SLA 募集 1



▲3②利用促進ポスター10



▲ 34後期 SLA 募集 2



# ■資料 D 2017 年度学習支援センター活動略歴

一 只作 ロ	2017 7	- 反ナ日又版ピング 心到响症		
	4 日	前期活動説明会・初任者研修、企画部会 第1回定例ミーティング		
	7日	センター定例ミーティング(第1回)		
	10 日	数学、ライティング部会キックオフミーティング		
4 🖯	11日	物理、英語部会キックオフミーティング、SLA 雑談会(~20 日)		
4月	12日	化学部会キックオフミーティング、企画部会 第2回定例ミーティング		
	17日	【SLA 通常活動開始(窓口 OPEN)】		
	24 日	『レポート指南書』入門ゼミ 第 1 クール目 開始 (~5 月 31 日)		
	26 日	第2回アカデミックスキル入門セミナー		
	1日	企画部会 第3回定例ミーティング		
5月	2 日	センター定例ミーティング(第2回)		
3月	18日	シニア SLA 第 1 回ミーティング		
	30日	化学、ライティング部会 第2回定例ミーティング		
	1日	数学、英語部会 第2回定例ミーティング		
	7日	物理部会 第2回定例ミーティング		
	10日	萩友会 東北大学懇談会 自由見学開放		
6月	12 日	『レポート指南書』入門ゼミ 第 2 クール目 開始 (~7 月 12 日)		
	13日	センター定例ミーティング(第3回)		
	14 日	企画部会 第4回定例ミーティング		
	27日	考えるソファ 開催開始		
	4日	センター定例ミーティング(第4回)		
	7日	数学、英語部会 第3回定例ミーティング		
	10日	ライティング部会 第3回定例ミーティング、企画部会 第5回定例ミーティング		
	11日	SLA 共通研修 No.1 開催		
7月	13日	物理、化学部会 第3回定例ミーティング		
	19日	日本語カフェ 開催開始		
	25-26 日	オープンキャンパス		
	27 日	宮城県仙台向山高校様 ご来訪		
	29 日	関西大学 交渉学ワークショップ参加及びポスター発表(教員、SLA)		
	4日	【SLA 通常活動終了(窓口 CLOSE)】		
	7日	シニア SLA 第 2 回ミーティング、物理部会 第 4 回定例ミーティング		
8月	8日	数学、化学、英語、ライティング部会 第4回定例ミーティング		
	24-25 日	東北·北海道地区共通教育研究会 報告(教員)		
	25 日	岩手大学様で来訪		
	*学期末採用活動			
9月	4日	センター定例ミーティング(第5回)		
	11-12 日	SLA 夏期研修実施		
	4日	後期活動説明会		
	10日	【SLA 通常活動開始(窓口 OPEN)】		
		センター定例ミーティング(第6回)		
10月		企画部会 後期第1回定例ミーティング		
10/1	12 日	ライティング部会 後期第1回定例ミーティング		
	16 日	物理部会 後期第1回定例ミーティング		
	18日	化学、英語部会 後期第1回定例ミーティング		
	20 日	数学部会 後期第1回定例ミーティング		

	24日	滋賀大学様で来訪	
	25 日	考えるソファ 後期開催開始	
	6日	センター定例ミーティング(第7回)	
	8日	シニア SLA 第3回ミーティング	
	13 日	『レポート指南書』入門ゼミ 第3クール目 開始 (~12月13日)	
11日	16日	日本語カフェ後期開催開始	
11月	21 日	化学部会後期第2回定例ミーティング	
	22 日	物理部会後期第2回定例ミーティング	
	18日	ライティング部会 後期第2回定例ミーティング	
	30日	英語部会 後期第2回定例ミーティング	
	4日	センター定例ミーティング(第8回)	
12月	5日	企画部会後期第3回定例ミーティング	
12 /5	э Ц	SLA カフェ 開催 (~21 日)	
	11日	てつがくカフェ@東北大学 兼 SLA 共通研修 No.2 開催	
	9日	センター定例ミーティング(第9回)	
	9 🗆	CLS"学びの転換"セミナー 兼 SLA 共通研修 No.3 開催	
1月	10日	企画部会後期第4回定例ミーティング	
1/3	17日	物理部会後期第3回定例ミーティング	
	24 日	数学、化学、英語部会後期第3回定例ミーティング	
	23 日	ライティング部会 後期第3回定例ミーティング	
	*学期末採用活動		
	2 日	【SLA 通常活動終了(窓口 CLOSE)】	
	5 日	センター定例ミーティング (第 10 回)	
		物理部会後期第4回定例ミーティング	
	6日	ライティング部会 後期第4回定例ミーティング	
	7日	数学部会後期第4回定例ミーティング	
2月	8日	企画部会後期第5回定例ミーティング	
	14日	英語部会後期第4回定例ミーティング	
	16 日	宇都宮大学様で来訪	
	10 11	化学部会後期第4回定例ミーティング	
	19日	高知大学様で来訪	
	22 日	センター臨時ミーティング	
	28日	後期活動報告会・卒業生送別会	
	* 各種次年	度準備作業 *SLA 年度末ヒアリング	
3月	5 日	北海道大学・福島大学合同研修 開催	
2 / 3	6日	センター定例ミーティング (第 11 回)	
	26 日	センター定例ミーティング (第 12 回)	

#### =編集後記=

『学習支援センター (SLA サポート) 年次活動報告書』も 2017 年度で第 4 号の刊行となりました。学習支援センターは、高度教養教育・学生支援機構(以下、機構)の設立 (2014 年 4 月) に伴い、機構内の 11 の業務センターの 1 つとして設置されました。2017 年度は、SLA サポート事業の始動からは 8 年目、学習支援センターの発足から 4 年目となり、様々な面で総括の 1 年となりました。

学習支援センターにおける 2017 年度の重点課題は、センター員や SLA がこれまでの実践の中で蓄積してきた知見を総括し、効果的かつ効率的に次年度以降に繋いでいく事でした。8 年間に及ぶ SLA サポートの実践は、特に理系科目支援を中心として、実績を積み重ねてきました。その中には成功も失敗もありましたが、現在の学習支援センターがあるのは、それらの組織的な経験を経ながら、試行錯誤と創意工夫を凝らしてきた挑戦の成果であると思っています。

SLA を含めた当センターのスタッフ体制は、毎年入れ替わりが生じ得ます。その状況下で、センターとして安定的で実効的な運営をどう実現するのかが近年の課題となっていました。そこで 2017 年度は、特に SLA の育成・研修に関して蓄積された知見を総括的に整理し、体系化する事によって、SLA 研修教材作成に取り組みました。その成果が、足立佳菜助手の編により作成された冊子『学習支援ハンドブック』です。同時に、SLA の手により部会ごとに「SLA Tips」を作成し、その知見を資料化することができました。

2017 年度は、学内の連携・協働を推進・強化できた1年ともなりました。機構内の他の業務センターはもちろんですが、ライティング支援や各学習イベントの開催等において、附属図書館と積極的な連携を図る体制が構築できました。

言うまでもなく、学習支援センターが単独で実現できる学習支援の取組には限界があります。今後もさらに、東北大学における教養教育の充実と学生支援の強化に資するべく、学内の様々な部局・部署・センター等と協力・連携していきたいと考えています。同時に、高等教育における学習支援の充実に向けて、学外の学習支援組織とも積極的に連携・協働できればと願っています。

末筆となりましたが、これまでの8年間、SLAサポート事業の開発と実践を支えてきてくれた足立佳菜助手はじめ、ここまで当センターの取組を支援してくださったすべての皆様に、この場を借りてお礼を申し上げます。

(佐藤 智子)

学習支援センター(SLA サポート)年次活動報告書 -2017 年度 - Annual Report 2017 / Center for Learning Support(SLA Support Office)

発行 2018年12月31日

編集 東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター

連絡先 〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 番地 マルチメディア教育研究棟 1F

学習支援センター(SLA サポート)

WEB http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA 学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。 ※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。

Together we learn, Together we grow, "TOMOSODACHI"!

with Student Learning Adviser